

学校自己評価

調査研究報告書

平成14年2月

岡山県教育委員会

目 次

I はじめに	1
II 学校自己評価実施上の留意事項	3
III 県立岡山朝日高等学校における実践事例	8
IV 県立水島工業高等学校における実践事例	24
V 県立井原高等学校における実践事例	39
VI 県立東備養護学校における実践事例	56

I はじめに

1 学校自己評価のねらい

これからの学校づくりの推進には、各学校が地域の信頼にこたえ、家庭や地域と連携協力した教育活動を展開し、学校を地域に開かれたものにする必要があるとされており、そのため、学校自己評価を実施するためのシステムの整備や、保護者・地域住民への説明責任が求められている。

学校自己評価は、教育課程の編成・実施状況、指導方法や指導体制の工夫改善の状況、児童生徒の学習状況等を点検し、教育課程や指導計画、指導方法等について絶えず見直しや改善を行い、特色ある教育活動を推進するとともに、その達成状況等を保護者や地域住民に説明し、開かれた学校を構築するために行うものであり、そのねらいは、次のようにまとめることができる。

(a) 「開かれた学校づくり」からのねらい

学校が自己点検する姿勢を明らかにすることによって学校の経営責任を明確化し、保護者や地域住民に理解され、支援される開かれた学校づくりを進める。

(b) 「特色ある学校づくり」からのねらい

校長のリーダーシップと全教職員の共通理解の下、学校の教育目標の達成を目指して学校組織と教育活動を活性化し、特色ある学校づくりを進める。

(1) 中央教育審議会答申（平成10年9月）

中央教育審議会は、平成10年9月に、学校と地域の在り方や、それを支える教育委員会の在り方などに関する「今後の地方教育行政の在り方について」を答申した。

この答申の第3章「学校の自主性・自律性の確立について」では、地域住民の学校運営への参画が掲げられ、「学校が地域住民の信頼にこたえ、家庭や地域が連携協力して教育活動を展開するためには、学校を開かれたものとするとともに、学校の経営責任を明らかにするための取組が必要である。このような観点から、学校の教育目標とそれに基づく具体的教育計画、またその実施状況についての自己評価を、それぞれ、保護者や地域住民に説明することが必要である。」との提言がなされた。

そして、その具体的改善方策として、「各学校においては、教育目標や教育計画等を年度当初に保護者や地域住民に説明するとともに、その達成状況等に関する自己評価を実施し、保護者や地域住民に説明するように努めること。また、自己評価が適切に行われるよう、その方法等について研究を進めること。」が示された。

(2) 教育課程審議会答申（平成12年12月）

教育課程審議会は、平成12年12月に、新しい学習指導要領のねらいを実現するための「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」を答申し、今後の児童生徒の学習の評価の在り方、学習指導要領に示す目標・内容の達成状況の評価の在り方及び教育課程の実施状況等から見た学校の自己点検・自己評価の在り方について提言した。

この答申の第4章には「教育課程の実施状況等から見た学校の自己点検・自己評価の推進」が掲げられ、次の4点が提言された。

- ① 各学校が、児童生徒の学習状況や教育課程の実施状況等の自己点検・自己評価を行い、それに基づき、学校の教育課程や指導計画、指導方法等について絶えず見直しを行い改善を図ることは、学校の責務である。
- ② 各学校が行う自己点検・自己評価の内容としては、教育課程の編成状況・実施状況、指導方法や指導体制の工夫改善の状況、児童生徒の学習状況等があるが、具体的な項目、方法等は、各学校や設置者が地域や学校の実態に応じて適切に工夫する必要がある。
- ③ 各学校における自己点検・自己評価に当たっては、学校評議員制度を活用することなどにより、結果を保護者や地域の人々に説明することが重要である。また、点検・評価の実施に当たっても、保護者や地域の人々の声を参考に進めることが大切である。
- ④ 今後、各学校における自己点検・自己評価が適切に行われるよう、関係機関において自己点検・自己評価の内容、方法、公表の在り方等についての研究開発を進めることが必要であ

り、それらに基づく各学校での実践を進めることが期待される。

2 学校自己評価調査研究モデル校事業

岡山県教育委員会では、平成12年度に「学校自己評価調査研究モデル校事業」を策定し、県立学校4校（岡山朝日高等学校、水島工業高等学校、井原高等学校、東備養護学校）を学校自己評価調査研究モデル校（以下、「モデル校」と略す。）に指定し、次に示す実施要項に従って調査研究を進めた。本冊子は、その成果をまとめたものである。

学校自己評価調査研究モデル校事業 実施要項

- 1 趣旨
県立学校における学校自己評価の評価項目や評価方法、その活用の在り方等について調査研究を行い、もって県立学校の教育の充実に資する。
- 2 期間
調査研究の期間は、原則として平成12年度及び平成13年度の2年間とする。
- 3 内容
モデル校は、次に示す課題について調査研究を行う。
 - (1) 自己評価の在り方について
 - ① 学校の教育目標の設定について
 - ② 評価項目について
 - ③ 評価基準について
 - ④ 評価実施対象者について
 - ⑤ 実施時期について
 - (2) 保護者や地域住民への説明の在り方について
 - (3) 学校自己評価結果の活用の在り方について
 - (4) その他
- 4 運営
 - (1) モデル校は、校内の研究体制を整備し、計画的、継続的に調査研究を進めるものとする。
 - (2) モデル校は、県教育委員会と密接な連絡を取り、その指導・助言の下にそれぞれ調査研究を進めるものとする。
 - (3) モデル校は、各年度のはじめに調査研究計画書を県教育委員会に提出するものとする。
 - (4) モデル校は、各年度の終わりにはその調査研究の進捗状況について調査研究の概要を県教育委員会に提出するものとする。
 - (5) モデル校は、必要に応じ、調査研究の成果を公表することができるものとする。
 - (6) 県教育委員会は、モデル校の適切な運営に資するため、学校自己評価調査研究モデル校連絡協議会を開催する。
- 5 経費
県教育委員会は、予算の範囲内で調査研究のための経費を毎年度支出する。

3 岡山県立学校の管理運営に関する規則

平成13年3月23日、「岡山県立学校の管理運営に関する規則」が制定され、同年4月1日から施行されている。この規則において、「第71条 学校の自己評価等」が新規に設定された。（ただし、これに係る規定は、平成14年4月1日から施行。）

第71条 校長は、学校における教育活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を保護者及び地域住民に説明するものとする。

- (1) 趣旨
本条は、開かれた学校づくりを進める観点から、学校の教育活動等の状況を自己評価し、その結果を保護者等にも説明して意見を求め、それらを踏まえて学校運営等の改善に結び付けて

いくために定められたものである。

(2) 解釈及び運用

- ① 「学校における教育活動等」とは、「学校の教育目標、教育計画、教育活動」のことであるが、教育課程の編成・実施状況などの教育活動面と施設・設備面などが考えられる。
- ② 「自ら点検及び評価」を行うためには、事前に点検・評価項目や評価基準などを作成するとともに、評価実施者を教職員だけとするのか、保護者や生徒まで拡大するのか、その場合の評価結果の取扱いなどを定めておく必要がある。
- ③ 「結果を説明」するに当たっては、どのような方法で、どのような内容について説明するのか検討しておく必要がある。また、説明した後、保護者や地域住民から意見を求め、それを学校運営の改善に生かすよう努めなければならないが、その手順などについても定めておく必要がある。
- ④ 「地域住民」とは、学区の広い高等学校にあっては、地域住民をどのようにとられるかは難しい問題である。一つの方法としては、ホームページでの紹介や市町村の広報誌への掲載などが考えられるが、学校評議員制度と関連を図ることも望まれる。
- ⑤ 学校自己評価を円滑に実施し、有効なものとするためには、校長は、年度はじめなど機会をとらえて、保護者等に対し学校の教育目標や教育方針等を説明するとともに、学校自己評価の趣旨やシステムを十分理解してもらうことが大切である。
- ⑥ 本条については、平成14年4月1日から施行される。（平成12年度から試行中）

II 学校自己評価実施上の留意事項

1 「評価」とは

学校の教育活動は、計画・実践・評価という一連の活動を繰り返しながら行われるものである。したがって、教育活動における「評価」とは、教育目標の達成状況を確認し、その結果に応じてその後の教育計画を調整する活動であると言える。これは、学校評価についても学習評価についても同じであり、基本的には「誰が（評価実施対象者）」「いつ（評価実施時期）」「何を（評価項目）」「どのように（評価方法）」「どの程度（評価基準）」評価するのかなどの評価計画に沿って実施することになる。

2 目標の設定

評価を行うためには、目標が明確にされていなければならない。学校自己評価を学校全体で進めていくには、各学校が学校・生徒・地域の実態等に応じて学校の教育目標や教育方針等を策定するなど、目標を明確化するとともに、それを、教職員研修や職員会議等を通して共通理解を図り深めていく必要がある。そして、学校自己評価を円滑に実施するために、学校自己評価の趣旨や内容も含めて、年度はじめなどに保護者等に対し教育目標等を説明することが大切である。

なお、各学校では、学校自己評価の計画・実施等についての企画、運営上生じる諸問題についての連絡・調整、評価結果を基にした改善策の立案等に当たる組織（委員会や分掌）を設置することが必要である。（各モデル校での組織を参照。）

3 評価項目

評価項目は、学習評価での「評価規準」、つまり、評価の質的な基準に相当するものである。学校自己評価における評価項目を大別すると、教育課程の編成・実施状況等に関する「教育活動に関する評価項目」と、施設・設備や管理運営面等に関する「教育諸条件に関する評価項目」に分けることができる。また、「県内の学校に共通する評価項目」と「学校独自の評価項目」という分類や、「内部評価（教職員による評価）の項目」と「外部評価（教職員以外による評価）の項目」という分類も考えられる。学校自己評価における評価項目の設定に当たっては、教育目標等を踏まえて、一面的な項目に偏るのではなく、観点を設けるなどして多面的に設定することが大切である。

4 県立学校に共通する評価項目

県立学校については、教育活動に関する内部評価に関して、共通する評価項目（以下、「共通項目」と略す。）を示した。これを別表（p. 6～7）に示す。共通項目は、岡山県の教育行政の目標や方針を示した『おかやま教育ビジョン（平成11年3月）』の基本方針に基づき、

【観点Ⅰ】豊かな心を培う教育

【観点Ⅱ】個性と創造力をはぐくむ教育

【観点Ⅲ】学校・家庭・地域社会の連携

を三つの観点として設定した。そして、各観点について、教育課程等の学校の教育活動に関する評価の項目となりうるものを抽出して設定するとともに、学校の教育活動の実態を具体的に把握するための設問例（教職員対象）を示した。各学校においては、Ⅰ～Ⅲの三つの観点に基づき、学校の実態、評価の時期や対象者等に応じて、それぞれの評価項目及び設問例の全部又は一部を選定・改変・統合・細分化などして、評価項目を設定していただきたい。

なお、各学校は、校種・学部・学科・課程等をはじめとして、それぞれ特色を有しているため、その学校の教育活動を評価するには、その学校独自の評価項目が必要である。したがって、共通項目のほかに、学習指導・生徒指導・進路指導等について更に細かい観点・項目を設けたり、学科の特性や生徒会活動等に焦点を当てた観点・項目を設けたりして、学校独自の観点・評価項目・設問を作成することも必要である。

また、共通項目は、学校自己評価の中心に位置する「教育活動に関する評価項目」についてのみを示しているため、施設の整備状況や安全面に関する危機管理などの「教育諸条件に関する項目」や、生徒・保護者等を対象とした「外部評価（教職員以外による評価）の項目」については、各校独自に評価項目や設問を作成していただきたい。

5 評価方法・評価基準

各項目の達成状況等をみるためには、評価項目・評価実施対象者・評価実施時期等に応じて評価方法を選定する必要がある。評価方法としては、評価票によるアンケート式、文章による記述式、口頭による感想発表式等が考えられるが、達成状況をより客観的に把握しようとする点から、評価票によるアンケート式が最も多く利用されている。

アンケート式の評価方法における評価基準については、評価の観点や項目によって段階を変えることも考えられるが、3～5段階で基準を設けている例が一般的である。各モデル校では、「よく当てはまる・やや当てはまる・あまり当てはまらない・まったく当てはまらない」などの4段階を採用している。3段階又は5段階では、「どちらともいえない」などがあるため、これを選択することが多くなり、評価結果が分析しにくくなるようであるが、どうしても判断がつかない場合には、「空欄でよい」ということで対応は可能である。

評価項目の数や評価票（調査用紙）での設問の数は、多ければ正確・精密な評価に結び付くが、逆に多すぎると、処理・分析等に膨大な時間を要するとともに、実施対象者によっては、時間的な制約などにより真意を引き出すことができにくい恐れがある。したがって、校長・教職員を対象とするものについては、40～60程度に、生徒・保護者等を対象とするものについては、20～30程度に精選することが望ましい。また、記名とするか無記名とするかについても、評価実施対象者や評価項目等に応じて事前に検討しておくべきである。

なお、各項目・各設問ごとの成果や問題点を具体的に求めるためや、評価項目以外についてより幅広い評価を求めるためには、文章記述の欄を設けるなどの工夫をし、それを加味して評価することも大切である。アンケート式の評価方法のみに頼るのではなく、記述式や感想発表式等を適宜取り入れるとともに、様々な機会に収集した記録や資料に基づいて、より総合的、客観的な評価をしていく必要がある。

6 評価実施対象者

評価実施対象者としては、学校経営の責任者としての校長、教育の直接の担当者である教職員、教育を受ける側である生徒、保護者・地域住民等が考えられる。実施対象者の範囲をどの程度とするかは、各学校の実情、評価項目、実施時期等によって検討することとなるが、学校評価の客観性を高める上では、教職員以外を対象とした外部評価を適宜取り入れることが望ましい。

7 評価実施時期

学校自己評価は、その結果を次年度の教育計画に生かすことなどが前提であるため、年度末に総合的な評価を実施することが一般的であるが、評価結果を分析し改善に結び付けるためには、全教職員の協力が必要があるため、2学期末又は3学期当初に実施する方が望ましい。また、形成的な評価については、各学期ごとや学校行事終了時などに実施し、その年度内での指導の改善や指導計画の調整などに結び付けていくとともに、その評価結果を年度末の評価に活用することも必要である。

8 評価結果の活用

評価では、教育目標の達成状況を確認するだけでなく、その後の教育活動を調整・改善することに意義がある。したがって、評価票等による調査を実施することは、評価活動の一部に過ぎず、その評価結果をどのように活用するのかが重要となる。つまり、学校自己評価を通して、その学校の特長や問題点を的確に把握するとともに、調整・改善の方向についての教職員の共通理解を図り、次年度の学校運営に活用していくことが大切である。

学校自己評価結果の具体的な活用としては、①管理職の的確な課題把握や次年度の学校運営への活用、②校内での問題点の把握や改善の方向についての教職員の共通理解、③保護者等への説明・意見聴取による学校教育活動の改善、④家庭や地域社会への情報提供による話し合いの場づくり等が考えられる。

また、改善すべき事項を明確化するためには、直ちに改善を図るべきものの中・長期にわたって改善を図るべきものの区別や、学校内の努力によって改善しうるものと学校外に働き掛けることによって改善しうるものとの区別などを行い、それぞれに応じた改善策を考えていくことが大切である。

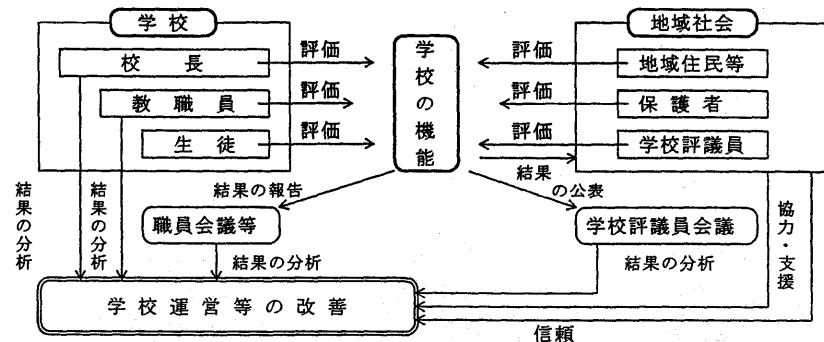
9 評価結果の説明

評価結果については、情報公開の流れからも、保護者や地域住民に説明することが必要となる。その方法としては、PTA総会や保護者会などの会合を利用したり、学校要覧、学校案内、学校新聞、学年通信、校誌、PTA新聞などの各種広報媒体を活用したりすることが考えられる。さらに、今後は、学校評議員等の新たな組織やホームページなどの新たな媒体を利用することも考えられる。

また、こうした活動によって、保護者や地域住民からの意見聴取や情報提供を受けることも可能となり、外部評価の一つとしても活用できると考える。

10 学校評議員制との連携

学校自己評価と学校評議員との関係を模式的に表すと、下図のようになる。学校自己評価の実施を、「評価項目（教育目標）の設定」→「評価票等による調査の実施」→「結果の分析・活用」の段階でとらえると、各段階において学校評議員制との連携が考えられる。すなわち、①評価規準・項目、評価基準を設定する際の連携（企画者として）、②外部評価の実施者としての連携（評価実施対象者として）、③評価結果を分析・活用する際の連携（分析者として）である。



11 教育委員会との連携

学校自己評価の実施や説明責任の履行に当たっては、学校の設置者である教育委員会との連携が大切である。県立学校の場合、県教育委員会への報告は義務づけていないが、必要に応じて自己評価の内容、方法、結果等の報告が可能となるよう準備しておくことが大切である。

また、教育委員会としては、学校の自主性・自律性に配慮しつつ、各学校の自己評価について計画・実施・活用の実態把握に努めるとともに、必要な指導・助言・援助をしていく必要がある。特に、県内の学校の共通項目による評価結果が不用意な学校間の比較につながることを十分に配慮すべきである。

別表 県立学校の共通項目（学校の教育活動に関する教職員対象の内部評価）

観点	評価項目及び設問例
I 豊かな心を 培う教育	① 道徳教育の充実 ○生徒が命の大切さ、社会のルールや日常生活のマナーをはじめとする道徳を理解し、実践できるよう指導している。 ○生徒が他人を思いやって行動する意識を高めるよう指導している。 ○社会奉仕体験活動や自然体験活動などの体験活動を通して、生徒の内面に根ざした道徳性を育成している。 ○道徳的実践力の向上を目指した教職員研修を行っている。
	② 同和教育の推進 ○同和教育をはじめとする様々な人権問題を正しく認識し、差別や偏見のない社会を実現するための意欲を持った生徒の育成に努めている。 ○いじめをはじめとする生徒の人間関係にかかわる課題等の解決を通して、人権尊重の豊かな感性と主体的に取り組もうとする態度を持った生徒の育成に努めている。 ○学習内容や方法等の工夫に努め、生徒が人権の大切さや同和教育について学んだことを日常生活の中で生かせるよう指導している。 ○生徒のプライバシー保護など、人権を尊重する姿勢で指導に当たっている。 ○人権問題についての認識を深め、指導力の向上を目指す教職員研修を充実させている。
	③ ボランティア教育の充実 ○ボランティアにかかわる体験的な学習を通じて、ボランティアの意義について指導している。 ○生徒がボランティア活動に参加しやすいよう配慮している。 ○ボランティア活動や交流体験学習などに関する教材開発や指導資料の整備・充実を図っている。
	④ 環境教育の推進 ○環境問題に対する関心や、環境保全のための知識・実践的態度を高める指導方法の工夫をしている。 ○教育活動において、ごみの分別など環境を守る指導を適切に行っている。 ○自然環境を生かした体験活動を推進している。 ○環境に配慮した消費者教育の充実を図っている。
	⑤ 生徒指導・教育相談体制の充実 ○全職員が一致協力した生徒指導体制を確立している。 ○様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で心掛けている。 ○教育相談の体制を充実させ、積極的に生徒の相談に応じている。 ○カウンセリング技術の向上を目指す教職員研修を充実させている。
	⑥ 感動する心を育てる教育の推進 ○地域の歴史・伝統・自然等に関する体験的な活動を教育活動に積極的に取り入れている。 ○生徒の情操を育てるために、文化・芸術に触れる機会を設けている。

観点	評価項目及び設問例
II 個性と創造力を はぐくむ教育	① 多様な個性に対応できる教育の推進 ○生徒の興味・関心、適性・進路に応じて科目を履修できるよう多様な科目を設定している。 ○学校や地域の実態、生徒のニーズを踏まえて、学校の特色づくり・魅力づくりを進めている。 ○電子メールやインターネットを活用して、国際化や情報化に対応した教育を充実させている。
	② 教育内容の改善・充実 ○学校の教育目標や教育課程は、分かりやすく示されている。 ○自ら学び、自ら考える力の育成を基本とする自己教育力の育成がなされている。 ○基礎的・基本的な内容の指導が徹底されている。 ○学習の評価に当たっては、ペーパーテストの得点だけでなく、意欲・興味・関心などの情意的な側面にも配慮している。 ○学校の教育課題について、教職員の間でよく話し合っている。
	③ 進路指導の強化・充実 ○進路決定に向けて、情報提供や相談などを通してきめ細かく指導している。 ○生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう、各学年に応じた系統的な進路指導を行っている。
	④ 実践的指導力の向上 ○校内研修が充実しており、教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の向上が図られている。 ○指導や評価の方法等について教職員相互に検討する機会を積極的に持っている。 ○校外研修に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。
	⑤ 社会自立・参加を促す教育の推進(盲・聾・養護学校) ○生徒が社会生活を営むために必要な知識、技能等を習得することができるよう指導方法を工夫している。 ○障害の重症・重複化、多様化に対応した教育課程を工夫している。 ○学校間や地域との交流教育を促進している。 ○医療・福祉・労働関係機関等との連携強化を図っている。

観点	評価項目及び設問例
III 学校・家庭・地域社会の 連携	① 家庭・地域社会との協力体制 ○様々な機会をとらえて、学校の方針や具体的な活動について生徒・保護者へ情報提供している。 ○教育活動全般について生徒や保護者の願いによく応えている。 ○生徒指導において、家庭との密接な連携ができている。 ○保護者や地域の人々が、積極的に参加できるよう学校行事を工夫している。
	② 学校教育機能の地域への開放 ○教職員が地域で行われる公開講座の講師になったり、地域の活動の運営等に携わったりすることがある。 ○保護者や地域の人々に、学校図書館等の学校施設を開放している。
	③ 地域の教育資源や素材の活用 ○地域の人材を活用して、教育活動を魅力的なものにしようと努めている。 ○地元の警察などの関係機関と連携し、生徒指導の充実を図っている。 ○地域の社会教育施設や福祉施設を活用した教育活動を促進している。 ○地域の人材バンクの整備・充実を図っている。
	④ 学校のスリム化への取組 ○各教科等における基礎・基本を明確にし、教材の精選や工夫を行っている。 ○学校行事を精選しながらも、生徒にとって魅力あるものにするために、工夫・改善を行っている。 ○教育活動全般にわたる評価を行い、次年度に向けての精選を図っている。 ○学校の本来果たすべき役割を問い直し、学校、家庭・地域社会の役割を明確にしようとしている。
	⑤ PTA活動の支援・促進 ○PTAの持つ教育力が最大限に発揮され、効果的に機能するよう努めている。 ○保護者と教職員とが協力してPTA活動を行っている。 ○PTAに学校の現状などの情報や学習の場を提供している。

III 県立岡山朝日高等学校における実践事例

1 本校の概要

本校は、岡山中学・岡山第一中学、第二岡山高等女学校の流れをくむ、創立127年を迎える普通科高校である。学校は、すぐ近くを旭川が流れる緑豊かな地域にあり、岡山城・後楽園・県立博物館・県立美術館なども近くにあり、自然的な環境にも、文化的な環境にも恵まれている。生徒数は、男子621名、女子537名（平成13年5月1日現在）の大規模校である。

本校は、自主自律を重んじ、自由を尊重する態度の涵養を基本にしている。そして、生徒の主体性を尊重して、生徒の希望が達成できる進路指導の確立を第一の柱、生徒会活動・部活動などの自主活動の活性化を第二の柱として、知・徳・体ともに優れた人間の育成を図ることを目標として、教育活動を行っている。生徒の大部分は大学への進学を志し、旧制中学以来の目標を高く掲げそれにむけて努力する態度で実績を上げている。部活動においても、インターハイをはじめとして、全国大会・中国大会で活躍する部も多い。

2 調査研究内容の概要

(1) 調査研究計画の概要

区分	調査研究内容
平成12年度 (第1年次)	1 実施先進都府県での調査、資料の収集 2 保護者・地域住民の学校教育に対するニーズの調査・確認 3 教育課題の明確化とその改善及び学校活性化のための教育目標の設定 4 評価項目の選定、評価基準・実施対象者等の検討 5 評価手順の検討 6 保護者や地域住民への説明の現状と課題の把握 7 自己評価結果活用のためのフィードバック方法の検討 8 自己評価項目の仮決定と試行評価 9 保護者・地域への試行的説明と問題点の把握 10 自己評価方法改善の方向の検討
平成13年度 (第2年次)	1 平成12年度の試行結果に基づく、自己評価の在り方の決定 2 評価項目・基準・評価対象者等の修正と決定 3 評価のシステム化 4 評価の実施と問題点の把握 5 次年度改善点の検討

(2) 調査研究の具体的事項

① 経過

平成12年3月31日	調査研究モデル校の指定（平成12年度・13年度）
4月28日	調査研究計画書の提出
5月11日	第1回学校自己評価調査研究モデル校連絡協議会
7月13日	県内の高校に共通する評価項目（案）の提示（指導課）
7月14日	大阪府立大手前高等学校、池田高等学校訪問
11月8日	指導課への進捗状況説明
12月15日	第1回学校自己評価調査研究委員会（校内） 評価項目の選定、評価基準・実施対象者の検討
12月20日	第2回学校自己評価調査研究委員会（校内） 評価項目と設問（試案）の検討
12月22日	職員会議で全教職員に経過報告と自己評価（試案）提示
平成13年1月中旬	県教育委員会との評価項目と設問（試案）に関する協議

2月7日	第1回学校自己評価調査研究委員会（全体） 評価項目と設問（試案）の検討
2月9日	第3回学校自己評価調査研究委員会（校内） 評価項目と設問（試案）の最終検討
2月16日	職員会議で自己評価（試行案）提示・決定
2月17日～	自己評価の試行実施
3月6日	第4回学校自己評価調査研究委員会（校内） 結果の報告・分析
3月8日	第2回学校自己評価調査研究委員会（全体） 結果の報告・分析
3月21日	職員会議にて報告・協議
5月28日	第1回学校自己評価調査研究委員会（校内） 今年度の研究計画の検討
6月7日	第1回学校自己評価調査研究委員会（全体） 今年度の研究計画の決定
6月26日	講演会（教職員の啓発・意識改革）
11月21日	第2回学校自己評価調査研究委員会（校内） 評価項目の検討
11月30日	第2回学校自己評価調査研究委員会（全体） 評価項目の検討
12月21日	職員会議で全教職員に経過報告と自己評価（試案）提示
平成14年1月8日～	自己評価実施（3・2・1年生、保護者、教職員）
2月14日	第3回学校自己評価調査研究委員会（校内） 結果の分析・まとめ
2月18日	第3回学校自己評価調査研究委員会（全体） 結果の分析・まとめ

② 調査研究組織

- ア 学校自己評価調査研究委員会 合計13名（別に事務局から1名）
校長・教頭・教務課長・生徒課長・進路指導課長・1学年主任・2学年主任・3学年主任・学識経験者・PTA関係者（2名）・地域関係者・同窓会関係者
- イ 小委員会（具体的な調査研究のための組織） 合計9名
（校長）・教頭・教務課長・教務担当者・生徒指導担当者・進路指導担当者・事務室担当者・1学年主任・2学年主任・3学年主任

3 調査研究組織の成果

(1) 評価項目

① 総括

評価項目については、指導課から提示を受けた共通項目を中心としたが、それだけではカバーできない観点や項目もあるので、学校独自に追加した。

評価の項目の数については、留意事項の5に述べられているような点に配慮して決定した。平成12年度の実践を受けて、生徒・保護者対象の設問については、おおむね適切との判断で、一部の設問の改訂・追加を行ったのみである。校長・教職員対象の設問は、やや数が少なく、十分に評価できない項目があったとの反省から、大幅に項目を追加するとともに、表現の変更も行った。

一つの設問の内容が、多岐にわたると、どの部分に焦点を当てて回答すべきか迷いが生じ、適切な評価が得られないことがある。したがって、あれもこれも欲張らず、設問の内容を絞り込むこととした。また、教職員対象の設問については、学校全体を対象とする設問なのか個人を対象とする設問なのかのかわかりにくいという指摘が多かった。そこで、平成13年度は教職員対象の設問は基本的に学校全体の状況を問うものとし、特に個人を対象として回答

を求める方がよい設問についてのみ、個人対象であることを明記することとした。

様々な声をくみあげるために自由記述欄もぜひ必要であり、評価者が回答しやすく、評価項目や設問自体への評価も得られるような区分欄が望まれる。なお、今回は調査研究ということもあり、評価の観点そのものや設問の表現の妥当性に対する意見を求める自由記述欄も設けた。

最終的には、以下に示す観点・項目について設問を作成した。

② 共通項目

I 豊かな心を培う教育

- 1) 道徳教育の充実（道徳的実践力を高める指導方法の工夫、指導力向上のための研修の充実）
ルール・マナーの指導
- 2) 同和教育の推進（指導力の向上を図る研修の充実、人権意識や同和問題についての認識を深める指導方法の工夫等）
- 3) ボランティア教育の充実（ボランティア活動や交流体験学習の充実等）ボランティア活動の意義、ボランティア活動の実践
- 4) 環境教育の推進（環境問題に対する関心や環境保全のための知識・実践的態度を高める指導方法の工夫）ゴミ問題への対応
- 5) カウンセリングの充実（教育相談体制の充実、カウンセリング技術の向上等）
- 6) 感動する心を育てる教育の推進（地域の歴史・文化・伝統・自然等に関する体験活動の充実、芸術を鑑賞する機会の拡充等）

II 個性と創造力をはぐくむ教育

- 1) 多様な個性に対応できる教育の推進（学校の特色づくり・魅力づくり、国際化や情報化に対応した教育の充実）
- 2) 教育内容の改善・充実（新しい学力観に立った学習指導と評価、弾力的な教育課程の編成等）
- 3) 進路指導の強化・充実（進路を選択・決定する能力の育成、勤労意欲や社会奉仕による成就感を体得できる学習の充実等）
- 4) 実践的指導力の向上（教科指導や生徒指導に関する校内研修の充実）

III 学校・家庭・地域社会の連携

- 1) 家庭・地域社会との協体制（保護者との協体制の充実、家庭と地域社会に向けての広報活動・情報提供の充実等）
- 2) 学校教育機能の地域への開放（学校図書館等の開放、教職員の指導力の提供等）
- 3) 地域の教育資源や素材の活用（地域の人材・施設を活用した教育活動の促進、人材バンクの整備等）
- 4) 学校のスリム化への取り組み（学校行事の精選、実施方法の工夫・改善等）
- 5) PTA活動の支援・促進（教職員の参加促進、情報や学習の場の提供等）

③ 学校独自項目

IV 学校経営

- 1) 学校の方針の明確化
- 2) 学校の特色
- 3) 学校への帰属意識
- 4) 校長のリーダーシップ
- 5) 教育計画の作成
- 6) 評価の活用
- 7) 円滑な学校運営
- 8) 経験やノウハウの共有による力量の向上

V 学習指導

- 1) 指導の充実
- 2) 個への対応
- 3) 思考力などの育成

VI 生徒指導・教育相談

- 1) 部活動の活性化
- 2) 生徒会活動の充実
- 3) ホームルーム活動の充実
- 4) 早期指導体制の充実

VII 進路指導

- 1) 体験的な活動を活用した進路指導
- 2) 適切な進路情報の提供

VIII 保健安全、危機管理、施設・設備

- 1) 安全への配慮
- 2) 健康および安全教育
- 3) 施設・設備の点検
- 4) 施設・設備の充実
- 5) 教材・教具の充実
- 6) 災害時の対応
- 7) 地震対策
- 8) 危機管理体制

(2) 評価実施対象者

実施対象者としては、校長、教職員、生徒、保護者、地域住民などが考えられる。地域住民については、本校の場合、生徒の出身地域が広範囲にわたり、地域とのつながりが小・中学校の場合ほど強くないので、対象としなかった。

生徒・保護者については、データ処理の手間と統計的に意味のある数値が得られることの両面を考えて対象数を決定した。平成12年度については、生徒は1・2年から各4クラス抽出、保護者は1・2年の保護者を約120名抽出して対象とした。平成13年度については、生徒は1・2・3年から各4クラス抽出、保護者は1・2・3年の保護者を約180名抽出して対象とした。

(3) 設問と評価表（評価票）の作成

上に示した観点・項目に基づき、具体的な設問を作成した。その際にはできるだけ評価の観点に対する適切な評価が得られるよう、表現を工夫した。例えば、「I 豊かな心を培う教育」の「1) 道徳教育の充実」に対する設問が、仮に「本校の道徳教育は充実していますか。」という問い掛けであったとすれば、おそらく有効な回答は得られないであろう。それぞれの項目に対して、学校の実態を考え、分かりやすく、かつ、項目が適切に評価できるような設問の表現を工夫した。

また、同じ項目の設問であっても、評価実施対象者によって、表現が異なってくるのも当然である。さらに、評価実施対象者によって必要のない設問や、複数の設問を設定すべき項目もあり得る。

以上のような点に配慮しつつ各観点について設問を作成していった。平成13年度には、平成12年度の実践を受けて、自由記述欄の指摘も参考にしながら、必要なものについては表現を改めた。

評価票を作成する際には、評価項目の順に単純に配列すると、回答しにくいものとなるので、学校全体にかかわること、教科指導にかかわること、生徒指導にかかわること、進路指導にかかわること、学校の施設・設備・安全教育にかかわることの順に配列した。平成13年度に使

用した評価票を資料Ⅲ-①～④に示す。

(4) 評価基準

評価基準は3, 4, 5段階が考えられるが、「どちらでもない」の評価があるとその評価を選んでしまう傾向があるので、それを避けて4段階にした例がある。本校でもこの点から、4段階とした。情報不足などでどうしても判断できない評価項目は、無記入でもかまわないと判断した。

(5) 実施時期

実施時期については、各評価実施対象者が学校の様子もわかり、また次年度の教育計画に活用できる観点から1月中旬の実施が効果的である。平成12年度は準備の都合で、2月中旬に実施したが、平成13年度は1月に実施した。

なお、実施頻度については、毎年必ず、ここに示した設問すべてについて、評価する必要はないと考える。すなわち、毎年継続的に評価すべき項目、何年かに1度評価すべき項目、その年度の重点的な取り組みなどのようにその年度のみ評価すればよい観点などがあると思われる。

(6) 結果の分析

結果を項目ごとにまとめたものを資料Ⅲ-⑤に示す。なお、学校長に対する設問の結果は省略している。学校長に対する設問は、それ以外の三者との比較により、考察を行うための材料として用いた。

結果をグラフ化したものが資料Ⅲ-⑥である。グラフ化に当たっては、Aを「+10点」、Bを「+5点」、Cを「-5点」、Dを「-10点」という重み付けをし、無答は集計対象から外した。このような重み付けをしたので、よい評価をされた項目が正の値で、悪い評価をされた項目が負の値で、よい評価と悪い評価の中間のものは0点となる。棒グラフにしたとき、よい評価を受けた項目は上向きの棒に、悪い評価を受けた項目は下向きの棒になり、傾向が一目で分かる利点がある。

分析に当たっては、よい評価を受けた項目、悪い評価を受けた項目をまとめることも有効である。その方法で分析した例を資料Ⅲ-⑦に示す。また、設問単独で分析するだけでなく、観点ごとに分析することから明らかになる事実もあるので、観点ごとの分析も有効である。また、無答の多い項目については、情報の提供が十分でないためなのか、設問の表現がわかりにくいためなのか、あるいは、そもそも尋ねる必要のない項目なのかを検討した。

自由記述欄の記述については、できるだけ生の表現のまま教職員に見てほしいと考えた。そこで、類似の記述を集めた程度で、記述をそのまま記録してまとめた。その一部を資料Ⅲ-⑧に示す。

(7) 評価の公表方法の検討

平成12年度については結果の公表は次のように行った。教職員に対しては、平成13年3月の職員会議で、結果の数値、自由記述欄の記述をすべてまとめたものを報告した。生徒に対しては、平成13年4月の始業式後の講話の中で、自己評価を行うようになった経緯、自己評価のもつ意味、結果の概要などを口頭で報告した。保護者に対しては、平成13年5月のPTA総会において、学校長から、生徒対象と同様の内容を口頭で報告した。

将来的には、学校誌「鳥城」なども活用して文書で報告することも必要と考えている。

(8) 評価の活用方法

評価を行っただけに終わらないよう、今後の学校運営に生きることは重要なことである。平成12年度末の職員会議で、評価の結果を報告し、来年度以降の学校運営に生きるよう各分掌等で検討していただくよう依頼した。その結果を受けての具体的な改善点等は資料Ⅲ-⑨に示す。

(9) 評価のシステム化

平成12・13年度は試行ということで、委員会と事務局としての教務課を中心として、自

己評価を行った。自己評価を今後継続的に行う場合には、校務分掌の中に担当者を位置付ける必要がある。その場合、特定の課の中に分掌を設けるよりも、本校で行った委員会形式の方が、自己評価を学校全体としての取り組みとすることができるのではなかろうか。

また、評価の実施から分析までを細かく記録しているので、今後は、自己評価をシステム化して、実施していけるようにすることも必要であろう。

(10) 成果のまとめ

○調査研究事業の実施により、教職員の学校自己評価に対する認識及び学校運営に対する関心が高まった。

○生徒、保護者、校長・教職員の四者により、教育諸条件や教育活動に関する項目を点検・評価することによって、本校の実態及び課題等を客観的に確認することができた。また、記述回答から、生徒・保護者等の学校への思いを把握することができた。

○学校自己評価を様々な角度から分析することによって、実態や課題がより見えてくることが実感できた。

○学校自己評価を通して、学校として課題解決に向けた取り組みが進んだ。

○保護者へ情報が届いていると思っていたことが、案外不十分だったことが分かり、今後、学校の情報を広く知っていただくための広報体制の整備の必要性を認識した。

○設問からより正確に教育課題を把握するには、一つの設問に複数の要素を入れなくて焦点を絞ること、また、内部評価では、設問によっては「学校は」なのか「私は」なのか、評価対象を明確にするなど表現の仕方に十分配慮するなど調査実施上の留意点が確認できた。

○調査研究委員会委員に、校外から学識経験者(1人)、PTA関係者(2人)、地域関係者(1人)、同窓会関係者(1人)に加わっていただいたことで、学校評議員制度とのリンクにおいても目途がたった。

(11) 今後の課題

○学校自己評価がより適切に行われるよう、その方法(評価の企画・実施から分析までをシステム化)等についての充実を図る。

○学校自己評価と年度末の学校運営全般の課題及び各校務分掌上の課題等を有機的に結び付けける工夫・改善を図る。

○評価結果等を学校教育目標・教育計画及び教育実践にフィードバックしていくよう一層の充実を図る。

○教育目標に対する達成度(成果)で、数量的に測定できにくいものの把握の仕方を検討していく必要がある。

○評価結果の公表及び説明の仕方の充実を図る。

4 まとめ

本校は、学校自己評価の研究指定を受け、以上のような取り組みを行ってきた。自己評価は決して他校と比較したりするためのものではなく、本校の取り組みを振り返り、さらに改善していくためのものであることを改めて確認した。一方では、自己評価の過程で、これまで漠然と把握していた生徒・保護者の思いを改めてはっきりと知ることができ、それを主体性をもって考えていく中で、学校運営の改善に結び付けることができたのではないと思う。また、委員会での議論の中で校外の委員の方々から貴重な御意見や御示唆を頂き、今後に生かしていくことができるのではないと思う。

外部の委員を招いての委員会の議事の中で、学校の情報を広く知っていただくための、広報体制の整備を図る必要を痛感した。このことに対する有効な方策を現在検討中である。

最後に、来年度より、県立学校においては、学校評議員制度がスタートする。本校では、自己評価の委員会に外部委員をお願いして、自己評価の実施に関わる事柄だけでなく、その結果を受けての今後の学校の在り方などについても、忌憚のない御意見を頂いた。学校評議員制度を実施する際には、現在の委員会を発展・拡充することで、十分その機能を果たしうるものと考えている。

校長用

学校自己評価表

☆記入にあたって☆

この調査は、本校の現状を明らかにし、学校の教育活動をより充実したものにすための資料とするものです。それぞれの内容について、A-Dのうち該当する欄に○印を書いてください。どうしても判断できない(わからない)内容は、○印を空欄にしてください。

A よくあてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない

Table with 5 columns (A, B, C, D) and 26 rows of evaluation items for the principal's use.

Table with 5 columns (A, B, C, D) and 51 rows of evaluation items for the principal's use.

Feedback section for the principal's survey, including a space for comments and a note about using the reverse side.

教職員用

学校自己評価表

☆記入にあたって☆

この調査は、本校の現状を明らかにし、学校の教育活動をより充実したものにすための資料とするものです。それぞれの内容について、A-Dのうち該当する欄に○印を書いてください。どうしても判断できない(わからない)内容は、○印を空欄にしてください。

A よくあてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない

Table with 5 columns (A, B, C, D) and 24 rows of evaluation items for the staff's use.

Table with 5 columns (A, B, C, D) and 47 rows of evaluation items for the staff's use.

Feedback section for the staff's survey, including a space for comments and a note about using the reverse side.

保護者用

学校自己評価表

☆記入にあたって☆

この調査は、本校の現状を明らかにし、学校の教育活動をより充実したものにするための資料とするものです。それぞれの内容について、A～Dのうち該当する欄に○印を書いてください。どうしても判断できない(わからない)内容は、○印をしなくて結構です。

A よくあてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない

Table with 5 columns (Evaluation Content, A, B, C, D) and 20 rows of evaluation items for the guardian version.

Table with 5 columns (Evaluation Content, A, B, C, D) and 15 rows of evaluation items for the guardian version.

学校をさらによくするために、こうすればいいという考えがあったら、書いてください。 (裏面を使用してもよい) この調査の項目で、なくてもよいものや付け加えた方がよいものがあれば書いてください。 (裏面を使用してもよい) この調査の設問で、表現をあらためた方がよいものがあれば理由とともに書いてください。 (裏面を使用してもよい)

生徒用

学校自己評価表

☆記入にあたって☆

この調査は、本校の現状を明らかにし、学校の教育活動をより充実したものにするための資料とするものです。それぞれの内容について、A～Dのうち該当する欄に○印を書いてください。どうしても判断できない(わからない)内容は、○印をしなくて結構です。

A よくあてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない

Table with 5 columns (Evaluation Content, A, B, C, D) and 18 rows of evaluation items for the student version.

Table with 5 columns (Evaluation Content, A, B, C, D) and 13 rows of evaluation items for the student version.

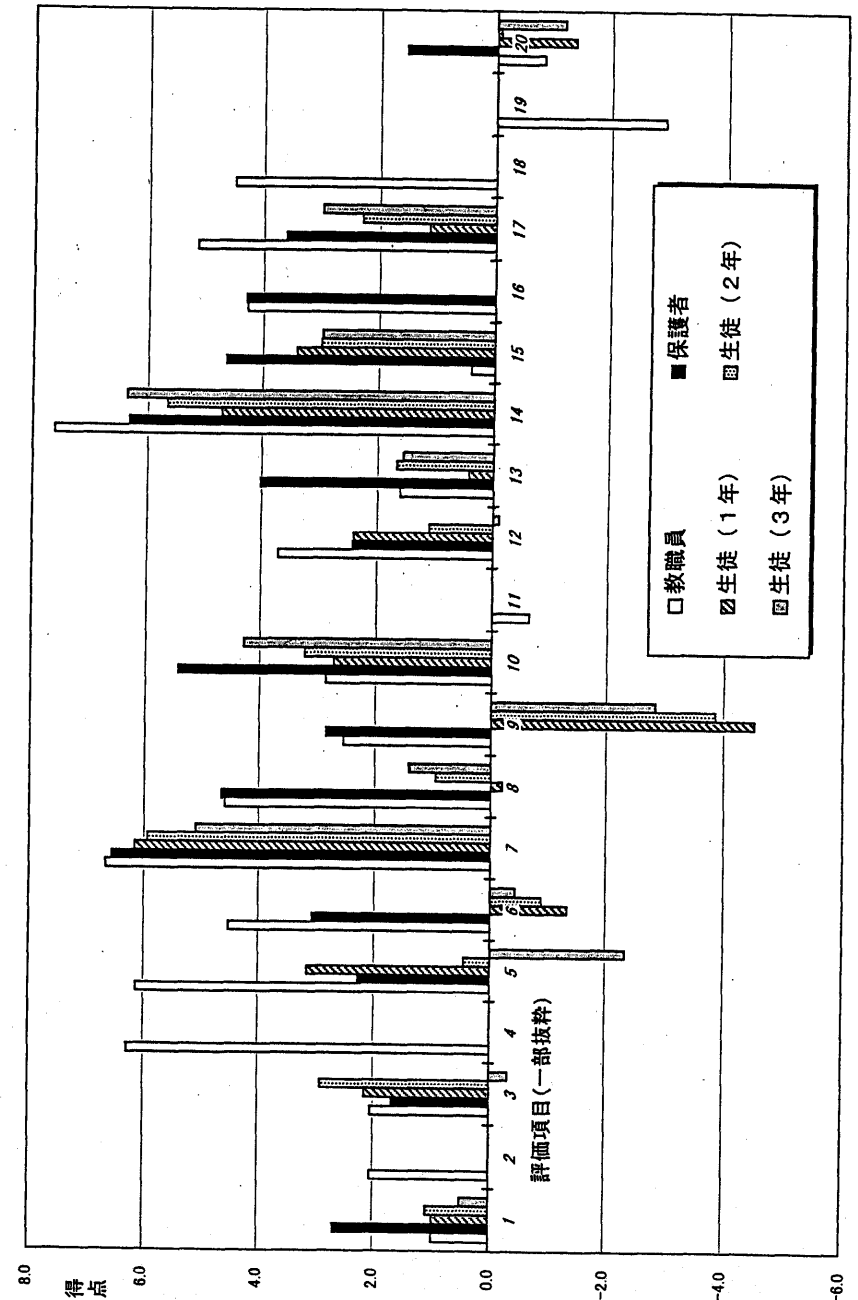
学校をさらによくするために、こうすればいいという考えがあったら、書いてください。 (裏面を使用してもよい) この調査の項目で、なくてもよいものや付け加えた方がよいものがあれば書いてください。 (裏面を使用してもよい) この調査の設問で、表現をあらためた方がよいものがあれば理由とともに書いてください。 (裏面を使用してもよい)

M(校長), T(教職員), P(保護者), S(生徒; 左から1年生, 2年生, 3年生)

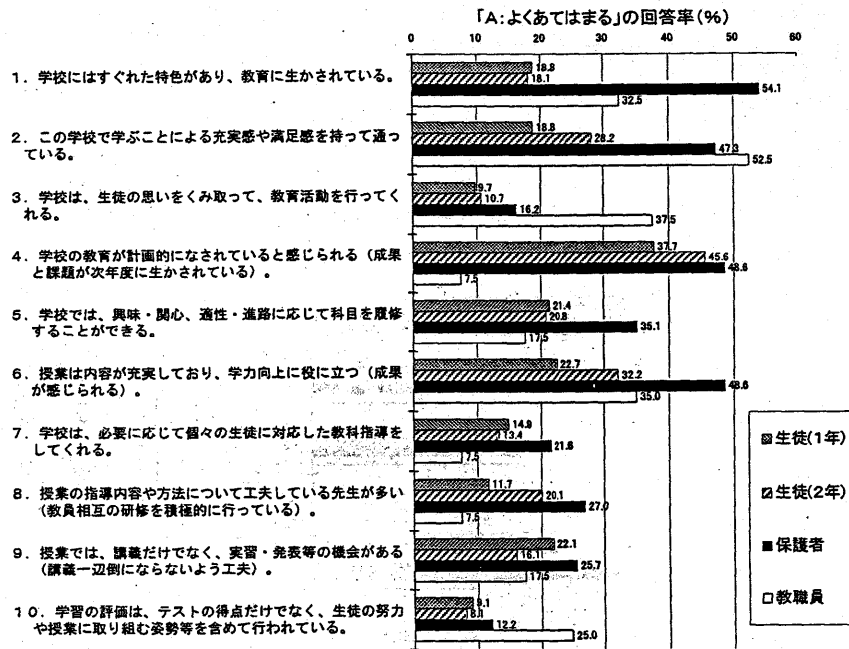
VI 生徒指導・教育相談		A					B					C					D					無答					平均				
		A	B	C	D	無答	A	B	C	D	無答	A	B	C	D	無答	A	B	C	D	無答	A	B	C	D	無答					
34	①部活動の活性化																														
	M 部活動が充実するようにさまざまな面で支援している。																														
	T 部活動が充実するようにさまざまな	31.7	42.9	22.2	3.2	0.0	3.9																								
	P 部活動が盛んな学校である。	37.3	40.6	16.7	2.4	3.2	4.8																								
	S 希望する部活動があり、自主的に活動	47.8	29.9	13.4	5.7	3.2	5.2	39.9	34.6	12.4	7.8	5.2	4.6	61.4	26.8	12.0	8.5	1.4	5.1												
35	②生徒会活動の充実																														
	M 生徒会活動を生徒の人間的な成長のために重視している。																														
	T 生徒会活動を生徒の人間的な成長のた	34.9	39.7	22.2	3.2	0.0	4.0																								
	P 生徒会活動が充実している。	28.4	39.7	20.6	3.2	11.1	3.6																								
	S 生徒会活動が充実している。	22.9	39.6	25.5	7.0	6.1	2.4	30.1	45.1	20.3	1.3	3.3	4.3	27.5	46.5	17.6	4.2	4.2	3.9												
36	③ホームルーム活動の充実																														
	M ホームルーム活動を生徒の人間的な成長のために重視している。																														
	T ホームルーム活動を生徒の人間的な成	4.8	31.7	62.4	9.5	1.6	-1.5																								
	P ホームルーム活動が充実している。	11.1	31.7	33.3	11.1	12.7	-0.1																								
	S ホームルーム活動が充実している。	12.7	32.5	41.4	11.5	1.9	-0.3	8.5	38.8	47.1	3.9	2.0	0.0	7.7	28.9	47.2	14.8	1.4	-1.6												
37	④早期指導体制の充実																														
	M 様々な問題行動の防止のため、早期に指導ができるよう、各分掌の連携に配慮している。																														
	T 様々な問題行動の防止のための早期指	14.3	49.2	33.3	0.0	3.2	2.3																								
38	⑤生徒指導における家庭・関係機関との連携																														
	M 生徒指導において、家庭や関係機関との連携ができるよう、条件を設けたり、関係を保つことに努めている。																														
	T 生徒指導において、家庭や関係機関	7.9	74.6	15.9	0.0	1.6	3.8																								
39	⑥進路指導																														
	①体系的な活動を活用した進路指導																														
	M オープンキャンパスや企業見学などの体験を通じて、進路を考える機会を設けている。																														
	T オープンキャンパスや企業見学などの	31.7	50.8	14.3	0.0	3.2	6.2																								
	P オープンキャンパスや企業見学などの	21.4	34.9	20.6	4.0	19.0	3.0																								
	S オープンキャンパスや企業見学などの	12.1	38.2	32.5	10.2	7.0	0.6	17.8	39.9	31.4	7.8	3.3	1.5	21.1	34.5	35.9	5.6	2.8	1.6												
	②適切な進路情報の提供																														
	M 生徒の状況に応じた進路情報を提供することで、生徒の進路希望の実現を援助している。																														
	T 生徒の状況に応じた進路情報を提供す	49.2	42.9	7.9	0.0	0.0	6.7																								
	P 学校は、進路に関する適切な情報を提	46.2	38.1	8.7	2.4	5.6	6.1																								
	S 学校は、進路に関する適切な情報を提	31.6	49.0	15.3	1.9	1.9	4.8	33.3	64.2	11.1	0.0	1.3	5.6	50.0	35.2	11.3	2.1	1.4	6.1												
40	⑦保健安全・危機管理、施設・設備																														
	①安全への配慮																														
	M 教員と事務職員が連携して、教育活動が安全に行われるよう施設・設備の整備に努めている。																														
	T 教育活動が安全に行われるよう施設・	6.3	14.3	55.5	22.2	1.6	-3.7																								
	P 学校の施設・設備は安全に配慮して設	5.6	18.3	38.9	31.0	6.3	-3.8																								
	S 学校の施設・設備は安全に配慮して設	3.2	22.9	41.4	30.6	1.9	-3.7	2.0	9.8	45.8	41.8	0.7	-6.8	4.9	16.2	35.9	41.5	1.4	-4.7												
	②健康および安全教育																														
	M 機会をとりあえて、健康の増進と安全の確保について指導している。																														
	T 機会をとりあえて、健康の増進と安全の	7.9	55.6	33.3	0.0	3.2	2.0																								
	P 学校では、いろいろな場面で健康で安	10.3	34.9	31.0	7.1	16.7	0.6																								
	S 学校では、いろいろな場面で健康で安	6.7	33.1	45.2	10.8	6.1	-1.2	6.9	37.9	50.3	5.2	0.7	-0.6	8.5	36.6	43.7	7.0	4.2	-0.2												
	③施設・設備の点検																														
	M 教員と事務職員が連携して、学校の施設・設備を定期・不定期の安全点検で確認し、整備している。																														
	T 学校の施設・設備を定期・不定期の安	7.9	39.7	46.0	4.8	1.6	0.0																								
	P 学校の施設・設備はきちんと点検され	4.0	25.4	37.3	23.8	9.5	-2.9																								
	S 学校の施設・設備はきちんと点検され	3.2	10.2	42.0	42.0	2.5	-6.6	1.3	14.4	43.1	40.5	0.7	-6.4	3.5	14.1	37.3	43.7	1.4	-6.3												
44	④施設・設備の充実																														
	M 学校の施設・設備は教育活動に支障がないように整備されている。																														
	T 学校の施設・設備は教育活動に支障が	3.2	31.7	44.4	20.6	0.0	-2.4																								
	P 学校の施設・設備は教育活動に支障が	5.6	23.0	34.9	30.2	6.3	-3.3																								
	S 学校の施設・設備は教育活動に支障が	8.3	24.8	28.0	36.9	1.9	-3.1	2.0	24.2	39.2	34.0	0.7	-4.0	4.9	28.9	31.7	33.1	1.4	-3.0												
45	⑤教材・教具の充実																														
	M 学校の教材・教具は教育活動に支障がないように整備されている。																														
	T 学校の教材・教具は教育活動に支障が	14.3	49.2	28.6	7.9	0.0	1.7																								
	P 学校の教材・教具は教育活動に支障が	18.7	50.0	11.9	4.0	17.5	3.8																								
	S 学校の教材・教具は教育活動に支障が	19.1	48.4	22.3	7.6	2.5	2.5	15.0	52.3	24.2	7.8	0.7	2.1	18.3	49.3	21.1	9.9	1.4	2.9												
46	⑥災害時の対応																														
	M 台風・火災・地震などの災害時に教職員・生徒の安全確保のために取るべき行動が明らかである。																														
	T 台風・火災・地震などの災害時に生徒	22.2	54.0	15.9	6.3	1.6	3.5																								
	P 警報発令時の対応を知っている。	42.1	27.0	9.5	7.9	13.5	5.0																								
	S 台風・火災などの災害時にどう対応す	8.9	30.6	42.9	15.3	1.3	-1.3	11.1	35.9	35.3	17.6	0.0	-0.6	13.4	44.4	33.1	7.0	2.1	1.2												
47	⑦地震対策																														
	M 地震後に校舎の改修や生徒の安全確保	30.2	21.4	7.9	4.8	35.7	5.0																								
	P 地震対策マニュアル(教員に傳承)を	8.9	19.1	28.0	41.4	2.5	-3.8	7.8	19.6	28.0	41.8	2.0	-3.9	23.2	24.6	25.8	23.2	2.1	-0.1												
48	⑧危機管理体制																														
	M 突発的な事態が起こったときは、危機管理マニュアルに従い、対応を指示することができる。																														
	T 突発的な事態が起こったときは、危機	15.9	50.8	20.6	7.9	4.8	2.4																								

注) 設問の文章は、冒頭の部分のみを表している。

資料Ⅲ-⑥: 評価項目ごとの結果



教科指導に関する評価結果



【結果及び考察】

○生徒の高い評価を得ているものとして、トップは「4. 学校の教育が計画的になされている」（4割強）であり、2位は「6. 授業は内容が充実しており、学力向上に役に立つ」（3割弱）、3位は「2. この学校で学ぶことによる充実感や満足感」（2割強）と授業に対する満足度は高いものがある。しかも、この3項目はすべて1年生より2年生が高い評価をしていることが注目される。

一方、教職員では、「2. この学校で教育することの充実感や満足感」（5割強）は、極めて高い。また、「6. 授業の内容の充実が極めており、成果が感じられる」（3割5分）は生徒の満足度とほぼ一致している。しかし、「4. 教育活動が計画的になされ、成果と課題が次年度以降に生かされている」（1割弱）では、生徒の満足度に比べ低いが、これは『計画的』よりも『成果と課題が次年度以降に生かされている』ことへの回答結果とも考えられる。また、これと似ているケースとして、生徒の「8. 授業の指導内容や方法について工夫している先生が多い」に関して、「授業の指導内容や方法について、教員相互の研修を積極的に行っている」が低かったのも、『教員相互の研修を積極的に行っている』ことへの回答結果とも考えられる。

→各教科の到達目標及び計画・実践・成果と課題、このフィードバックが必要なことと、教職員が、お互いに高め合う雰囲気やどう創り出していかうかが、「教科指導の充実」（教務課）と「能力がありながら、虚無感を抱えて頑張っている生徒の支援」（進路指導課）につながることを考えられる。

○生徒の評価が低かったものとしては、「10. 学習の評価は、テストの点だけでなく、生徒の努力や授業に取り組む姿勢等を含めて行われている」（1割弱）、「3. 学校は、生徒の思いをくみ取って、教育活動を行っている」（1割）であったが、教職員では、「10」は2割5分、「3」は4割弱の回答となっており、生徒の受け止め方と差が見られる。

→『生徒の思い』とは何かなど明らかにしていくことが必要。

《保護者対象》

「学校をさらによくするために、こうすればいいという考えがあったら、書いてください。」

- 大学への進学だけが目的ではなく、グローバル社会に対応できる人間形成の基礎を身につける教育を望みます。
- なかなか家庭の中に学校の様子等が入ってこないため〇印を付けかねる設問が多くお役にたてません。
- 先生方には子どもの身辺・学習等への配慮をいただいておりますように感じております。
- 伝統も含めて、学校が認識しているところの特色を具体的に書いてほしい。
- 自主自律の精神はとてもよいと思うが、自由とは違うことを学校も保護者もともに教えるべきである。
- 先生に学習面での相談にのっていただける機会をもう少し持っていただきたい。
- 運動部・文化部等それぞれ現状報告や意見交換の場を設け、活発な活動への支援をしてはどうでしょうか。
- 2人担任がいるので良い面は全員に、細かい部分は半分ずつとなにか工夫ができないでしょうか。いろいろな考え方も参考になるとおもうので。
- 成績表と送られてくる学年通信を楽しみにしています。先生方のお考えに触れ、学校をより身近に感じることができそうです。もっと頻りに出していただけたらうれしいと思います。
- 子どもからは、学校はとても楽しいところと聞いていますが、世間はそうには思っていないようです。喜んで通学しているという「それは勉強ができるから」ということばが返ってきます。勉強だけではないということをお父さんが説明するのは難しいようです。何か目に見える形で知らせることはできないのでしょうか。褒めてもらっているようで、よく不愉快な感じをうけます。実際、親も学校の方針がよくわかっているとは思いません。
- 先日の役員会に参加して、学校の様子とかが、何となくわかりました。保護者の意見の中で、学校への希望がたくさん出ていましたが、入学するときからわかっている事で、あまりにも保護者が過保護すぎることにびっくりしました。校則違反をしても知らない顔をしている保護者が、冬は寒いから暖房をつけて欲しいとか、コートを着て授業をさせてほしいとか、なんだか家と学校のけじめが出来ていない気がしました。私的には3年間なんだから、少しは厳しさも知っていた方がよいと思います。身体も元気になるし、これから社会に出て沢山の出来事がまちうけていると思うので、今少し、勉強だけでなく生活の中でも知っていた方がよいと思いました。先生方には大変お世話になっていて、本当に真剣に取り組んでくれている様子が分かります。わが子に対しては、もう少しその期待にそえる努力をしてもらいたいものです。今が一番いいときだと思うから…子どもにそれが分かってくれれば一番うれしいです。すばらしい先生方に感謝しております。本当に役員が出来たことに私自身も感謝しております。ありがとうございました。

◆生徒用項目15（ルール・マナーについて学ぶ……）について

- 日常的活動（指導）の強化一生徒指導係のとりくみ
- 教職員への啓発一職員会議（担任会）等でお願
- 式等での訴え

◆生徒用項目17（ボランティアの意義について学ぶ……）について

- 2年生でもボランティアLHRを実施
- 生徒、教職員への広報活動の強化……ビラ・ビデオ
- プロパーの係を設置した

◆休日に十分な休養を取りたいという意見が見られた。

- 生徒の当然とすべき休日やどのくらいなくなっているかデータをとり、授業に全力投球をして、打ち込める環境作りを検討している。

◆トイレの改善の意見が見られた。

- トイレ当番表をトイレに貼り、年間を通してトイレ掃除が徹底できるように計画している。

◆ゴミの分類と清掃の徹底の意見が見られた。

- さらに徹底した係の企画の徹底。

◆学校の情報をもっと広報すべきであるとの意見が見られた。

- 郵送で学校の情報を送付する機会を増やせないか検討している。

◆地震対策について

- 不安を訴える声が多かったので、国の予算に基づき行った対策等について説明する文書を平成12年度末に保護者宛に送付した。
- 安全教育の視点から、地震時の対応について指導した後、マニュアルを教室掲示した。

IV 県立水島工業高等学校における実践事例

1 学校概要

本校は、当時、岡山県における高校生急増対策の動向から、倉敷市が工業高校誘致に積極的な態度を示し、倉敷市西阿知町に昭和37年、機械科・電気科・工業化学科、各135名の募集定員で発足した。その後、幾多の経緯を経て、現在、機械科（1年定員80名）・電気科（同80名）・工業化学科（同40名）・建築科（同80名）・情報技術科（同40名）の5科を有し、生徒数1017名、内女子39名（平成13年5月現在）の大規模校として、地域に数多くの人材を輩出している。

本校生徒の約7割が水島工業地帯を中心に就職、約3割が大学・短大・専門学校等に進学している。生徒は、「誠実は人間最高の善である」の校訓のもと、社会人としての資質を身に付けるべく、多くの資格を取得しようと勉学に励んでいる。また、文武両道をモットーに部活動も盛んで、運動部では、インターハイや中国大会に多数出場するなど熱心に練習に取り組んでいる。そして、文化部の活動も盛んで、11月の文化祭、2月の創作展は日頃の地道な取り組みを外に外けて発表する格好の場となっている。

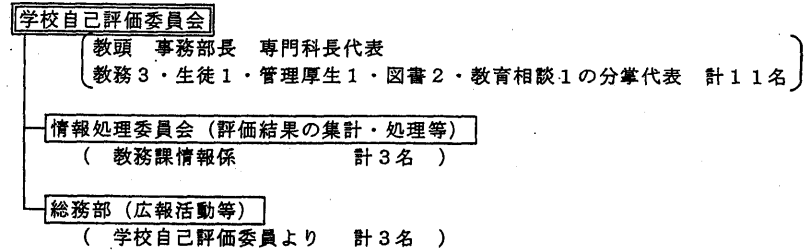
2 調査研究計画の概要

区分	調査研究内容
平成12年度 (第1年次)	1. 学校自己評価を導入している先行事例の研究 2. 学校自己評価実施のための組織づくり =『学校自己評価システム調査研究委員会』の設置 3. 「調査研究のねらい」を確認→ <u>全教職員の共通理解</u> を図る (運営委員会→職員会議) 4. 学校自己評価を理解するための「職員研修会」の取り組み 5. 評価項目・評価基準の調査研究 6. 内部評価実施の検討 (実施対象者、評価の時期、コンピュータ処理等) 7. 内部評価の試行と問題点の把握・分析 →岡山大学北神助教授による指導・助言 8. 自己評価の試行開始 9. 中間まとめの作成
平成13年度 (第2年次)	1. 平成12年度の実施結果に基づき、今後の方針を決める 2. 外部評価（生徒・保護者）に向けての取り組み 3. 自己評価のシステム化 =自己評価の実施・回収・分析・まとめ・反省 4. 生徒・保護者への説明 5. 問題点の把握 →次年度への改善点を検討

3 調査研究の記録（資料IV-①）

平成12年3月末、県外の先進的な取り組みをしている学校を視察するため、本校の教諭3名で、大阪府立大塚高校を訪問した。そこで、平成10年度と同11年度の2年間の実践の取組みを聴かせてもらい、そのノウハウを教えていただいた。現在水島工業高校で取り組んでいる学校自己評価の原点は、大塚高校の実践に基づいているといっても過言ではない。その後、「学校自己評価システム調査研究委員会」（以降、学校自己評価委員会と呼称）を立ち上げ、平成12年度は、教職員研修会、内部評価（教職員対象）を実施した。また、平成13年度には、内部評価に加え、外部評価（生徒、保護者）を実施した。

4 調査研究の組織（平成13年度）



(注) 積極的に動きやすいメンバーを選じたため、分掌間のバランスが取れていない。

5 調査研究の方法と結果

(1) 教職員研修会（資料IV-②）

教職員の共通理解と協力を得るため、学校自己評価委員会の代表が先進校（前出の大塚高校・岡山学芸館高校・東京都立芝商業高校等）を視察し、その取り組み状況を報告するとともに、学校自己評価に詳しい岡山大学教育学部助教授の北神正行先生に「学校自己評価の意義と課題」というテーマで、教職員を対象に50分程度の講演をしていただいた。その後のアンケートの結果では、厳しい意見も見られたが、おおむね前向きな意見が多く出ており、一定の成果が得られた。

(2) 内部評価（教職員）と外部評価（生徒、保護者）

① 評価実施対象者

内部評価（常勤の教職員全員）を、平成13年1月と6月の2回実施した。また、外部評価については平成13年6月に1回（評価者：2・3学年の生徒、保護者全員）、同年11月に1回（評価者：1年の生徒、保護者全員）の計2回実施した。

回収率は、内部評価が、100%（1回目）、84.3%（2回目）で、

外部評価が、81.2%（2・3学年）、93.4%（1年）と、かなり高く、協力的であった。

外部評価としての地域住民、OB、卒業生、企業等については、実施方法等が難しく、現在のところ実施予定にない。

② 評価実施時期

1年間の学校での活動を終える3学期が一番客観的なデータが取れると思われるが、3学期は、進級・卒業に関する会議や学力検査等と、多くの行事があり、集計・分析作業や評価が出て、それを受けての対応策がとりづらい環境にある。したがって、平成13年度は、1学期の終わりである6月に、教職員、2・3学年の生徒、保護者を評価者として行った。なお、1年生については、2学期の行事が概ね終わる11月に実施し、来年度以降に、どのように評価が変わっていくのかを見ていきたいと考えた。

③ 具体的な設問の設定

大塚高校のものを基にして、平成12年度は、内部評価のみを作成した。7月中旬、県立学校の共通項目に基づいて具体的な項目を37項目作成した。また、学校独自の評価項目の作成に当たっては、学校自己評価委員会の他に各専門5科の科長にも協力してもらい22項目を作成した。したがって、計59項目を作成した。（資料IV-③）

平成13年度は、内部評価については、平成12年度のもの、同じ内容のものは除くようにし、新たに出てきた問題等を問う項目を入れて、計55項目を作成した。

外部評価についても、大塚高校のものを基にして、30項目を目安に作成した。また、内部評価、外部評価ともに、同じ問い掛けで、自由記述の欄も設けた。（資料IV-④）

④ 実施用紙（評価票）

評価結果の集計等にコンピュータ処理ができるようにするため、マークカードを利用した。本校では、情報技術科の実習用にカードリーダーを購入しているため、選択項目の集計は、短時間で行えた。なお、生徒と保護者は同一のマークカードに記入してもらった。これは、保護者に生徒と話をしながら記入してもらうためである。

自由記述は、別の用紙を渡し、記入してもらった。

⑤ 選択肢（評価基準）

選択肢は分からないとする回答をできるだけ減らすために、4択としたつもりだったが、

回答は、マークカードの1～4の該当する項目の数字を鉛筆で塗りつぶしてください。

<1～4の項目>

- | | |
|----------------------------|-------------|
| 1 よく当てはまる | 2 やや当てはまる |
| 3 あまり当てはまらない | 4 全く当てはまらない |
| ※どうしても判断がつかない場合、5を選んでください。 | |

としたために、実質5択となってしまった。

保護者は、5を選択する人がかなりの数になった。

⑥ 回収方法

回収率を上げるために、教職員は、各教科主任の先生に提出、各教科主任の先生がまとめて、学校自己評価委員会の情報処理係に提出する。生徒・保護者は担任の先生に提出、担任の先生がまとめて、学校自己評価委員会の情報処理係に提出するという方法を採用した。

<平成13年度の回収率>

	教職員		生徒・保護者	
			2・3学年	1学年
マークカード	84.3%	マークカード	81.2%	93.4%
自由記述	4.5%	生徒自由記述	64.3%	47.3%
		保護者自由記述	68.2%	50.8%

(3) 集計と分析（資料IV-⑤～⑧）

① 集計

評価項目の回答は、カードリーダーで各個人の評価をCSV形式で出力し、その元データを表計算ソフト上で編集することで、集計と分析を行った。自由記述のものは、時間をかけて、同ソフト上に文字入力していった。その際、記載内容によって、評価項目と同じように分類し、数をカウントしていった。

② 分析

評価結果を、選択肢の番号1から4の平均をとって考えると同時に、選択肢の番号1から5の選択数のばらつきを見て考えた。

次に、

- | | |
|------|------------------|
| ○○ : | (評価結果) ≤ 2 |
| ○ : | 2 < (評価結果) ≤ 2.5 |
| × : | 2.5 < (評価結果) ≤ 3 |
| ×× : | 3 < (評価結果) |

の4段階で標示し、一見するだけで全体のイメージをつかめるようにした。また、この方法

で、母体を、各学年、各科で評価してみても、学年の特徴、各科の特徴を見てみた。また、評価項目ごとに、傾向を見ていき、全体的な評価を把握した。

6 実施する上での課題

(1) 教職員の共通理解

学校自己評価は、組織体としての学校が、学校としての教育機能をどの程度果たしているかを総合的・客観的に評価し、その結果に基づいて教育活動全般についての改善策を立て、各学校における教育活動の充実・向上を図ることをねらいとしている。したがって、教職員の共通理解が不可欠である。さらに、教職員が建設的な気持ちでその至らない点を考え、自然に改善のための努力を誓うという気持ちになるような、健全な雰囲気が生まれるようにすることが重要な点である。

(2) 学校評議員制度との連携の在り方

学校評議員制は、学校・家庭・地域が連携協力しながら一体となって子どもの健やかな成長を担っていくため、地域に開かれた学校づくりをより一層推進する観点から、学校に、学校評議員を置くことができるようにするものである。これにより、学校や地域の実情に応じて、学校運営に関し、保護者や地域住民の意向を把握・反映しながらその協力を得るとともに、学校としての説明責任を果たしていくことができるようになるものである。

学校評議員は、校長の学校運営に関する権限と責任を前提として、校長の求めに応じて意見を述べることができるものである。このため、校長の判断により必要と認める場合に意見を求めることとなる。また、校長は、学校評議員の意見を参考としつつ、自らの権限と責任において判断し決定を下すものである。

したがって、学校自己評価との関連で考えれば、学校評議員の人数が8名以内と少ないことから、教職員・生徒・保護者が行った学校自己評価の結果を提示・説明し、それに対する各委員の意見を、質的なレベルでコメントをもらうようにするのがよいと考える。そうすることで、地域住民に対する学校としての説明責任を果たしていくことができると考える。

(3) 実施主体となる組織の校務分掌への位置付け

① 想定される業務内容

- 学校評議員に校長を通して、学校自己評価を依頼する。
- 教育機能をどの程度果たしているかを総合的・客観的に分析・評価し、その結果に基づいて改善策をどのように立てていくかを検討し、運営委員会に提言する。
- 学校としての説明責任を果たしていくため、評価結果等について、学校評議員に説明したり、校誌やPTA新聞等の原稿を作成する。

② 実施主体

実施主体については、

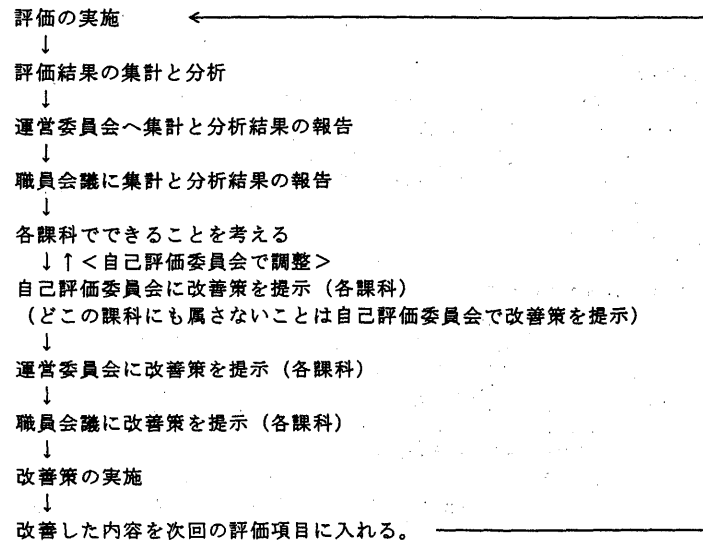
- ア. 学校自己評価室（仮称）という分掌を新たに作り行う
- イ. 学校自己評価委員会という委員会制度で行う
- ウ. 既存の分掌の中に位置付けて行う（例えば、教務課）

の三つの場合が考えられる。

総合的・客観的に評価するという観点から、既存の分掌で行うことは適さない。多岐の意見が集約できる体制が必要である。また、時代にあわせて学校を改善していくために、常に調査・分析、そして改革プログラムの作成までを業務内容としていくのであれば、新しい分掌が必要となる。しかし、調査・分析するところまでなら、業務は、1年を通してというよりも、一定の期間に集中してくるため、委員会制度で十分である。

以上のことから、イの学校自己評価委員会という委員会制度で行うことがよいと考える。

③ 本校で想定している学校改善の手順



④ 委員会制度で期待できる効果

メンバー構成を、教頭を委員長とし、10名程度を各課・科より、校長が選出する。こうすることで、総合的・客観的に評価し、多方面の意見が集約でき、校長の意向に沿った改善がやりやすくなる。また、現在行っている研究の体制と変更がないため、教職員に受け入れられやすくスムーズに実施に移せる。

⑤ 委員会制度での実施上の問題点

委員会制度にすると他の分掌と兼ねることになり、中心となって業務にあたる人に仕事が集中する恐れがある。

(4) 評価項目・評価単位の設定

評価項目・評価単位の設定については、

- ① 毎年実施する評価項目
- ② 年度において実施する評価項目(3年に1度実施等)
- ③ その年度に、より深く内容を知るために、重点をおく項目

の3種類に分けて考える。①については、生徒指導など教育活動の中で比較的改革がしやすい内容とし、②については、施設設備など、教育活動以外の改革が困難な内容とすべきである。また、今までと違った新しい取り組みについては、必ず評価項目に入れるようにする。

項目を設定する上で、教員・生徒・保護者の三者に共通する項目も必要かもしれないが、それぞれの対象にあわせた質問項目にしていく必要がある。例えば、保護者は、学校の中のことを聞くのではなく、家庭でのことをプライバシーに触れない程度に聞いてみることも考えられる。

(5) 結果の活用方法(内部)

今回の自己評価でいくつかの問題点や課題を把握することができた。1つの事柄についての考え方は、10人いれば10通りの考え方があるように、生徒の希望するようになっていくことが必ずしもいいとは言えないし、金銭的なことなど、できることばかりではない。評価結果がよくなかった点について、すべてに手をつけるというのではなく、できることからやってみ

るというように考えることが必要である。改善策については、学校の基本方針を明確にしその枠の中でどのような対応ができるのかを考えていくことが大切である。常に、自主点検管理する一つの物差しの役割は果たすことになるだろう。

(6) 結果の公表(外部)

学校自己評価の結果の公表の仕方としては、

- ① 数値を含めてすべての項目を提示する
- ② 数値は出さず、4段階程度(かなりよい・よい・悪い・かなり悪い)にランク分けして、すべての項目を提示する
- ③ ポイントのみを文章化して提示する

の三つの方法が考えられる。校長の判断により必要に応じてその方法は変わってくると考える。なお、提示の際に、よくなかった点の対応策について、学校としての方針を説明していくことが必要である。そして、新しく加えた(変えた)点については、次の評価項目に入れて、常にチェックをしていくようにすることが大切である。

本校では、公表の媒体として、昨年度より1年間の学校の教育活動をまとめた校誌「花筵」を発刊している。この他にも、PTA新聞やホームページなどが考えられる。

7 まとめ

学校自己評価は、教育課程の編成・実施状況、指導方法や指導体制の工夫改善の状況、児童生徒の学習状況等を点検し、教育課程や指導計画、指導方法等について絶えず見直しを行い、改善を図るために行うものであり、各校における特色ある教育活動の推進や開かれた学校づくりを展開する上で必要なものである。しかし、長い年月を経て、現在に至っているものを一朝一夕に変革することは困難である。まず、学校自己評価をしてみても今の現状を把握し、本当にどうすることがいいのか、また、どうすることができるのか、教職員だけでなく、生徒・保護者・地域の方々と一緒になって考えていくことが一番大切なことではないだろうか。そして、1つでも改善できることを見つけて、よりよい方向に着実に進んでいく努力をしていかなければならない。

県立水島工業高等学校における取組 (書記録)

<<平成12年度>>

- 3月27日(月) 大阪府立大塚高校を訪問(訪問者：晴田、室岡、文節)
・大阪高校の「学校教育自己診断」の取り組み内容を聴取
・2年間の取り組みの貴重な資料をいただく
- 4月7日(金) 第2回調査委員会
・「学校自己評価システム調査研究委員会」が決まる
・校長、教頭を含め8名の委員が決まる
- 4月18日(火) 岡山学芸館高校を訪問(訪問者：文節)
・授業内容の評価アンケートの内容を聴取
・生徒が評価する内容を聴取
- 5月11日(水) 平成12年度第1回学校自己評価調査研究モデル校連絡協議会開催
・推進員より学校自己評価の説明
・本校より進捗状況等説明
- 5月15日(日) 第1回学校自己評価システム調査研究委員会
・「学校自己評価システム調査研究委員会」(以後は自己評価委員会と呼称)
・学校自己評価システム調査研究委員会(以後は自己評価委員会と呼称)の今後の取り組みについて
・学校自己評価の取り組みが誓われる
- 6月8日(木) 第6回調査委員会
・「学校自己評価の説明」について
・「学校自己評価の導入に伴う広報活動」についても説明
- 6月28日(水) 第2回自己評価委員会
・学校自己評価の取り組みについて
・学校自己評価委員会の今後の取り組みについて
- 7月4日(水) 学校自己評価推進員研修会 北神 正行 氏
・講師 岡山大学教育学部 助教授 北神 正行 氏
- 7月12日(水) 東京都立芝浦商業高校を訪問(訪問者：文節)
・「学校自己評価の意義と課題」について
・岡山県指導課長等と一斉に訪問
- 7月13日(水) 第3回自己評価委員会
・「学校自己評価の取り組み」について
・「学校自己評価システム調査研究モデル校連絡協議会」開催
- 9月22日(金) 第4回自己評価委員会
・「県内の学校に共通する評価項目」の検討
- 10月11日(水) 第5回自己評価委員会
・「県内、科それぞれに自己評価項目」の検討
- 10月17日(水) 第6回自己評価委員会
・「教職員対談」の取り組みについて
- 10月18日(水) 平成12年度学校自己評価調査研究モデル校連絡協議会
・推進員より進捗状況等説明
・本校より進捗状況等説明
- 11月22日(水) 第16回調査委員会
・「県内の学校に共通する評価事項」と「学校独自の評価事項」を提案一議承
- 12月21日(水) 第7回自己評価委員会
・「内部評価」実施について、具体的な検討

<<平成13年度>>

- 5月16日(水) 第1回学校自己評価システム調査研究委員会
・平成13年度の取り組みの基本方針と役割分担の決定
- 6月12日(火) 第2回学校自己評価システム調査研究委員会
・平成13年度学校自己評価システムの調査研究の計画・概要(案)の確定
- 6月18日(月) 第3回学校自己評価システム調査研究委員会
・内部評価(教職員)、外部評価(2,3年生徒、保護者)の実施に向けて
・内部評価(教職員)、外部評価(2,3年生徒、保護者)のアンケート項目の訂正
- 6月21日(木) 第7回調査委員会
・内部評価(2,3年生徒、保護者)の実施を提案一議承
- 7月18日(水) 第4回学校自己評価システム調査研究委員会
・自己評価の進捗状況の報告
- 9月3日(月) 第5回学校自己評価システム調査研究委員会
・自己評価の分析(案)の説明と検討
・自己評価の分析結果報告(案)の検討
- 9月17日(月) 第6回学校自己評価システム調査研究委員会
・本年度の校内体制(案)の検討
・県内の学校に共通する評価項目の決定
- 9月20日(水) 第12回調査委員会
・自己評価集計分析結果を報告
- 10月10日(水) 第7回学校自己評価システム調査研究委員会
・10月3日分の「学校自己評価システム調査研究委員会」の報告
・自己評価の集計結果と分析を受けての今後の取り組みについて
- 10月31日(水) 第8回学校自己評価システム調査研究委員会
・10月25日の岡山大学の北神先生訪問の内容についての報告
・今後の取り組みについて運営委員会にあげることを承認
- 11月2日(金) 学校運営委員会
・今後の取り組みについて
- 11月15日(水) 第16回調査委員会
・外部評価(1年生徒、保護者)の提案一議承
- 12月17日(月) 第9回学校自己評価システム調査研究委員会
・自己評価(1年)の集計・分析結果の説明
・自己評価の集計結果を受けての各課・専門5科の対応策についての検討

学校自己評価・教職員研修会

1. 日時 平成12年7月4日(火) 16時～
2. 対象 本校 教職員
3. 会場 会議室
4. テーマ 「学校自己評価の意義と課題」
5. 講師 岡山大学教育学部 助教授 北神 正行 先生

アンケートの集計結果 (集計数は47枚)

- (1) 本日の研修会に参加して、学校自己評価の内容が
ア よく理解できた イ なんとなくわかった ウ あまりわからなかった
1 1 3 2 4
- (2) 啓発的な内容の研修会を今後開くことについて
ア 今後開いてほしい イ どちらでもよい ウ 開かなくてよい
2 4 2 0 3
- (3) 今回の研修会を通して、教職員の合意が
ア 高まっていくと思う イ よくわからない ウ 高まっていくとは思えない
1 3 2 7 7
- (4) 生徒が評価することについてどう思いますか。
ア 生徒の評価は必要だ イ まだよくわからない ウ 反対である
2 6 1 9 2
- (5) 学校自己評価全般について(今回の研修会の内容も含めて)ご意見やご感想がありましたら、コメントをお願いします。(一部を抜粋して掲載)

- ・授業に対する、生徒の評価を実施する場合、「言いたい放題」にならないように、評価項目を考える必要があると思う。「開かれた」に感わされずに教員の力量も考えながら実施すべきである。
- ・評価なくして行為は成り立たないと思いますので、大変有意義だと思います。ただ、何にしてもすべることが仕事量の増加につながっています。どうか、効率よくできる方式を考えて下さるようお願いします。「評価」を導入することで、何をやるのかも真剣に考えてほしい。
- ・改善目的の記述式が良いと思う。ただ、生徒からではなく、例えば、専門→教務課長・生徒課長・校長、普通→専門科の先生が授業参観をし、改善点を見つけることも必要では。
- ・地域、家庭、学校が協力して学校が活性化していくよう、自己評価を活用してもらいたい。
- ・学校自己評価の意義については、だいぶ理解できたと思います。しかしながら、授業などの目標については、指導内容(目標到達点)が今一步実現できていないような気がしています。今の現状に応じて自らが、その目標に向かいかに進んでいくのかという点を考えずに前進はあり得ないような気がしております。今後は「反省なくして進歩なし」という考えで行くことは大切なことだと思います。
- ・学校の改革は必要であると思う。特に本来、保護者・地域がすればよいものは返すべきだとは思う。何を返して、何を残すかというものを検討する必要があるのではないかと思う。また、評価をする場合、子供の声、又は子供の参加が必要であると思う。
- ・先生を評価するのではなく、授業を評価するものだということがよくわかりました。この点から、アンケート等の内容を考えていけばよいと思う。
- ・学校自己評価は必要と思う。結果をどのように、どのようなかたちで、誰に知らせるかにしては今後も研究の余地が大いにある。
- ・学校改善のために、授業の評価がフィードバックされるやり方について、是非実施していきたいと思った。ただし、まだ全体像については、まだはっきりとはつかめていない状況です。

教 職 員 用

次の1～59の質問は、本校の教育について、先生方が日頃どう感じているかを御ねしたものです。感じのまま回答して下さい。回答はマークカードの1～4の該当する項目の数字を鉛筆で塗りつぶして下さい。
 <1～4の項目> 1 よく当てはまる 2 やや当てはまる
 3 あまり当てはまらない 4 まったく当てはまらない
 どうしても判断がつかない場合のみ、5を選んで下さい。

1. 社会規範や市民道徳を守る意識を育てる指導をしている。
2. 人権尊重の教育において、参加体験型の学習内容・方法を取り入れるなど感性を高め指導を行っている。
3. 同和問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会を目指す主体的な生き方につながる指導をしている。
4. プライバシー保護など人権を尊重する姿勢で指導にあたっている。
5. 奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている。
6. 環境・福祉・ボランティアなど新しい教育課題を教育活動に積極的に取り入れている。
7. 教育活動において、ゴミの分別など環境を守る指導を適切に行っている。
8. 環境問題に対する関心や環境保全のための知識・実践的態度を高める指導方法の工夫をしている。
9. 生徒一人ひとりに即した効果的な指導を行うため、教員のカウンセリング技術の向上に努めている。
10. 教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる。
11. 自分の生き方を考え豊かな心を持った生徒を育てようとしている。
12. 地域の歴史・文化・伝統・自然等に関する体験的な活動を教育活動に積極的に取り入れている。
13. 特色ある学校を目指して改革に努めている。
14. インターネットを活用するなど国際理解教育を重視して、生徒の国際感覚を育てようとしている。
15. 学校の特色づくり・魅力づくりについて、教職員で日常的に話し合っている。
16. コンピューター等の情報機器が、各教科の授業などで活用されている。
17. 本校では教育目標をわかりやすくしている。
18. 学校の教育課程について、教職員で日常的によく話し合っている。
19. 教育課程の編成にあたって、学習指導要領の趣旨が生かされている。
20. 生徒が興味・関心・適性に応じて進路選択ができるようきめ細かい情報提供を行っている。
21. 就職・進学など生徒一人一人の個性を尊重したきめ細かい進路指導がなされている。
22. 生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう各学年に応じた系統的な進路指導を行っている。
23. 授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。
24. 学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。

25. 保護者や地域の人々と接する機会を多く持っている。
26. 教育活動について必要情報を積極的に収集し、教職員や生徒・保護者への周知に努めている。
27. 教育活動全般について保護者の願いによく応えている。
28. 生徒指導において、家庭との緊密な連携ができています。
29. 施設開放や公開講座等により開かれた学校づくりに取り組んでいる。
30. 保護者や地域の人々に、学校図書館等の学校施設を開放している。
31. 地元の警察等と連携し、安全教育の徹底を進めている。
32. 部活動を効率的に進めていくために地域の人材に協力をあおんでいる。
33. 各教科において基礎・基本を明確にし、教材の精選・工夫を行っている。
34. 教育活動全般にわたる評価を行い、学校行事等について次年度に向けての精選ははかられている。
35. 学校行事が生徒にとって魅力あるものにするために、工夫・改善を行っている。
36. 教職員はPTA活動によく参加している。
37. PTA活動の充実・活性化に努めている。
38. 教育計画の作成にあたって、教職員でよく話し合っている。
39. 年度当初に教育目標を掲げて指導し、年度末に評価を行い次年度の計画に生かしている。
40. 生徒の問題行為が起きたとき、組織的に対応できる体制が整っている。
41. 様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で心がけている。
42. 個人面談期間を設けるなど、生徒一人一人に対してきめ細かい指導を行っている。
43. 各専門科の特色づくりができています。
44. 実習時における体験学習が十分なされている。
45. 実習時における安全指導に努めている。
46. 各種の資格・検定の受験率や合格率の向上のための指導が充分なされている。
47. 部活動の推進・充実のため、学校を挙げての取り組みをはかっている。
48. 部活動の指導において、十分安全に配慮している。
49. ロボットコンテスト等、各種競技会への積極的な参加がなされている。
50. 生徒会活動を通じて、生徒が民主的な手続を経る、主体的に活動できるよう学校全体で支援している。
51. 教職員間の相互理解が充分なされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。
52. 日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができています。
53. 教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。
54. ホームルーム活動を主とした学級経営の改善に、学級や学年・学校全体で取り組んでいる。
55. 職員会議を始め各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している。
56. 本校では、公文書の授受・発送・保管に対する管理が充分なされている。
57. 近隣中学校などとの校種間連携の機会を設け、教育活動全般に生かしている。
58. 施設・設備について日常的に点検や管理が行われている。
59. 金銭・物品の管理方法について共通理解をしている。

ご協力ありがとうございました。

資料IV-①：評価票 (教職員用)

資料IV-④：評価票 (生徒用)

評 価 項 目 表 (生 徒 用)

() 科 () 年

この調査は、みなさんの学校生活をより充実したものにし、学校をさらによくなるための資料にします。次の質問に、みなさんが日頃どう感じているかをこの調査表に記入してください。回答は、マークカードの1～4の該当する項目の数字を鉛筆で塗りつぶしてください。
 <1～4の項目> 1 よく当てはまる 2 やや当てはまる 3 あまり当てはまらない 4 全く当てはまらない
 ※どうしても判断がつかない場合、5を選んでください。

- 1 学校へ行くのが楽しい
- 2 この学校には、他の学校にはない特色がある。
- 3 他の先生や生徒に知られてくれない秘密や生活がしやすいうらまを感じている。
- 4 教員・特別教室・運動場などは、授業や生活がしやすいうらまを感じている。
- 5 本校の施設・設備・校風のよさは、すぐに感じられる。
- 6 本校は教室・廊下・階段等の校風美化に努めている。
- 7 環境問題や環境保全について学んでいる。
- 8 プライバシー活動やボランティア活動に参加している。
- 9 内容がわかりやすく楽しい授業が多い。
- 10 授業では、実験・観察・実習などの時間が多くとられている。
- 11 自分の考えをまとめるたり、発表する機会が多い。
- 12 先生は、責任をもった授業やその他の仕事に当たっている。
- 13 学習の計画は、テストだけでなく、生徒の努力や学習態度を考慮して行われている。
- 14 ホール・ホールなどで将来の進路や生き方について考える機会がある。
- 15 いじめのない生活環境が、クラス全体で積極的に保たれている。
- 16 ホール・人権活動は活発で、クラス全体で積極的にかかわっている。
- 17 生徒会活動に積極的に関心を持っている。
- 18 学校行事は、みんなが楽しく参加している。
- 19 学校生活についての先生との相談は積極的に行われている。
- 20 先生は協力して生徒指導に当たっている。
- 21 先生は協力して生徒指導に当たっている。
- 22 先生は協力して生徒指導に当たっている。
- 23 命の大切や社会のルールについて学ぶ機会が多い。
- 24 校風・進路などに関する学校の進路指導は充実している。
- 25 各種の資格・検定の受験率や合格率の向上のための指導が十分なされている。
- 26 学校で授業や体験活動の計画が組まれたり、その計画を実行する機会がある。
- 27 学校で不審者を発見したり、その危険を感じた場合、どのように行動すればよいか知らされている。
- 28 部活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い。
- 29 戸籍資料、消印など部活動等の施設設備の利用方法について、適切な指導がなされている。

学校をさらによくなるために、こうすればよいという考えがあったら、書いてください。

この調査の項目で、なくともよいものや付け加えた方がよいものがあれば、理由とともに書いてください。

この調査の質問で、表現をあらためた方がよいものがあれば、理由とともに書いてください。

※マークカードとこの用紙を、7月2日(月)までに担任の先生へ提出してください。

評価結果の集計と分析

平成13年9月4日

《評価の実施方法》

対象	教員(非常勤者を除く)及び事務室	2, 3年生の生徒及び保護者
回収方法	6月21日(木)職員会議で配布。 教科主任を通して、 6月29日(金)までに提出。 無記名。	6月25日(月)SHRで配布。 担任を通して、 7月2日(月)までに提出。 無記名。
備考	1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:全くあてはまらない 5:分からない で回答し、マークカードに記入。 別紙に、意見を文章表記する。	1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:全くあてはまらない 5:分からない で回答し、マークカードに記入。 別紙に、意見を文章表記する。 生徒と保護者は同じ1枚のマークカードに記入。 マークカードと文章表記の用紙を封筒に入れて担任に提出。

《評価の実施状況》

1. マークカードの提出状況

	教職員	生徒・保護者							
		全体	3年	2年	M科	E科	C科	A科	I科
対象人数	89	695	346	349	157	153	75	152	158
回収枚数	75	564	257	307	115	122	69	120	138
回収率	84.3	81.2	74.3	88.0	73.2	79.7	92.0	78.9	87.3

2. 文章表記の用紙の提出状況

提出率は、教職員4.5%、生徒64.3%、保護者68.2%であった。
教職員の場合は、すべて記入があった。生徒、保護者のものは、記入がないものがほとんどであった。

《分析結果の概要》

本校は、生徒指導を主体とした学校であることが特徴づけられている。教職員は、現在の生徒指導の体制を肯定し教育効果が上がっていると考えているのに対し、生徒は、現在の生徒指導が厳しすぎると感じ、より緩やかなものになることを希望している。保護者は、もう少し緩やかな生徒指導にしたいのではないかと考えながらも、現在の体制を肯定している。どの程度がよいのかは、その時代に合った学校の特徴であり、一概に判断できないが、常に周囲の状況を把握し、耳を傾けていく姿勢であることは必要であろう。なお、進路指導、資格取得の指導、部活動の活発さについては、教職員、生徒、保護者いずれも高い評価を与えている。

1. 教職員の評価について

平成13年1月に実施したものと大きな違いは見られなかった。
心の教育や学校の特色づくりについて、教職員個人として、高い関心がうかがえる。具体的には、教育課程、専門科目、生徒指導、進路指導、部活動、資格取得、ボランティアといった項目に高い評価を与えている。これは、その指導体制や成果に一定の満足感を持っている現れであると考えられる。また、国際理解教育、地域の歴史・文化・伝統・自然等に関する指導といった新しい教育課題についてはまだ十分に行われていないとする意見が多く、取り組みに対する困難さがかがえる。
特別活動について、学校行事や生徒会活動に見られるように、教員主導で行われていると考え、もっと生徒の積極的な参加を促すべきであるとする人が少なからず見られる。
危機管理について、災害に対する各自の役割意識は高いが、事件に対する各自の役割について、はっきりしていないと考える人が多い。
対外的な活動について、教職員はPTA活動にあまり参加していないと考えている人が多いように、外部との接触には消極的な傾向が見られる。
大きな問題点として、親睦を図る機会が多いとする一方で、教職員間の信頼関係に疑問を持っている人が多いという点である。このため、教職員間の意思疎通が不十分で、自らの悩みを素直に打ち明ける場が少ないと考え、個人内で物事を処理しようという傾向が現れている。その1つに校内分掌の不満であり、意欲的に取り組めないと考えて

いる人が多い。また、教育能力向上のための積極的な取り組みをしている人は半数程度である。今後管理・運営面で改善を図り、教職員が納得し、信頼関係の中で教育活動に専念できる職場環境をつくっていくことが望まれる。

2. 生徒の評価について

学校に対して、部活動、進路指導や資格取得のための指導に高い評価を与えているものの全体として厳しい評価がされている。生徒は、自分たちの意見は聞いてもらえないと強く感じているものが多い。この思いが根底にあるため教員側に不信感を持ち、秘密は守られないとする意見が多数あったり、指導に納得がいらず(具体的には、服装、頭髪、携帯電話についての指導)、相談にも行かないという傾向が見られる。反面、社会のルール等について学ぶ機会が少なくと感じている生徒もいて、生徒指導に期待をしている生徒もかなりいると考えられる。生徒と教員との信頼関係を築いていくことが求められている。
授業については、楽しいと感じられない生徒が多いものの教員の取り組みに一定の評価をしている。実験・観察・実習などの時間がたくさんあると考えている一方で、自分の考えをまとめたり発表する機会が少ないと感じている。また、環境に関する学習や奉仕活動に参加していないと考える生徒が多数である。学習の評価方法はよく理解している。
特別活動については、将来の進路や生き方について考える機会があり、民主的なHRづくりに努力しているとしながらも、HR活動に活気がなく積極的にかかわれないとする生徒が多い。生徒会活動、学校行事といった集団での活動に魅力を感じず避けようとする傾向が見られる。
危機管理については、災害の時の行動の仕方は理解しているが、犯罪に対する対処法については知らされていないと考えている生徒が多い。
施設設備については、空調設備を整備してもらいたいとする意見がかなり多い。また、壊れたところもなかなか修理されないと感じている一方で校内美化には力を入れていると感じている生徒が多い。

3. 保護者の評価について

全体として、年に1, 2回程度しか学校に行かないので詳しいことは分からないとする意見が多いものの高い評価を与えている。
生徒指導について、一定の評価を与えている一方で、子供の話をよく聞いてじっくりと語り合ってもらいたいとする意見が多数である。また、学校での様子が十分に伝わっていないと感じる保護者が多く、また、保護者や地域の人たちと話す機会も少ないとする意見がかなり見られた。家庭への情報提供といった広報活動が求められる。
学習については、環境・国際理解・福祉ボランティア等や感動する心を育てる教育はあまり行われておらず、楽しい授業は少ないと考えている保護者が多い。学習の評価方法はよく理解されている。
施設設備については、おおむね満足をしているようだが、空調設備等の整備を求める意見が少なからずある。
部活動については、かなり高い評価を与えている一方で、指導方法が疑問であるとする意見もあった。具体的には、部活動を主目的に入学した生徒がリタイアした場合の学校のケア、レギュラーになれない部員の対応、部顧問と担任の連携等である。

《今後の課題》

教職員間の信頼関係を築き、お互いをサポートすることができる体制づくりが望まれる。これにより、反省の上に立った行事の改革、より活発なホームルーム活動等が行われるようになり、教育能力向上のための啓発活動にもつながると考える。
生徒、保護者が求めている、「生徒とじっくりと話をしてもらいたい」という声にどのようにこたえていくのか、これにこたえていくことで、生徒会活動、学校行事やHR活動の活性化につながる。また、PTA活動への参加、家庭への連絡や情報提供といった広報活動を進めていくことで、外部の協力が得やすくなる。
教職員、生徒、保護者のいずれもで一定の評価が与えられている。進路指導、資格取得の指導、部活動への取り組みを今後も継続していき、また、事件に対する各自の役割分担については早急に明確化する必要がある。
新しい教育の分野である、外部の人たちとの協力、参加体験型の学習内容・方法、国際理解教育、地域の歴史・文化・伝統・自然等に関する指導については、今後の研究を待ちたい。また、空調設備の整備は今後の課題である。

《備考》

アンケートの実施方法については、高い回収率を上げており、関係方面の協力も得られよかったと考える。しかし、アンケート項目については、保護者や生徒のもので、「5:分からない」の選択率がかなり高く検討を要する。また、全体的に項目数が多いので、精選し表現もより分かりやすいものに変えていく必要がある。文章表記については、妥当であったと考える。
今回の自己評価で明らかになった課題について今後どのように取り組んでいくのか。この学校自己評価を実施していく部署も含めて、校内の組織体制を整備していく必要がある。

平成12年度 評価結果一覧表（教職員）

評価項目	評価単位	審 査 問 項	評価結果	
教育計画	教育目標	11 自分の生き方を考え豊かな心を持った生徒を育てようとしている。	2.29 ○	
		13 特色ある学校を目指して改革に努めている。	1.98 ○○	
		15 学校の特色づくり・魅力づくりについて、教職員で日常的によく話し合っている。	2.47 ○	
		17 本校では教育目標をわかりやすくしている。	1.98 ○○	
		34 教育活動全般にわたる評価を行い、学校行事等について次年度に向けての精選ははかられている。	2.51 ×	
		38 教育計画の作成に当たって、教職員でよく話し合っている。	2.40 ○	
		39 年度当初に教育目標を掲げて指導し、年度末に評価を行い次年度の計画に生かしている。	2.32 ○	
		43 各専門科の特色づくりができています。	1.84 ○○	
		18 学校の教育課程について、教職員で日常的によく話し合っている。	2.28 ○	
		19 教育課程の編成に当たって、学習指導要領の趣旨が生かされている。	2.26 ○	
		教育課程	道徳教育	1 社会規範や市民道徳を守る意欲を育てる指導をしている。
2 人権尊重の教育において、参加体験型の学習内容・方法を取り入れるなど、感性を高める指導を行っている。	2.38 ○			
3 仲間問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会を目指す主体的な生き方につながる指導を行っている。	2.03 ○			
5 奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている。	1.70 ○○			
6 環境・福祉・ボランティアなど新しい教育課題を教育活動に積極的に取り入れている。	1.93 ○○			
専任・環境・国際教育	専任・環境・国際教育	7 教育活動において、ゴミの分別など環境を守る指導を適切に行っている。	1.52 ○○	
		8 環境問題に対する関心や環境保全のための知識・実践的態度を高める指導方法の工夫を行っている。	2.29 ○	
		14 インターネットを活用するなど国際理解教育を重視して、生徒の国際感覚を育てようとしている。	2.70 ×	
		23 授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。	2.88 ×	
		33 各教科において基礎・基本を明確にし、教科の精選・工夫を行っている。	1.98 ○○	
各教科	指導	44 実習時における体験学習が十分なされている。	1.74 ○○	
		45 実習時における安全指導に努めている。	1.54 ○○	
		46 各履の資格・検定の受験率や合格率の向上のための指導が十分なされている。	1.65 ○○	
		12 地域の歴史・文化・伝統・自然等に関する体験的な活動を教育活動に積極的に取り入れている。	2.96 ×	
		35 学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。	2.45 ○	
		47 部活動の推進・充実のため、学校を挙げての取り組みをはかっている。	1.58 ○○	
		48 部活動の指導において、十分安全に配慮している。	1.67 ○○	
		49 ロボットコンテスト等、各種競技会への積極的な参加がなされている。	1.41 ○○	
		50 生徒会活動を通じて、生徒が主体的な平積みを経て、主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	2.49 ○	
		41 様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で心がけている。	1.80 ○○	
		生活指導	指導組織	40 生徒の問題行動が起きたとき、組織的に対応できる体制が整っている。
4 プライバシー保護など人権を尊重する姿勢で指導にあっている。	1.88 ○○			
10 教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる。	2.03 ○			
42 個人面談期間を設けるなど、生徒一人一人に対してきめ細かい指導を行っている。	1.54 ○○			
20 生徒が興味・関心・適正に応じて進路選択ができるようきめ細かい情報提供を行っている。	1.78 ○○			
進路指導	指導	21 就職・進学など生徒一人一人の個性を尊重したきめ細かい進路指導がなされている。	1.65 ○○	
		22 生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう各学年に応じた体系的な進路指導を行っている。	1.84 ○○	
		29 火災や地震といった災害に対して迅速かつ適切な対応ができるよう、役割分担が明確化されている。	1.93 ○○	
		30 不審者の進入、盗難といった事件等に対して迅速かつ適切な対応ができるよう、役割分担が明確化されている。	2.50 ○	
		31 実習時における安全指導に努めている。	1.41 ○○	
健康・安全	指導組織	32 交通安全に対する意識を高める指導に努めている。	1.75 ○○	
		33 部室等の施設の利用を含め、部活動の指導において十分安全に配慮している。	2.03 ○	
		34 教育目標を達成するために、校内組織の編成や運営方法は適切に行われている。	2.28 ○	
		35 教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が主体的に取り組める環境にある。	2.80 ×	
		38 ホール・ホームルーム活動を主とした学級経営の改善に、学級や学年・学校全体で取り組んでいる。	2.41 ○	
経営・組織	経営方針の達成	51 教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が主体的に取り組める環境にある。	2.80 ×	
		52 日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係が保たれている。	2.65 ×	
		53 教職員の間で相互理解が十分なされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	2.65 ×	
		54 ホール・ホームルーム活動を主とした学級経営の改善に、学級や学年・学校全体で取り組んでいる。	2.40 ○	
		55 職員会議を始め各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している。	2.34 ○	
	研究・研修	計画・実施	9 生徒一人ひとりに即した効果的な指導を行うため、教員のカウンセリング技術の向上に努めている。	2.53 ×
			2 学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。	3.44 × ×
			26 教育活動に必要な情報を積極的に収集し、教職員や生徒・保護者への周知に努めている。	2.51 ×
			56 本校では、公文書の授受・発送・保管に対する管理が充分なされている。	1.88 ○○
			29 施設開放や公開講座等により開かれた学校づくりに取り組んでいる。	1.91 ○○
			25 保護者や地域の人々と接する機会を多く持っている。	2.29 ○
情報	情報の収集・整理	27 教育活動全般について、生徒や保護者の願いによく応えている。	2.35 ○	
		28 生徒指導において、家庭との緊密な連携ができています。	1.80 ○○	
		36 教職員はPTA活動によく参加している。	2.64 ×	
		37 PTA活動の充実・活性化に努めている。	2.12 ○	
		31 地元の警察等と連携し、安全教育の徹底を進めている。	2.16 ○	
連携	家庭・関係団体との連携	32 部活動を効果的に進めていくために地域の人材に協力をおいただいている。	2.30 ○	
		57 近隣中学校などとの校種間連携の機会を設け、教育活動全般に生かしている。	2.09 ○	
		30 保護者や地域の人々に、学校図書等の学校施設を開放している。	3.01 × ×	
		58 施設・設備について日常的に点検や管理が行われている。	2.01 ○	
		16 コンピュータ等の情報機器が、各教科の授業などで活用されている。	2.25 ○	
施設・設備	校地・校舎等の管理・活用	16 コンピュータ等の情報機器が、各教科の授業などで活用されている。	2.25 ○	
		59 金銭・物品の管理方法について共通理解をしている。	2.18 ○	
		51 保護者や地域の人々に、施設開放や公開講座等により開かれた学校づくりに取り組んでいる。	2.00 ○○	
		52 施設・設備について日常的に点検や清掃・消灯、施設などの管理が行われている。	1.95 ○○	
		53 コンピュータ等の情報機器が、各教科の授業などで活用されている。	2.37 ○	
出納・経理	出納・経理	54 金銭の支払いや物品の管理が適正に行われている。	1.81 ○○	
		55 環境問題等に配慮して、学校全体で省エネや経費削減に心がけて取り組んでいる。	2.23 ○	

（備考） ・ 1:よくあてはまる、2:ややあてはまる、3:あまりあてはまらない、4:全くあてはまらない で回答。
 ・ 平成13年1月11日配布、平成13年1月15日回収。回収率100%
 ・ ○○:(評価結果)≦2、○:(評価結果)≦2.5、×:(評価結果)≦3、××:(評価結果)≦3.5 で標示。

平成13年度 評価結果一覧表（教職員）

評価項目	評価単位	審 査 問 項	評価結果	
教育計画	教育目標	1 1 自分の生き方を考え豊かな心を持った生徒を育てようとしている。	1.86 ○○	
		2 2 学校の特色づくり・魅力づくりについて、教職員で日常的によく話し合っている。	2.43 ○	
		3 3 本校では教育目標をわかりやすくしている。	2.05 ○	
		4 4 教育活動全般にわたる評価を行い、学校行事等について次年度の計画に生かしている。	2.54 ×	
		5 5 各専門科の特色づくりができています。	1.82 ○○	
		6 6 学校の教育課程について、教職員で日常的によく話し合っている。	2.18 ○	
		7 7 教育課程の編成に当たって、学習指導要領の趣旨が生かされている。	2.04 ○	
		8 8 社会規範や市民道徳を守る意識を育てる指導をしている。	1.78 ○○	
		9 9 人権尊重の教育において、参加体験型の学習内容・方法を取り入れるなど、感性を高める指導を行っている。	2.49 ○	
		10 10 仲間問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会を目指す主体的な生き方につながる指導を行っている。	2.33 ○	
		教育課程	道徳教育	11 11 奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている。
12 12 教育活動において、ゴミの分別など環境を守る指導を適切に行っている。	1.57 ○○			
13 13 インターネットを活用するなど国際理解教育を重視して、生徒の国際感覚を育てようとしている。	2.77 ×			
14 14 各教科においてわかりやすい授業をするため、教科の精選・工夫を行っている。	2.10 ○			
15 15 実習時における体験学習が十分なされている。	1.73 ○○			
各教科	指導	16 16 各種の資格・検定の受験率や合格率の向上のための指導が十分なされている。	1.56 ○○	
		17 17 地域の歴史・文化・伝統・自然等に関する体験的な活動を教育活動に積極的に取り入れている。	2.93 ×	
		18 18 学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。	2.45 ○	
		19 19 部活動の推進・充実のため、学校を挙げての取り組みをはかっている。	1.84 ○○	
		20 20 ロボットコンテスト等、各種競技会への積極的な参加がなされている。	1.54 ○○	
生活指導	全体計画	21 21 生徒会活動を通じて、生徒が主体的な平積みを経て、主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	2.49 ○	
		22 22 様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で心がけている。	1.91 ○○	
		23 23 生徒の問題行動が起きたとき、組織的に対応できる体制が整っている。	1.73 ○○	
		24 24 プライバシー保護など人権を尊重する姿勢で指導にあっている。	1.97 ○○	
		25 25 教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる。	1.97 ○○	
		26 26 個人面談期間を設けるなど、生徒一人一人に対してきめ細かい指導を行っている。	1.65 ○○	
		27 27 就職・進学など生徒一人一人の個性を尊重したきめ細かい進路指導がなされている。	1.61 ○○	
		28 28 生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう各学年に応じた体系的な進路指導を行っている。	1.84 ○○	
		29 29 火災や地震といった災害に対して迅速かつ適切な対応ができるよう、役割分担が明確化されている。	1.93 ○○	
		30 30 不審者の進入、盗難といった事件等に対して迅速かつ適切な対応ができるよう、役割分担が明確化されている。	2.50 ○	
		31 31 実習時における安全指導に努めている。	1.41 ○○	
健康・安全	指導組織	32 32 交通安全に対する意識を高める指導に努めている。	1.75 ○○	
		33 33 部室等の施設の利用を含め、部活動の指導において十分安全に配慮している。	2.03 ○	
		34 34 教育目標を達成するために、校内組織の編成や運営方法は適切に行われている。	2.28 ○	
		35 35 教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が主体的に取り組める環境にある。	2.80 ×	
		38 38 ホール・ホームルーム活動を主とした学級経営の改善に、学級や学年・学校全体で取り組んでいる。	2.41 ○	
経営・組織	計画・実施	39 39 職員会議を始め各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している。	2.42 ○	
		38 38 生徒一人ひとりに即した効果的な指導を行うため、教員のカウンセリング技術の向上に努めている。	2.64 ×	
		39 39 自らの教育活動に対する能力を向上させる研修会などに、積極的に参加している。	2.45 ○	
		40 40 学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。	3.31 × ×	
		41 41 本校では、公文書の授受・発送・保管に対する管理が充分なされている。	2.07 ○	
情報	情報の活用・提供・公開	42 42 教育活動に必要な情報を積極的に収集し、教職員や生徒・保護者への周知に努めている。	2.32 ○	
		43 43 教職員間の総意を図る機会が多く、参加しやすい雰囲気がある。	2.43 ○	
		44 44 日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係が保たれている。	2.51 ×	
		45 45 保護者や地域の人々と接する機会を多く持っている。	2.49 ○	
		46 46 教育活動全般について、生徒や保護者の願いによく応えている。	2.35 ○	
	連携	家庭・関係団体との連携	47 47 生徒指導において、家庭との緊密な連携ができています。	1.80 ○○
			48 48 教職員はPTA活動によく参加している。	2.78 ×
			49 49 安全教育を徹底させるために、地元の警察や消防等との連携に努めている。	2.15 ○
			50 50 部活動を効果的に進めていくために地域の人材に協力をおいただいている。	2.38 ○
			51 51 保護者や地域の人々に、施設開放や公開講座等により開かれた学校づくりに取り組んでいる。	2.00 ○○
			52 52 施設・設備について日常的に点検や清掃・消灯、施設などの管理が行われている。	1.95 ○○
施設・設備	校地・校舎等の管理・活用	53 53 コンピュータ等の情報機器が、各教科の授業などで活用されている。	2.37 ○	
		54 54 金銭の支払いや物品の管理が適正に行われている。	1.81 ○○	
		55 55 環境問題等に配慮して、学校全体で省エネや経費削減に心がけて取り組んでいる。	2.23 ○	
		56 56 学校の特色づくり・魅力づくりについて、教職員で日常的によく話し合っている。	2.43 ○	
		57 57 本校では教育目標をわかりやすくしている。	2.05 ○	
出納・経理	出納・経理	58 58 施設・設備について日常的に点検や管理が行われている。	2.01 ○	
		59 59 金銭・物品の管理方法について共通理解をしている。	2.18 ○	

（備考） ・ 1:よくあてはまる、2:ややあてはまる、3:あまりあてはまらない、4:全くあてはまらない、5:分からない で回答。
 ・ 平成13年6月21日配布、平成13年6月29日回収。総回収枚数75部（対象人数89人）。
 ・ ○○:(評価結果)≦2、○:(評価結果)≦2.5、×:(評価結果)≦3、××:(評価結果)≦3.5 で標示。

平成13年度 評価結果 一覧表（生徒・保護者）

＜生徒＞		質問項目	評価結果					
評価項目	評価単位		2,3年	1年				
学校運営	教育計画	1 学校へ行くのが楽しい。	2.34	○	2.06	○		
		2 この学校には、他の学校にはない特色がある。	2.15	○	2.01	○		
		3 他の先生や生徒に知られたくない秘密を守ってくれる。	2.58	x	2.52	x		
	情報・連携	施設・設備	4 教室・特別教室・運動場などは、授業や生活がしやすいよう整備されている。	2.70	x	2.30	○	
			5 学校の施設・設備のこわれたところは、すぐに修理される。	2.79	x	2.66	x	
			6 本校は教室・廊下・階段等の校内美化に努めている。	2.41	○	2.53	x	
	生涯学習	7 環境問題や環境保全について学んでいる。	2.73	x	2.65	x		
		8 ボランティア活動や奉仕活動に積極的に参加している。	2.61	x	2.62	x		
		9 内容がわかりやすく、楽しい授業が多い。	2.99	x	2.09	x		
	教科指導	指導	10 授業では、実験・観察・実習などの時間がたくさん設けられている。	2.24	○	2.28	○	
			11 自分の考えをまとめたり、発表する授業が多い。	2.98	x	2.81	x	
			12 先生は、責任をもって、授業やその他の仕事に当たっている。	2.42	○	2.12	○	
			13 学習の評価は、テストだけでなく、生徒の努力や授業態度等を含めて行われている。	1.87	○	1.73	○	
			14 ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある。	2.08	○	2.32	○	
			15 いじめのない良質なホームルームづくりに努力している。	2.24	○	2.06	○	
			16 ホームルーム活動は活発で、クラス全体で積極的にかかわっている。	2.62	x	2.42	○	
			17 生徒会活動に関心を持っている生徒が多い。	3.28	x	3.19	x	
			18 学校行事は、みんなが楽しくなるよう工夫している。	2.76	x	2.43	x	
生徒指導			指導	19 学校は生徒の意見をよく聞いている。	3.15	x	2.75	x
				20 学校生活についての先生の指導は納得できる。	3.03	x	2.58	x
				21 先生は協力して生徒指導に当たっている。	2.33	○	2.04	○
	22 先生は生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれるので、気軽に相談できる。	3.02		x	2.68	x		
進路指導	指導	23 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い。	2.52	x	2.35	○		
		24 就職・進学などに關する学校の進路指導は役立つ。	2.05	○	2.04	○		
		25 各種の資格・検定の受験率や合格率の向上のための指導が十分なされている。	2.10	○	2.13	○		
健康安全	指導	26 学校で地震や火災などの災害が起こった場合、どのように行動すればよいか知らされている。	2.21	○	1.97	○		
		27 学校で不審者を発見したり、身の危険を感じた場合、どのように行動すればよいか知らされている。	2.85	x	2.67	x		
		28 部活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い。	1.98	○	1.73	○		
課外活動	部活動	29 戸籍まわり、消防など部室等の施設設備の利用方法について、適切な指導がなされている。	2.21	○	2.07	○		

＜保護者＞		質問項目	評価結果					
評価項目	評価単位		2,3年	1年				
学校運営	教育計画	51 学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。	1.92	○	1.73	○		
		52 この学校は他の学校にない独自の教育活動に取り組んでいる。	1.92	○	1.80	○		
		53 子どもは、学校へ行くのが楽しい様子である。	1.92	○	1.76	○		
	情報・連携	施設・設備	54 学校では、教職員が協力し合って学校運営に当たっている。	1.84	○	1.76	○	
			55 学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である。	1.69	○	1.61	○	
			56 学校は、保護者や地域の人たちと話をする機会を多く持っている。	2.43	○	2.29	○	
	生涯学習	指導	57 学校では、PTA活動は活発である。	2.22	○	2.08	○	
			58 学校は、生徒の出入りや学習状況についてよく連絡してくれる。	2.18	○	2.08	○	
			59 学校は、地域の施設や人材を教育活動に活用しようとする姿勢がある。	2.18	○	2.13	○	
	教科指導	指導	60 学校の施設・設備は、ほぼ満足できる。	2.18	○	2.07	○	
			61 学校は校内の美化や施設の整備に努めている。	1.93	○	1.91	○	
			62 保護者や地域の人々に、施設開放や公開講座等により開かれた学校づくりに取り組んでいる。	2.17	○	2.12	○	
			63 学校では、環境・国際理解・福祉ボランティア等について学んでいるようだ。	2.27	○	2.32	○	
			64 学校では、体験活動や芸術鑑賞など感動する心を育てる教育に取り組んでいる。	2.28	○	1.98	○	
			65 内容がわかりやすく、楽しい授業が多いようだ。	2.45	○	2.33	○	
			66 テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている。	1.83	○	1.82	○	
			67 生徒は、自分の学校が楽しいといっている。	2.09	○	1.89	○	
			68 各種委員会や学校行事への協力など、生徒会活動は活発である。	2.02	○	2.00	○	
69 文化祭・体育大会・宿泊行事などの学校行事は、生徒が積極的に参加できるよう工夫されている。			1.89	○	1.81	○		
生徒指導			指導	70 学校の生徒指導の方針に共感できる。	2.02	○	1.83	○
				71 学校は、生徒に生命を大切にすることや社会ルールを守る態度を育てようとしている。	1.77	○	1.72	○
	72 先生は、すべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で教育に当たっている。	2.10		○	2.00	○		
	73 学校は、子どもの様子について連絡・相談したことに適切に対応してくれる。	1.97		○	1.88	○		
進路指導	指導	74 進路指導面で、学校は家庭への連絡や情報提供を行い、きめ細やかな指導を行っている。	2.13	○	2.04	○		
		75 子どもは、様々な悩みを、先生に気軽に相談することができるようだ。	2.69	x	2.44	○		
		76 子どもは、地震や火災などの災害が起こった場合、どのように行動すればよいか知らされている。	2.18	○	2.00	○		
課外活動	部活動	77 子どもは、不審者を発見したり、身の危険を感じた場合、どのように行動すればよいか知らされている。	2.23	○	2.13	○		
78 学校の部活動は活発である。	1.51	○	1.31	○				

（備考） 1:よくあてはまる、2:ややあてはまる、3:あまりあてはまらない、4:全くあてはまらない、5:分からないで回答。
 ・ 2,3年生:平成13年8月25日配布、平成13年7月2日回収。回収枚数 生徒・保護者564部(在籍生徒数695人)、回収率81.2%
 ・ 1年生:平成13年11月22日配布、平成13年11月29日回収。回収枚数 生徒・保護者296部(在籍生徒数317人)、回収率93.4%
 ・ ○○:(評価結果)≦2、○:2<(評価結果)≦2.5、x:2.5<(評価結果)≦3、x x:3<(評価結果)で表示。

V 県立井原高等学校における実践事例

1 学校概要

本校は、明治36年に設置された井原女学校を前身とし、昭和23年の学制改革によって現在の岡山県立井原高等学校（3年制全日制普通課程）となり、平成15年には、創立100周年を迎える伝統校である。

岡山県西部の井原市の中心に位置し、周辺には田中美術館や市民会館等の文化施設が存在する落ち着いた環境のもとにある。「誠実・創造・自律」を校訓とし、自ら学び自ら活動する意欲的かつ快活な校風のもと、生徒たちは大変熱心に学業と部活動の両立に取り組んでいる。

表1 在籍生徒数（平成13年5月1日現在）

科 名	第1学年		第2学年		第3学年		合計			
	学級数	男子	女子	学級数	男子	女子				
普通科	4	83	73	4	74	84	5	93	98	
計		156		158				191		505

2 調査研究のねらいと調査研究計画

(1) 調査研究のねらい

本校では、学校行事終了後にアンケートを実施し、その内容等についてその都度反省を行っている。また、年度末に分掌ごとにその活動について反省を行い次年度に生かしてきた。しかし、年度末に学校全体で総合的に判断しようという観点や、教育目標の達成及び特色ある学校づくりのような大きな目標の達成についての評価は不十分であった。また、本校の様々な教育活動についての外部からの評価も不十分であった。

このたび、学校自己評価調査研究モデル校の指定を受けて、県立学校における学校自己評価の評価項目や評価方法、及びその活用の在り方等について、平成12・13年度の2年間研究と調査に当たってきた。

この調査研究を通して、新高等学校学習指導要領の基本的ねらいの一つである「各学校が創意工夫を生かし、特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること」を踏まえ、学校教育目標の達成を目指して、学校組織と教育活動を活性化させ、学校自らが自校の教育を総合的に点検し、改善する姿勢を明らかにすることによって、保護者や地域住民に理解され、支持される「開かれた学校づくり」を進めることをねらいとした。

(2) 調査研究計画の概要

区 分	調 査 研 究 内 容
平成12年度 (第1年次)	<p>① 学校自己評価調査研究委員会の設置</p> <p>② 学校自己評価実施に向けての計画</p> <p>ア 評価の意義・目的の確認</p> <p>イ 評価項目の作成</p> <p>ウ 評価基準の作成</p> <p>エ 評価実施対象者の選定</p> <p>オ 実施時期の決定</p> <p>カ 保護者や地域住民への説明の在り方の研究</p> <p>キ 学校自己評価結果の活用の在り方の研究</p>
	<p>③ 学校自己評価の実施</p> <p>ア 生徒用・教職員用アンケートの実施</p> <p>イ 年度末評価の実施</p> <p>ウ 評価結果を活用しての学校改善の検討</p>

区 分	調 査 研 究 内 容
平成13年度 (第2年次)	エ 改善案の作成・実施 オ 保護者用アンケートの実施と結果の活用・説明 カ 生徒用アンケートの結果の説明 ④ 成果と課題のまとめ ⑤ 次回の実践に向けての計画の改善 ⑥ 調査・研究のまとめ

3 調査研究の概要

(1) 調査研究組織

この調査研究のために、次のような組織を設けた。

- ① 学校自己評価調査研究小委員会（以下小委員会とする。）
調査研究の計画及び具体案の立案を行い、学校自己評価調査研究委員会へ提言をする。
メンバーは、教頭、教務課長・同補佐、生徒課長・同補佐、進路課長・同補佐、事務室担当者（庶務係長）の8名とした。
- ② 学校自己評価調査研究委員会（以下大委員会とする。）
小委員会の提言を受け、調査研究の内容を審議・決定する。
メンバーは、校長、PTA会長、事務長、学年主任、小委員会のメンバーの14名とした。PTA会長をメンバーに加えたのは、外部の意見を得るためである。
- ③ 学校自己評価調査研究評議会（以下評議会とする。）
学校自己評価の結果を受け、保護者や地域住民への意見聴取を必要とする内容や学校外への働き掛けを必要とする課題について意見や助言を求める。
メンバーは、校長、教頭、教務課長・同補佐、PTA会長、同窓会長、本校卒業生、地域住民等10名程度とした。

(2) 評価項目

評価項目は、まず教育活動（教育目標・教育課程など）と教育諸条件（施設設備など）に分かれる。これらの評価項目は、県立学校の共通項目の三つの観点（観点Ⅰ：豊かな心を培う教育、観点Ⅱ：個性と創造力をはぐくむ教育、観点Ⅲ：学校・家庭・地域社会の連携）に基づいて作成した。

本校では、共通項目だけでなく、学校独自の評価項目についても、この三つの観点に基づいて評価項目を作成した。また、他県の例などにとらわれず、極力本校独自のものを目指した。

以上に沿って、生徒・保護者・教職員に対してそれぞれアンケート（評価票）を作成した。作成したアンケートを資料V-①～③に示す。また、同じ評価項目に対する三者の評価の違いを明確にするため、表現は異なる場合もあるができるだけ同じ内容について質問することにした。

評価項目の作成の流れを図1に、作成した観点別の評価項目数を表2に示す。



図1 評価項目の作成の経過

表2 観点別の評価項目数

	観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ	学校独自の評価項目		合 計
	①②③④⑤⑥	①②③④	①②③④⑤	教育活動	教育諸条件	
生徒	211111	2111	10100	9	5	28
保護者	200012	2111	30001	10	1	25
教職員	322221	2532	41111	12	9	53

(3) 評価実施対象者

評価実施対象者は次のとおりである。

- 全生徒（無記名、学年のみ記入）
- 2・3年生全保護者（無記名、学年のみ記入）
- 全教職員（無記名）

保護者に関して、2・3年生の保護者に対象を限ったのは、平成13年5月のPTA評議員会及び総会で趣旨説明をした後アンケートの実施をしたためである。全保護者を対象にしたのは、本校は学校規模が小さく、PTAの役員等だけに評価対象者を限るとその数がたいへん少なくなるからである。また、地域住民については、調査対象者の選定方法が困難であることと、学校の内容についての理解度にばらつきが大きく調査結果を学校運営に生かすに、と考える調査対象としないこととした。

(4) 評価基準

評価基準に関しては、「よくあてはまる・ややあてはまる・あまりあてはまらない・全くあてはまらない」の4段階の評価とした。3段階または5段階の評価も考えられたが、それらでは、よし悪しの判断を避け真中に評価しがちになり、結果の判断がつきにくいことが予想されたからである。ただし、どうしても判断がつかない場合には空欄でよいことを明記しておいた。また、問題点を明確にするため、空欄については集計結果から除外することとした。以上のように、分析のしやすさを考え4段階評価の項目を基本とするが、教職員に対するアンケートには、具体的な提言や問題点の指摘を受けるため、記述による評価も取り入れることにした。

(5) 実施時期

実施時期と回答数（率）は次のとおりである。

- 生徒：平成13年2月13日
回答数 1年生152名、2年生179名、3年生148名
- 教職員：平成13年2月16日
回答数 43名
- 保護者：平成13年5月16日
回答数（率）
2年生 44名（28%）
3年生 83名（43%）
合計 127名（36%）

生徒については、終礼時に趣旨を説明し一斉に実施した。教職員に関しては、一斉に配布し、1週間程度の間において回収をした。また、保護者については前述のようにPTA評議員会・総会で趣旨説明と協力要請を行いアンケート用紙を配布した。アンケートは総会の要項に綴じ込ん

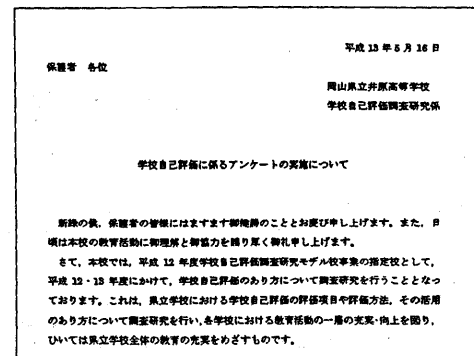


図2 趣旨説明の文書（一部）

で配布した。また、欠席者のために趣旨説明をした文書もアンケートと同様に総会の要項に綴じ込んで配布した。回収は1週間程度の余裕をみて、生徒を通じて行った。保護者に配布した趣旨説明の文書の一部を図2に示す。

(6) 集計方法

集計は、表計算ソフトを使って行った。アンケート結果の入力及び集計は次のように分担して行った。

- 生徒用アンケートの入力 … HR 副担任
- 保護者用アンケートの入力 … HR 副担任
- 教職員用アンケートの入力 … 小委員会
- データの集計 … コンピュータ係

各クラスごとに用意された入力用のワークシートに、1～4の回答番号を入力し集計を行った。入力用のワークシート及び集計結果を表やグラフにして表すプログラムの作成は、コンピュータ係(平成13年度より情報管理室)が担当した。生徒用、保護者用アンケートについては、全体だけでなく学年ごとの集計も行った。

図3 1年生A組入力用ワークシート(一部)

学年	組	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18	問19	問20	問21
1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	3	2	1	4	2	3	4	3	3	3	3	2	1	2	1	2	1	1	3	2	4
3	3	2	3	4	2	3	4	3	4	2	4	3	4	4	4	3	4	3	4	3	2	4
4	4	2	3	3	4	3	3	4	2	4	3	4	3	2	2	2	2	2	2	2	2	4
5	5	2	2	2	3	4	3	4	2	4	3	3	3	2	3	4	2	4	4	4	4	4
6	6	3	3	2	3	4	3	3	3	3	3	3	2	2	3	4	2	4	4	4	4	4
7	7	3	3	3	4	4	4	4	1	3	3	3	3	3	3	4	4	2	4	2	4	4
8	8	3	3	3	4	4	4	4	3	3	3	3	3	2	2	3	4	4	4	4	4	4
9	9	3	3	2	3	4	3	3	3	3	3	3	3	2	2	3	4	4	4	4	4	4
10	10	3	2	2	3	4	3	3	3	3	3	3	3	2	2	3	4	4	4	4	4	4
11	11	2	2	2	3	4	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1	1	2	1	3	1
12	12	1	2	1	3	2	2	1	2	4	3	4	4	1	1	1	2	1	2	1	3	1
13	13	3	2	2	4	4	3	3	1	1	1	1	1	1	1	2	3	1	2	1	4	3
14	14	2	2	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3
15	15	3	3	3	4	4	4	3	2	3	3	3	3	3	2	2	3	2	4	3	2	3

入力に用いたワークシートの一部を図3に示す。なお、問9は、3年生のみ答える項目なので入力がなく空白となっている。

(7) 結果の分析

集計結果は、集計終了後できるだけ早く全教職員に配布した。その際、集計結果を数値として知らせるだけでなく、グラフにして視覚的に表現し評価の傾向をつかみやすくする工夫も加えた。生徒アンケートの結果を集計しグラフに表したものの一部を図4に示す。

配布された結果に基づいて各自で分析を行った。また、4段階評価のアンケート結果については、小委員会でも分析を行った。小委員会では、各評価項目を次のように3段階に分類判定し分析を行った。

- A: ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足すと全体で60%を越える設問
- B: ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足すと全体で50%前後となる設問
- C: ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足しても全体で40%未満となる設問

これは、それぞれの設問項目について、評価実施対象者がどのようにとらえているか、大げかみにとらえられるために考えた方法である。それぞれA, B, Cの各分類にあてはまる評価項目については、次のようにとらえられるものとした。

- A: 設問項目に関して、おおむね肯定的にとらえられている。
- B: 設問項目に関して、評価が相半ばする。
- C: 設問項目に関して、どちらかといえば不十分(否定的)にとらえられている。

また、学年による評価の差があるかどうかを知るために、次のように分類判定できる項目を抽出した。

- D: ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足した結果に学年間で20%以上の差のある設問

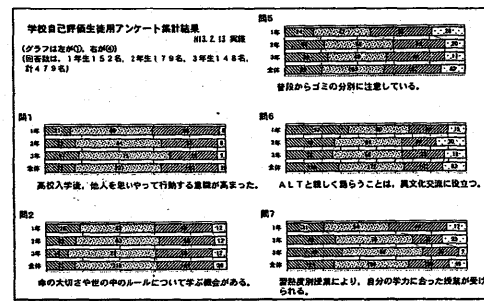


図4 集計結果を示すグラフ(一部)

以上のように、評価項目を分類判定するとともに、生徒、保護者、教職員間での評価の違いを検討するために、教職員と生徒及び教職員と保護者で共通する評価項目が、それぞれA, B, Cのどれに分類判定されるかを調べ、同じならば「=」、異なる場合は教職員を基準に生徒や保護者の評価が1段階高い場合を「+」、1段階低い場合を「-」の記号で表し調べてみた。二段階の差がある場合は記号を二つ用いて表した。

小委員会による分析結果に関しては、評価結果についての共通理解を図るため、まとめを作成し教職員に配布した。配布したまとめを資料V-④に示す。

(8) 日常的な評価

本校では、学校行事終了後にアンケートを行い、その内容等についてその都度反省し次年度に生かしてきた。平成12年度にアンケートを実施したものは次のとおりである。これらのアンケート結果も年度末の評価に利用した。

- ※ () 内は評価実施対象である。
- 宿泊研修(1年生徒)
- 大学訪問(2年生徒)
- 舞鶴祭(文化祭・体育祭)(生徒・教職員)
- 学習合宿(生徒)
- 保護者面談(1年保護者)
- 5分前登校指導(教職員)
- 卒業式(教職員)
- 短期海外研修(1・2年生徒参加者)
- 芸術鑑賞(生徒・教職員)
- 同和教育研修会(教職員)
- 学校説明会(中学生)
- コンピュータ研修会(教職員)
- 学校運営機関の見直し(教職員)
- LHR(同和教育・課題研究等)(生徒)

(9) 評価結果の活用の在り方

評価結果の活用の在り方については、次のようにするものとした。また、その全体的な流れを図5に示す。

平成12年度は、およそこの流れにそって評価結果を次年度での改善等に活用した。ただし、③の評議会では、生徒アンケートの集計結果を示し、これについて意見を求めるにとどめた。

- ① 各分掌は、集計結果と日常的評価を基に、その分掌の年度末評価をする。
 - ア 各分掌に関連する内容のすべてを確認する。
 - イ すぐに結論の出るものは、学校運営委員会及び職員会議で報告する。(改善の方法または方向性を示す。取り上げない内容についてはその理由を示す。)
 - ウ 中・長期にわたる課題は、検討の必要性を判断し、結論とその理由を学校運営委員会に提案する。

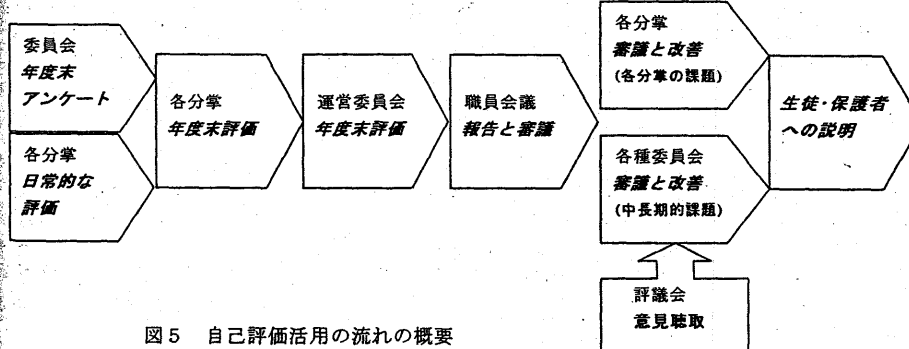


図5 自己評価活用の流れの概要

- ② 学校運営委員会で総合的に分析・判断し、提言をまとめる。
 - ア 各分掌の報告・提案を審議する。
 - イ どの分掌にも属さない内容や複数の分掌にまたがる内容について、検討の必要性を判断し、結論とその理由をまとめ、職員会議に報告する。検討すべき内容は、各種委員会や分

掌で次年度に審議し、改善を図る。

- ③ 保護者や地域住民のより具体的な意見聴取を要する内容については、評議会で意見や助言を求め、改善案の作成の参考とする。

(10) 結果の説明の在り方

結果の説明の在り方としては、アンケート結果を分析・判断した後、内容に応じて適切な場で説明するものとした。また、その場としては、生徒については全校集会や学年集会等、保護者についてはPTA評議員会・総会や学年の保護者会等が考えられた。

平成12年度の結果の説明は、次のように行った。

○生徒：アンケート結果報告のプリントを配布し、学年集会で説明

○保護者：アンケート結果報告のプリントを配布し、学年の保護者会で説明
配布した結果報告のプリントを資料V-⑤、⑥に示す。

4 成果と課題

(1) 組織について

全般を通じ、必要に応じて教職員に説明し理解を求め、意見を集約するという作業を挟みながらも、基本的には小委員会が作業を、大委員会が意思決定をという分担で進めてきた。こういう形の働きと分担は最初から見通しをもって生まれたわけではない。実際のところ、大委員会を先に立ち上げ調査研究に入ったが、評価項目案の作成など実質的な作業をするには組織として不相当との意見が出て、小委員会が生まれた。しかし、このように調査研究の場面を通じての必要感によって、また目的を明確にして生まれてきたことが、その後の調査研究において二つの委員会がうまく機能することにつながったように思われる。すなわち、役割とその責任を明確にすることが重要であると考えられる。また、学校自己評価は係のすることというようにならないためにも、係は分掌や学年から評価項目等の積極的な提案を促すように働き掛け、学校全体を巻き込んでいく工夫をすることが大切である。

これらを受けて、平成14年度からは、小委員会及び大委員会の役割を引き継ぐものとして、次のような係と委員会を設けることとした。

☆平成14年度から学校自己評価のための組織

- ・学校自己評価係 教務課長・同補佐、進路課長補佐、生徒課長補佐、情報管理室及び事務室各1名
(評価項目等の立案と委員会への提案、結果分析、評価システムの評価、資料作成)
- ・学校自己評価委員会 校長、教頭、事務長、PTA会長、各課・室長、学年主任
(審議と決定、職員会議への報告)

評議会については、平成14年度からの評議員会議へ引き継がれることになる。評議員会議の役割は、学校の在り方や方針に関して外部の方の意見を頂くことにあるが、これは今回の調査研究において、基本的に評議会の担っている役割と大きく重なる場所であると考えられる。

(2) 評価項目について

① 評価項目作成の手順

小委員会で基礎となる評価項目の原案を作成し、他の分掌やPTAの意見を取り入れながら検討し、大委員会で決定してきた。作成の手順としてはこの流れでよかったが、評価項目の作成がともすれば小委員会だけの仕事になりがちであった。したがって、年度末評価を受けて、年度当初に各分掌がそれぞれ個々具体的な目標を設定する際に、評価を前提に目標を考えておくことが、より具体的に評価しやすい、評価を生かしやすい評価項目の作成につながるのではないかと考えられる。

同じ評価項目に対する生徒、保護者、教職員の評価の違いを明確にするため、できるだけ同じ内容について質問するようにした。その結果、三者の評価の違いの大きい評価項目もあり、意識のずれを確認することができ有効であった。しかし、誰に何を評価してもらうことが学校改善につながるのかという視点から、内容に応じて対象者を考え、すべての評価項目で同じ質問を三者にすることにこだわる必要はないように思われた。また、生徒に対しても

保護者に対しても評価項目を毎年同じように全学年に質問する必要はないと考えられる。評価項目の作成の際に、その精選をする手順を加える必要があると考えられる。

② 評価項目について

ア 共通項目

共通項目の各項目を、それぞれの対象者が理解・判断しやすい内容にすることを心掛けて作成した。しかし、それぞれの項目に多くの内容が含まれており、4段階評価の項目では一つの項目にまとめることは難しかった。そこで、例えば、環境教育の成果をごみの分別に対する意識で判断するような具体的内容を例に挙げる方法等も取り入れた。また、ボランティア活動のように、学校によって取り組みに大きな差が考えられる内容に対して評価項目をまとめることは難しかった。

イ 学校独自の評価項目

共通項目では、大まかな内容をとらえているので、学校独自の項目では、具体的な内容について評価することを基本に検討した。共通項目の三つの観点に基づいて、評価項目を作成することから始めたため、本校として本当に評価したい内容からやや外れたものも含まれたように感じる。今後は、本校として評価したい内容を的を絞り、より具体的な内容にしていきたい。

また、小委員会で原案作成後、各分掌からも評価項目を募ったが、分掌によりその取組に温度差が感じられた。職員会議で説明したり、研修会で内容についての理解を求めたりしてはいたが、まだ十分とは言えないように感じられた。そのような温度差を縮めていくためには、説明や理解を得る努力を絶えず続けていくことと併せて、評価結果の活用が学校改善に結び付くという実感が得られることが大切なのではないかと考えられる。さらに、自分たちのしている教育活動や教育諸条件の整備は、常に評価されることを前提に行うという意識を醸成していくことも、評価項目が積極的に提案されるための要となるのではないかと考えられる。

(3) 評価基準について

生徒や保護者の多様な意見を集約するには、4段階評価の評価項目を中心にアンケートを実施するのが適当であると判断した。実施前には、4段階評価では「ややそう思う」に評価が集中してしまうのではないかとすることも懸念されたが、実際には項目ごとに結果が異なり、評価実施対象者の意志が十分に反映されていると考えられた。また4段階の評価基準については次のような点が指摘できる。(○は良い点、●は悪い点)

- 全体的な雰囲気はつかめる。
- 問題点と感じていたことの客観的裏付けができ、問題点を自覚できる。
- 教職員と生徒の意識の違いに気付くことができる。
- 評価項目を質問にまとめにくく、質問が具体性に欠ける場合には、問題点の把握が難しく年度末評価に結び付きにくい。

記述に関しては、教職員のアンケートにのみ取り入れたが、具体的な気持ちや考えを知る上ではやはり有効であった。生徒や保護者のアンケートにも、記述で回答する部分をいくらかでも増やせば、より正確な評価が得られるのではないかと考えられた。また、記述の評価基準については次のような点が指摘できる。

- 教育課題について様々な思いをもっていることが共通理解できた。
- 具体的な問題点の指摘や改善案の提案が多く得られた。分掌の開鎖性を取り払う効果がある。
- 項目が多すぎて、検討に時間を要した。

全体としての傾向や意識をとらえるには4段階の評価基準が適しているが、評価したい事柄が適切に評価される評価項目の設定が難しい。記述は、具体性に関しては優れるものの、個々まじまじの表現をされると評価の判断が難しい。また、集計や分析・検討にも時間を要する。したがって、評価項目を作成する段階で、学校改善にはどの内容について記述を求めることがより有益か、また、記述の項目と4段階評価の項目のバランスをどのようにするとより有益かを検討しておくことが大切である。

4) 評価実施対象者について

評価実施対象者に関しては、生徒、保護者、教職員それぞれについて、次のようなことが考えられる。

① 生徒

3学年全部にアンケートを実施したが、評価項目数にもよるが、集計に困ることはなかった。理系・文系各1クラス程度に絞って実施することも考えられるが、もともと規模の小さな本校では、標本調査にする意味はないように思われた。3学年すべてで実施したことによって、学年ごとの意識の違いや学年ごとの取組の違いによる評価の差もとらえることができた。さらに、年度を追って実施していけば、学年が進行していくにつれて評価がどのように変化していくのかもとらえられるのではないかと考えられる。ただし、すべての項目を毎年同じように全学年を対象に実施する必要はないものと考えられる。評価項目作成の際に、学年共通して実施する項目と個別の学年で実施する項目の精選をしておく必要があると考えられる。

② 保護者

一般的には、保護者全員に実施するか、ある程度学校の様子をよく理解している保護者に対してのみ実施するかのどちらかであろう。しかしながら、本校の規模ではPTAの評議員全員を対象としても30名程度である。また、その全員から回答が得られるとも限らない。したがって、評価実施対象者を一部に限ることは正確な評価に結び付かない可能性が大きい。実際、2・3年保護者全員を対象にアンケートを実施したところ、その回答数(率)は前述のとおり127名(36%)で、まずまずの回答数であった。全員対象で実施しても、実際には全員から回答が得られる訳でなく、結果的によかったのではないかと考えられる。ただし、すべての項目を毎年同じように全保護者を対象に実施するかは、生徒の場合と同様に検討が必要である。

③ 教職員

教職員に対しては、毎年実施するべきである。教職員は、教育活動や教育諸条件の整備の主体者であり、年度ごとに立場や役割も変わるものであるから、当然のことと考えられる。

記名に関しては、記名にすると記述による評価に対して意見が書きにくく、無記名にすると無責任な意見が出て扱いに苦慮することが考えられた。そこで、意見を必ず検討し、その結果を報告することを十分に説明した上で、より建設的な意見が出ることを期待し無記名での実施を選択した。その結果、無記名にしても建設的で真剣な意見がほとんどであった。しかし、教職員のアンケートに関しては、学校の一員として責任をもって問題点を指摘し改善への提案をするという観点から、記名ということも考えられる。

5) 実施時期について

生徒、教職員のアンケートを2月に行ったが、集計し結果を分析し次年度の改善に結び付けていくに十分な時間が得られたかは疑問である。アンケートの結果を基に年度末評価を実施し次年度への方向性を示していくためには、もう少し早い時期の実施が必要と考えられた。しかし、評価の対象となるその年度の教育活動や教育諸条件の整備等が十分に進んでいる必要があり、最もよい時期としては12月～1月の間が適当と判断した。また、平成12年度はやむを得ず保護者と生徒の実施時期が異なっていたが、本来評価は同じ時点で行うべきであり、平成13年度以降は、生徒と保護者は同時に実施することとした。

6) 集計方法について

4段階評価のアンケートの結果の入力は、全生徒対象のアンケートの入力においても比較的順調に進行できた。これは、集計に用いた表計算ソフトが、普段から実力テスト等の成績処理に用いられており、多くの教員が入力方法に習熟していること、普段から学習実態調査の入力などで、副担任が担任の作業を分担することが定着していることなどによるものと考えられる。また、評価項目数がそれほど多くないこと、入力作業をクラスごとに分散化したことも入力をスムーズにしたものと考えられる。平成14年度からの実施においては、評価項目数を大幅に増加させなければ、このままの集計方法でよいと考えられるが、回答方法をマークシート方式にすれば、当然省力化できることや評価項目数を増加させられることはいうまでもない。した

がって、集計方法は、データ処理のシステムや設備の整備状況にもよるが、評価実施対象者や評価項目数を決める上で重要な要素の一つであるといえる。また集計結果を数値だけでなくグラフに表したことは、評価結果を視覚化し全体の傾向をつかむのに大変役立つと考えられる。

7) 結果の分析について

4段階評価のアンケートの集計結果について小委員会で行った分析結果の一部を図6、図7に示す。

分析は各自で行う以外に、小委員会でも行った。これは、各自で分析した場合、結果のとらえ方が各個人の考え方や見方で異なる結果になる可能性があると考えたからである。学校としてこの結果をどうとらえるかの視点で分析を行うとともに、結果のまとめを配布する事で分析結果の共通理解を図った。

3段階に分類判定して分析する方法は、各評価項目に対する評価を大づかみにとらえることができ、大変有効であった。また、3段階に分類判定した結果を教職員と生徒間、教職員と保護者間で比較する方法も、それぞれの意識のずれを発見することができ、大変有効であった。4段階のアンケートの分析方法として定着させたいと考えている。

図6 生徒アンケートの分析結果(一部)

図7 三者の評価の比較結果(一部)

8) 結果の活用の在り方について

結果の活用の在り方としては、具体的な教育計画への反映、学校組織や教育活動の活性化へ結び付けていくという観点で行っていくことが大切であり、そのような視点で取り組んだが、今回の調査研究での活用については、次のように考えられる。

① 分掌での年度末評価

これまで、分掌内の者のみはその年度の分掌の活動について評価し、改善を行ってきた。しかし、ともするとそれが分掌内の閉鎖性に結び付くおそれがあったが、今回はそれを取り払い、分掌外の意見を取り入れることができ、分掌内の活動についてその意義や在り方を見直すことにつながった。しかし、それは教職員の記述による評価の結果による効果が大きく、4段階評価のアンケート結果は、前述のように全体的な雰囲気や傾向をつかむことについては有効であったが、分掌の年度末評価における改善の提案には結び付けにくかった。したがって、評価項目の作成の際、その活用の在り方についても考えておく必要があると考えられる。

今回の調査研究では、学年の年度末評価に利用するという視点はなかったが、結果の状況から判断して、自己評価アンケートの結果には、その学年の取り組み方や考え方が反映していると考えられるものもあった。したがって、今後の活用の在り方として、学年の年度末評価にも利用することが考えられる。

② 学校運営委員会での年度末評価

学校運営委員会では、分掌での評価を報告し議論することができた。共通理解が深まることともに、それに沿って次年度への方針をつくることができた。今後とも、全体的に学校の在り方を検討し、改善や見直しを議論していく場にしていきたい。自己評価の結果は、分掌や学年の方針を決めるためだけでなく、学校としての方針を打ち出す際の裏打ちを担うことが

できるものと考えられる。

③ 学校自己評価調査研究評議会

教職員間で議論にならなかったことについての指摘が多くあり、細かな内容より大きな視点に立った意見がほとんどであった。立場の異なる方を選ぶことにより、異なる視点での意見を得ることができた。平成14年度からは評議員会議にその役割が移るとしても、観点を絞って更に活発な意見を得て、学校改善に生かしていきたい。

(9) 結果の説明の在り方について

生徒や保護者に対しては、結果を形にして報告するとともに、簡単ではあったが結果に対する説明も実施することができ、学校自己評価として一定の形をつくり上げることができたものと考えられる。結果の報告や説明を保護者や生徒が更にどのように評価しているかはわからないが、学校が保護者や生徒の気持ちや考えも取り入れて、これまでの教育活動や教育諸条件の整備の状況を振り返り、その結果に基づいて改善や説明を行おうと努力していることは伝わったと考えられる。少なくとも開かれた学校づくりへ向けて、前向きに取り組むことができたという点で成果があったといえるのではないかと考えられる。

ただし、結果に関しては、すべてを知らせたわけでもなく、また説明したわけでもない。また、今回の方法が最善であると判断したわけでもなく、とりあえずこういうものではどうかという考えで行って来たまでである。どこまで知らせ説明するかは簡単には答えの出せない課題である。しかし、評価されることを前提に教育目標を設定し、教育活動や教育諸条件の整備に取り組んでいけば、どのような評価となってもそれを公表し、説明していけるのではないかと考えられる。要は、学校がいかに自分の学校の教育活動や教育諸条件の整備に主体的に取り組んでいるかであろう。その取組が問われるのが学校自己評価であるといえるのではないだろうか。

5 まとめ

この調査研究の結果、平成14年度からの実施に向けて、学校自己評価の全体的な流れや留意すべき点などたくさん成果があった。それと同時に、実施した学校自己評価の結果をさまざま改善の動きに結び付けることができた。

また、学校自己評価についての理解が進み、教育活動が評価の対象となることや結果説明の責任についての意識が高まったように感じられる。ただし、これは最初からうまくいったわけではなく、研究内容を職員会議で説明したり、職員朝礼で研究内容に対する意見を求めたりして、できるだけ教職員の共通理解を図ることによって徐々に高まってきたものである。特に講師を招いて校内研修会を開いてからは、教職員の理解が大きく進んだように感じられた。

学校がより良い方向に変わることと異議を唱える者はいない。学校自己評価に対する共通理解を図るためには、評価はより良い学校に変えていくためのものであることを、時間をかけて繰り返し説明することが重要である。また、その学校自己評価の結果が学校改善に結び付くという実感を得られることが大切であると考えられる。

平成14年度からは、調査研究ではなく、分掌上に係と委員会を位置付け、その役割と責任を明確にした上で、学校自己評価を本格的に実施していきたい。決して係や委員会だけの仕事とせず、教職員全員が取り組みながら、結果が生かせ、かつ改善につながる学校自己評価となることを目指していきたい。

☆学校自己評価の結果に基づく改善の動き

- ・教育相談室、同和教育室、PTA 係等組織の見直し
- ・オープンスクールの実施日、内容等の改善
- ・広報活動の一元化
- ・授業公開への取組
- ・各種行事への保護者参加の呼び掛け など

学校改善のためのアンケート (生徒用)

本校をより良い学校にしていくため、皆さんの率直な意見を聞かせてもらいたいと思います。このアンケート結果は、井原高校の今後の改善に役立てていきたいと考えています。

次のそれぞれの文章を読んで、あなたの気持ちに最も近いものを次の中から選び①～④の数字で、答えてください。どうしても答えられないものは空欄でよろしい。

- ①よくあてはまる
- ②ややあてはまる
- ③あまりあてはまらない
- ④全くあてはまらない

年

- 1 高校入学後、他人を思いやって行動する意識が高まった。
- 2 命の大切さや世の中のルールについて学ぶ機会がある。
- 3 人権の大切さや同和問題について学んだことを実践の中で生かそうと思う。
- 4 ボランティア活動に参加しやすい。
- 5 普段からゴミの分別に注意している。
- 6 A.L.Tと親しく語らうことは、異文化交流に役立つ。
- 7 習熟度別授業により、自分の学力に合った授業が受けられる。
- 8 自分で選べる科目が多いいい。
- 9 (この質問は、3年生だけ答えてください。)
 - 3年の前半と後半とで異なる選択科目を勉強できるのは良い。
 - 個性を伸ばす雰囲気がある。
 - 工夫された授業が多い。
 - 多様な意見を大切にしてくれる。
 - 自分の考えをまとめたり、発表する機会が多い。
 - 将来の進路や生き方についての考えが深まった。

回答欄	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	

資料V-①：評価票 (生徒用)

- 15 先生は生徒のためにがんばっている。
- 16 井原高校の生徒としての誇りを感じている。
- 17 感動できる学校行事があり、楽しく参加できているように工夫されている。
- 18 学校は、生徒会活動を通して、生徒が自分たちの手で学校生活をより良くするよう、その指導に積極的に取り組んでいる。
- 19 学校は、舞臺祭などの行事に、生徒が中心になって取り組むよう、その指導方法などを工夫している。
- 20 先生はよく相談ののってくれる。
- 21 教育相談の担当は、どの先生であるかわかっている。
- 22 学校の様子が保護者によく伝わっている。
- 23 保護者は、保護者会や保護者面談に出席している。
- 24 授業、L.H.R.および部活動などで、校外の人に教えてもらったり、地域の施設を利用することがよくある。
- 25 本校の図書館は利用しやすく、蔵書は充実している。
- 26 さまざまな情報を得るためにパソコンやビデオを使いやすい環境にしている。
- 27 校内の諸施設は、学校生活がしやすいように整備されている。
- 28 食堂は今後も存続させてほしい。

協力ありがとうございました。

学校改善のためのアンケート（保護者用）

H13.5.16

本校をより良い学校にしていけるため、保護者の皆さんの御意見をお聞かせください。このアンケート結果は、井原高校の今後の教育の改善に役立っていきたくて考えています。

次のそれぞれの文章を読んで、お気持ちに最も近いものを、①～④の数字でお答えください。どうしても答えられないものは空欄で結構です。

- ①よくあてはまる
②ややあてはまる
③あまりあてはまらない
④全くあてはまらない

- 1 高校入学後、他人を思いやって行動する意識が高まった。
2 高校入学後、人間的に成長したとを感じる。
3 感動できる学校行事があり、楽しく参加しているようだ。
4 生き生きとした学校生活を送っているようだ。
5 先生は子どもの相談・質問に誠実に対応してくれている。
6 子どもの多様な意見を大切にしてくれている。
7 個性を伸ばす雰囲気がある。
8 工夫されたわかりやすい授業が行われているようだ。
9 高校入学後、将来の進路や生き方についての考えが深まったようだ。
10 先生は生徒のために努力しているようだ。
11 子どもの指導において、学校と連携できている。
12 保護者や地域の人々が積極的に参加できるように、学校行事を工夫している。

回答欄
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12

- 13 学校の様子がよくわかる。
14 ホームページに学校行事についてなど学校の様子が詳しくわかる内容があれば、ときどき見たい。
15 学校は、PTA活動に対して支援・促進に努めている。
16 習熟度別授業(英語・数学における基礎と発展のコースに分かれた授業)により、子どもの学力に合った授業が受けられる。
17 自分で選べる科目が多いことは良い。
18 部活動において、顧問の適切な指導がなされ、生徒の活動を支援できているようだ。
19 子どもが井原高校の生徒であることに満足している。
20 保護者会(学年全体)は有意義なものである。
21 保護者面談(個別)は有意義なものである。
22 保護者会や保護者面談で、子どもの学校での様子がわかる。
23 保護者会や保護者面談で、子どもの学力や進路に関する事がわかる。
24 本校でコンピュータの講習会があれば、参加したい。
25 食堂は今後も存続させてほしい。

13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25

※ 最後に、該当する学年を数字でご記入ください。

※ 年

御協力ありがとうございました。

学校自己評価アンケート（教職員用）

H13.2.7

学校改善に向けて、率直なご意見を聞かせてもらいたいと考えています。このアンケートは、集計後皆さんにお返しし、それぞれの分掌で問題点を検討し、今後の本校の教育の改善に生かしてもらいたいと考えています。次のそれぞれの文章を読んで、個人についてでなく学校全体の様子として、あなたの気持ちに最も近いものを次の中から選び①～④の数字で、答えてください。どうしても答えられないものは空欄で結構です。

- ①よくあてはまる
②ややあてはまる
③あまりあてはまらない
④全くあてはまらない

- 「県内共通の評価項目」についての設問
1 生徒が他人を思いやって行動する意識を高めるように指導している。
2 命の大切さや世の中のルールについて教える機会がある。
3 生徒自身の規範意識や道徳性を育てる指導がなされている。
4 人権の大切さや同和問題について学んだことを実践の中で生かせるよう指導している。
5 ボランティア活動に参加しやすい状況にある。
6 普段からゴミの分別をするように指導している。
7 生徒からの相談には誠実に対応している。
8 生徒が楽しく参加し、感動を覚えるように学校行事を考えている。
9 生徒の多様な意見を大切にしている。
10 個性を伸ばす雰囲気がある。
11 授業への工夫は怠らない。
12 この学校の教育活動は、生徒や保護者のニーズにあっている。
13 この学校の教育課題について、教職員の間で話し合う雰囲気がある。
14 将来の進路や生き方について、考えを深めさせるよう努めている。
15 進路指導を個に応じた視点で工夫して行っている。
16 生徒にとってよいことは何かを考えている。
17 研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。
18 学校の様子を、機会をとらえて保護者に伝えている。
19 生徒の指導において、家庭と緊密に連携できている。
20 保護者や地域の人々が、積極的に参加できるように学校行事を工夫している。
21 本校は、地域社会に向けての広報活動・情報提供に積極的に取り組んでいる。
22 本校は、学校教育機能(施設・指導力)の地域への開放に努めている。
23 授業、LHRおよび部活動などで、校外の人や地域の施設を活用している。
24 本校は、PTA活動に対して支援・促進に努めている。

回答欄
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24

- 29 多様化した生徒の進路指導にあたるために、日頃から研さんに動んでいる。
30 自分の考えをまとめさせたり、発表させたりする機会は多い。
31 生徒がALTと親しく話らうことは、異文化交流に役立つ。
32 生徒は井原高校生として誇りを感じている。
33 生徒会活動を通して、生徒が自分たちの手で学校生活をより良くするよう、その指導に積極的に取り組んでいる。
34 舞鶴祭などの行事に、生徒が中心となって取り組むよう、その指導方法を工夫している。
35 部活動において、顧問の適切な指導がなされ、生徒の活動を支援できている。
36 保護者は、保護者会や保護者面談に出席している。
37 生徒は教育相談の担当が、どの先生であるかわかっている。
38 本校の図書館は利用しやすく、蔵書は充実している。
39 生徒がさまざまな情報に接することができるよう、コンピュータを使いやすい環境においてある。
40 校内の諸施設は、学校生活がしやすいように整備されている。

29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40

◆ここからの質問項目には、文章でご意見をお書き下さい。

- 41 同和教育に対する指導や研修について、問題点・改善すべき点があればお書き下さい。
42 ボランティア教育をより充実させるためには、どのような方法が考えられますか。
43 環境教育の推進のためには、どのような方法が考えられますか。
44 カウンセリングを充実するために、何が必要だと思いますか。
45 これからの本校の特色づくり・魅力づくりをどのようにしていけばよいと思いますか。
46 現在の教育内容(教育課程・学習指導・評価等)について、問題点・改善すべき点があればお書き下さい。
47 本校の進路指導をより良くするために、お気づきの点があればお書き下さい。
48 学校行事の中で精選できるもの、工夫・改善できると思われるものについて具体的にお書き下さい。
49 時間割変更のシステムについて、お気づきの点があればお書き下さい。
50 本校の組織及びその運営について、問題点があればお書き下さい。
51 生徒募集について、問題点やアイデア等お気づきの点があればお書き下さい。
52 備品や教材教具の利用や保管について、問題点があればお書き下さい。
53 食堂・購買の運営の仕方に改善すべき点があれば、お書き下さい。

- 「学校独自の評価項目」についての設問
25 習熟度別授業により、自分の学力に合った授業が受けられる。
26 自分で選べる科目が多いことは良い。
27 3年の前半と後半とで異なる選択科目を勉強できるのは良い。
28 学習合宿は、生徒の学習に対する動機付けとして役立っている。

25
26
27
28

平成12年度学校自己評価の結果

岡山県立井原高等学校
学校自己評価調査研究係

1 自己評価のねらい

新高等学校学習指導要領の基本的ねらいのひとつである「各学校が創意工夫を生かし、特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること」を踏まえ、学校教育目標の達成を目指す、学校組織と教育活動を活性化させ、学校自らが自校の教育を総合的に点検し、改善する姿勢を明らかにすることによって、保護者や地域住民に理解され、支持される「開かれた学校づくり」を進める。

2 自己評価の概要

(1) 評価項目

- 生徒、保護者、教職員に対してそれぞれ個別に調査表を作成した。
評価項目は、県内共通の項目と学校独自の評価項目とした。
評価項目の観点別数は次のとおりである。

Table with 5 columns: 観点I, 観点II, 観点III, 学校独自の評価項目, 合計. Rows for 生徒, 保護者, 教職員.

※県内共通の評価項目の観点は次のとおりである。

- 観点I 豊かな心を培う教育
① 道徳教育の推進 ④ 環境教育の推進
② 同和教育の推進 ⑤ カウンセリングの充実
③ ボランティア教育の推進 ⑥ 感動する心を育てる教育の推進
観点II 個性と創造力をはぐくむ教育
① 多様な個性に対応できる教育 ④ 実践的指導力の向上
② 教育内容の改善・充実 ⑤ 社会自立と社会参加を促す教育の充実
③ 進路指導の強化・充実
観点III 学校・家庭・地域社会の連携
① 家庭・地域社会の連携 ④ 学校のスリム化への取組
② 学校教育機能の地域への開放 ⑤ PTA活動の支援・促進
③ 地域の教育資源や素材の活用

(2) 評価基準

- よくあてはまる・ややあてはまる・あまりあてはまらない・全くあてはまらないの4段階の評価とした。
どうしても判断がつかない場合には空欄でもよいことを明示した。
教職員に対するアンケートには、記述による評価も取り入れた。

(3) 評価実施対象者

- 全生徒（無記名、学年のみ記入）
2、3年の全保護者（無記名、学年のみ記入）
全教職員（無記名）

(4) 実施時期

- 生徒は2月13日、教職員は2月16日に実施した。
保護者は、5月16日のPTA総会の場で進言説明をした後実施した。

(5) 集計方法

・表計算ソフトを用いて集計を実施した。入力は、生徒・保護者は副担任で、教職員は小委員会で行った。

3 結果と分析

(1) 集計結果

・集計した結果は、それぞれ評価基準ごとの百分率で表わしグラフ化した。

(2) 分析方法

・評価基準ごとに百分率で表した集計結果をもとに、質問項目を次のように3段階に分類し検討した。

- A: ①（よくあてはまる）と②（ややあてはまる）を足すと全体で60%を超える段階
B: ①（よくあてはまる）と②（ややあてはまる）を足すと全体で50%前後になる段階
C: ①（よくあてはまる）と②（ややあてはまる）を足しても全体で40%を越えない段階
・評価に学年による差があるかどうかを検討するために、さらに次のような分類も行った。
D: ①（よくあてはまる）と②（ややあてはまる）を足した結果に学年間で20%以上の差のある段階

(3) 分析結果

① 生徒アンケートの結果

・生徒アンケートの質問項目を(2)の方法で分類した結果を次に示す。

Table with 5 columns: 観 点, Aに分類, Bに分類, Cに分類, 合 計. Rows for 観点I, II, III, 教育活動, 教育条件, 合計.

- ・観点I（豊かな心を培う教育について）に関しては、3学年を通じて肯定的な評価が多いが、ボランティア活動への参加のしやすさについては否定的な評価であった。
・観点II（個性と創造力をはぐくむ教育）に関しては、肯定的な評価の項目と否定的な項目とに分かれたが、個性化・多様化への対応や教育内容の充実に関して評価が低い。
・観点III（学校・家庭・地域社会の連携）に関しては、かなり否定的な評価であった。
・教育活動に関しては、全般的に肯定的な評価であった。
・教育条件に関しては、食堂の存続に関しては肯定的な評価であったが、教育相談の担当者の認知度は評価が低い。他の教育条件に関しては、肯定的な評価と否定的な評価が相半ばする。
・学年による差異は、3年生で多く、教員との関係を肯定的に評価している傾向が強い。1年生のみ、「自分の考えをまとめたり、発表する機会が多い」と肯定的に評価している。

② 保護者アンケートの結果

・保護者アンケートの質問項目を(2)の方法で分類した結果を次に示す。

Table with 5 columns: 観 点, Aに分類, Bに分類, Cに分類, 合 計. Rows for 観点I, II, III, 教育活動, 教育条件, 合計.

- ・観点I（豊かな心を培う教育について）に関しては、すべてについて肯定的な評価であった。
・観点II（個性と創造力をはぐくむ教育）に関しては、生徒の結果と同様な傾向を示し、個性化・多様化への対応や教育内容の充実に関して評価が低い。
・観点III（学校・家庭・地域社会の連携）に関しては、かなり否定的な評価であった。また、保護者会（学年全体）の方が保護者同族（個別）よりも評価が低い。
・教育活動に関しては、全般的に肯定的な評価であった。
・教育条件に関しては、評価項目が食堂の存続に関するのみであり、肯定的な評価であった。

③ 教職員アンケートの結果

・教職員アンケートの質問項目を(2)の方法で分類した結果を次に示す。

Table with 5 columns: 観 点, Aに分類, Bに分類, Cに分類, 合 計. Rows for 観点I, II, III, 教育活動, 教育条件, 合計.

- ・観点I（豊かな心を培う教育について）に関しては、全般的に肯定的な評価であった。
・観点II（個性と創造力をはぐくむ教育）に関しては、全体的に肯定的な評価であったが、個性化への対応や教員間の相互理解に関しては評価が低い。
・観点III（学校・家庭・地域社会の連携）に関しては、否定的な評価が多い。特に保護者よりも地域との連携に関して評価が低い。
・教育活動に関しては、全般的に肯定的な評価であったが、本校の特色である多様な選択科目に関しては、教員間で評価が分かれる傾向にある。
・教育条件に関しては、図書や情報関連の設備には評価が高いが、その他に関しては評価が低い。特に教育相談の担当者の認知度は極端に評価が低い。

④ 教職員の評価と生徒・保護者の評価の比較

・教職員と生徒および教職員と保護者で共通する評価項目が、それぞれで(2)の分類のどれに該当するか調べ、同じならば、異なる場合は教職員を基準にして生徒や保護者の評価の方が高い場合を+、低い場合を-の記号で表した。また2段階の差がある場合は記号を2つ用いて表した。

ア 教職員の評価と生徒の評価の比較

Table with 6 columns: 観 点, +項目, =項目, -項目, 合計. Rows for 観点I, II, III, 教育活動, 教育条件, 合計.

・-のつく項目の方が多く、全般的に教職員の評価ほどに生徒は肯定的にとらえていないことを示している。

・多様化への対応や教育内容の改善等に関する項目には-があり、教職員は「生徒の多様な意見を大切にしたい」「授業への工夫は怠らない」と考えていても、教職員が考えているほどには受け止めてくれないことを示している。逆に、多様な選択科目に関する項目はいずれも+であり、目に見えて分かる対応への

評価が高い。

イ 教職員の評価と保護者の評価の比較

Table with 6 columns: 観 点, +項目, =項目, -項目, 合計. Rows for 観点I, II, III, 教育活動, 教育条件, 合計.

・生徒ほどではないが、教職員の評価ほどに保護者も肯定的にとらえていないことを示している。

・多様化への対応や教育内容の改善等に関する項目や保護者や地域との連携に関する項目について評価が低く、教職員との意識のずれが感じられる。

⑤ 結果全般

- ・観点I（豊かな心を培う教育について）に関しては、3者とも肯定的な評価が多い。教職員との意識のずれも小さい。
・観点II（個性と創造力をはぐくむ教育）に関しては、教職員は肯定的な評価が多いが、生徒や保護者は肯定的な項目と否定的な項目とに分かれた。特に個性化・多様化への対応や教育内容の充実に関して評価が低く、教職員との意識のずれも大きい。
・観点III（学校・家庭・地域社会の連携）に関しては、3者とも否定的な評価が多く、特に地域との連携に関しては3者とも評価が低い。また、家庭との連携に関しては、教職員との意識のずれも大きい。
・教育活動と教育条件に関しては、3者とも全般的に肯定的な評価であり、教職員との意識のずれも小さい。

4 まとめ

昨年度から実施してきた自己評価の結果を、単に集計グラフに表示することによって表現するだけでなく、課題となる部分がどこにあるかをいっしょに考えてみるように努める。

結果、全般的には本校の教育活動に対して一定の理解や信頼が得られていることが伺えるが、生徒にしても保護者にしても、教職員の考える以上に多様化してきている個への対応をいっしょに望む意識があることがわかる。そして、それが学校の教育活動に対してもこれまでに達した個性化や多様化を求めることにつながっているように考えられる。

また、学校と家庭や地域との連携に関しては、開かれた学校づくりの根幹をなす部分であると考えられるが、これに関する評価が低い点は今後開かれた学校づくりを進める上で大きな課題となると考えられる。

平成13年10月23日

生徒のみなさんへ

岡山県立井原高等学校

学校改善のためのアンケート結果について

朝方涼しく、過ごしやすい時期を迎えました。生徒のみなさんにとっては、本格的に勉強に励む季節となりました。特に3年生としては、センター試験や推薦入試の出願の時期を迎え、忙しい日々を過ごしていることと思います。

さて、昨年度3学期に実施しました、学校改善に関するアンケートについて、集計と分析ができましたので、全体的な結果を報告しておきたいと思っております。この結果を、これからの学校の運営や今後のアンケートの実施に大いに生かしていきたいと考えているところです。

1 アンケートの回答と回収について

平成13年2月13日終礼時に、当時の1年生（現2、3年生及び今年卒業生）全員を対象にアンケートを実施しました。当日終礼時に趣旨を説明し、アンケート用紙を配布して、記入及び回収をさせてもらいました。

各学年の回答数（回答率）は次のとおりです。

1年生 152 (96%) 2年生 179 (92%) 3年生 148 (80%) 合計 485 (80%)

2 アンケートの集計と結果の分析について

アンケートは回収後集計をし①～④までの評価基準ごとにより表し、それをもとに質問項目を次のように3段階に分類し検討しました。

- A: ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足すと全体で60%を超える設問
B: ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足すと全体で50%前後になる設問
C: ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足しても全体で40%を越えない設問

また、評価に学年による差があるかどうかを検討するために、次のような分類も行いました。

D: ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足した結果に学年間で20%以上の差がある設問

その結果は、Aに分類される設問が11(3.9%)、Bに分類される設問が9(3.2%)、Cに分類される設問が8(2.9%)、Dに分類される設問は6(2.1%)でした。A～Dのそれぞれに分類される設問については、次のとおりです。

A ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足すと全体で60%を超える設問

Table with 2 columns: 設問番号, 設問内容. Contains 17 items related to school improvement and student activities.

B ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足すと全体で50%前後となる設問

Table with 2 columns: 設問番号, 設問内容. Contains 3 items related to school improvement and student activities.

54

Table with 2 columns: 設問番号, 設問内容. Contains 7 items related to school improvement and student activities.

C ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足すと全体で40%を越えない設問

Table with 2 columns: 設問番号, 設問内容. Contains 11 items related to school improvement and student activities.

D ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足した結果で学年で差が20%以上ある設問

Table with 2 columns: 設問番号, 設問内容. Contains 7 items related to school improvement and student activities.

3 結果の分析と検討

分類した設問項目から考えられることをあげてみました。

- 高校入学後、多くの人が人間的な成長を感じていると考えられます。また、進路に関しても意識が高まっていると考えられます。
本校の特色であるカリキュラム上での工夫(多様な選択科目、習熟度別授業)については全体として肯定的にとらえてもらっていると考えられます。

4 むすび

井原高校で生活する生徒のみなさんにとって、学校を少しでもよいものにするために、アンケートを実施してもらいました。その結果、これまで何となく感じていたことが客観的な結果となって裏付けられたり、先生方のみなさんと意識のずれに気づかされたり、いろいろと参考になることがありました。

保護者各位

平成13年9月4日

岡山県立井原高等学校

学校自己評価アンケート結果の御報告

初秋の候、保護者の皆様にはますます御清祥のことと存じます。平素は本校の教育活動につきまして御理解と御支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、PTA総会で御説明いたしました、学校自己評価に係るアンケートにつきまして、集計と結果をご報告いたしましたので、御報告申し上げます。この結果をこれからの学校運営や今後の学校自己評価の在り方に大いに生かしていきたいと考えているところです。

1 アンケートの回答と回収について

PTA総会の資料に綴じ込みましたアンケート用紙に回答を御記入いただき、おこさまを通じて回収させていただきました。アンケートは、平成12年度本校の教育活動についての評価というところでお願いしましたので、2、3年生のおこさまをお持ちの保護者の皆様を対象に御回答をいただきました。回答数(回答率)は次のとおりです。

2年生保護者 44 (2.8%) 3年生保護者 83 (4.3%) 合計 127 (3.6%)

2 アンケートの集計と結果の分析について

アンケートは回収後集計をし①～④までの評価基準ごとにより表し、それをもとに質問項目を次のように3段階に分類し検討しました。

- A: ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足すと全体で60%を超える設問
B: ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足すと全体で50%前後になる設問
C: ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足しても全体で40%を越えない設問

また、評価に学年による差があるかどうかを検討するために、さらに次のような分類も行いました。D: ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足した結果に学年間で20%以上の差がある設問

その結果は、Aに分類される設問が16(6.4%)、Bに分類される設問が4(1.6%)、Cに分類される設問が4(1.6%)、Dに分類される設問は0(0%)でした。A～Dのそれぞれに分類される設問については、次のとおりです。

A ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足すと全体で60%を超える設問

Table with 2 columns: 設問番号, 設問内容. Contains 23 items related to school improvement and student activities.

53

Table with 2 columns: 設問番号, 設問内容. Contains 6 items related to school improvement and student activities.

C ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足すと全体で40%を越えない設問

Table with 2 columns: 設問番号, 設問内容. Contains 6 items related to school improvement and student activities.

D ①(よくあてはまる)と②(ややあてはまる)を足した結果で学年で差が20%以上ある設問

Table with 2 columns: 設問番号, 設問内容. Contains 1 item related to school improvement and student activities.

3 結果の分析と検討

分類した設問項目から考えられることをあげてみました。

- 高校入学後のおこさまの成長の様子や高校生活に取り組まれている様子を全体として肯定的にとらえてくださっており、井原高校に通わせていることに満足していただいている部分も多いのではないかと考えられます。
教職員のおこさまへの対応や、本校の特色である教育課程上での工夫(多様な選択科目、習熟度別授業)については全体として肯定的にとらえてくださっているといえます。

4 むすび

アンケートを実施させていただいて、学校を一層開かれたものとする上でも、また保護者の方の御要望にお応えするためにも、そして本校の教育活動に一段の御理解を賜り、おこさまの成長を願ってその務めにあたらせていただくために、学校やおこさまの御理解を賜り、おこさまの成長を願って考えられます。少しでもそれにつながりますように、2学期には本校では、授業公開を実施する予定です。

http://www.ibara.okayama-c.ed.jp

VI 県立東備養護学校における実践事例

1 学校概要

本校は、昭和60年に開校された、県南東部2市(岡山、備前)、3郡(和気、赤磐、邑久)を通学区とする知的障害児の教育を行う養護学校である。現在、小学部(23名)、中学部(20名)、高等部(42名)に、合計85名の児童生徒が在籍しており、障害の状態も多様である。障害の特性から、主に「領域・教科を合わせた指導」により一人ひとりに応じた適切な指導を、実際の生活の中で具体的・实际的な場面を通して行っている。そして、教育効果を上げるために、保護者・地域との連携を維持・向上させるよう努めている。具体的には、地域の特性を生かした備前焼や農耕などを題材とした学習、隣接した古墳等の自然を活用した活動などがあげられる。また、企業などで実際に働く体験をする現場実習や、職業安定所との連携による充実した進路指導、地域の学校や文化活動との交流、地域を巡回しての作品展、地域の教育機関からの障害児教育に関する相談など、地域の関係諸機関との結び付きを大切にしている。

2 学校自己評価の基本的な考え方

(1) はじめに

本校では、これまで毎年度末に、教育課程及び校務分掌の反省を基に評価・改善を行うとともに、各行事の実施後にはその反省を行い、アンケートなどの結果を踏まえて、次年度の教育活動を充実させるよう努めてきた。

このたび、平成12・13年度の2年間にわたり県教育委員会から、「学校自己評価調査研究モデル校」として指定を受けた。このことを契機に、本校の教育活動をより客観的に評価し、その結果を学校教育の充実に関与するため、学校自己評価システムの設定とマニュアルの作成を目指した。そして、学校教育活動をこれまで以上にきめ細かく、総括的に自己点検・自己評価し、その評価結果を基に説明責任を果たすことにより、知的障害養護学校としての経営責任を明らかにし、保護者・地域住民等の信頼と協力を得て、本校の教育の充実・発展に役立てたいと考えた。

(2) ねらい

- ① 様々な面から学校をスクリーニングできる評価項目・内容や方法を設定し、本校の今日的な教育課題を明らかにし、より柔軟で適切な対応ができるようにする。
- ② 校務分掌が学校の運営組織として有効に機能し、全教職員が参画意識をもって取り組むことができるよう、本校の学校自己評価の実施マニュアルを作成する。
- ③ 学校自己評価を総合的に行うことができる評価の観点や項目等を設定し、数値的な処理システムを導入することにより、評価の客観性を高める。
- ④ 評価結果を説明し、外部の意見を聴取することにより、保護者や地域住民等の信頼と協力を得ることができるようにする。

3 学校自己評価の構想

(1) 推進体制及び組織の編成(資料VI-①)

① 学校自己評価委員会

ア 校務分掌上の位置付け

常設委員会(調査研究の期間中は、「学校自己評価調査研究委員会」として特設した。)

イ 構成

校長、教頭(4名)、事務長、教務主任(3名)…計9名

ウ 主な役割

- (7) 実施に関する基本計画を作成する。
- (4) 評価項目・内容の設定に関する原案を作成する。
- (9) 実施手順及び日程等を具体的に計画する。
- (6) 評価結果の分析、考察、まとめを行う。
- (4) 評価結果を基に、改善案を作成する。
- (8) その他、学校自己評価に関することに当たる。

② 学校自己評価に関する調査小委員会

ア 目的

学校自己評価を実施する際、教育活動等に関する外部の意見を聴取し、支援と協力を得る。

イ 構成

P.T.A役員、旧職員、地域住民等…若干名

③ 全体会

ア ねらい

全教職員が、学校自己評価の意義や必要性を認識し、参画意識を高めるとともに、その実施に関する流れや手順などについて共通理解する。

イ 具体的な方策

定例の職員会議において、学校自己評価の経過や進捗状況等の報告をしたり、職員研修として説明や意見交換を行ったりして、校内の協力・協働体制の基盤をつくる。

ウ 内容

- 学校教育目標、重点目標、経営方針等について(4月)
- 各校務分掌の重点の設定と形成的評価について(5月)
- 評価項目・内容の設定と評価票の作成について(7月)
- 学校全体・総合評価(総括的評価)の実施について(11月)
- 学部評価、校務分掌評価について(1月)
- 評価結果と改善案について(2月)
- 評価結果の活用と広報活動について(3月)

④ 事務局

ア 役割

- (7) 学校自己評価に関する原案を作成し、連絡・調整を行う。
- (4) 評価結果の集計、統計処理を行い、分析・考察のための基礎資料を作成する。

イ 構成

担当教頭、担当教務主任…2名

(2) 評価の計画と実施

① 評価票の作成

学校教育活動全体を総合的に評価する評価票と、校務分掌ごとに重点的・具体的に評価項目・内容を設定し、教育評価と経営評価の領域別に評価票を作成する。

ア 学校の教育課題に応じて年度当初設定する学校教育目標、教育の重点、経営の方針等の設定を受けて、各分掌・係別に具体的な評価項目・内容を重点的に設定する。

イ 評価対象者となる校務分掌ごとに設定した重点目標を踏まえて、評価項目・内容を設定する。

ウ 校務分掌評価では、共通する基本的な項目と独自の重点項目とを意識して設定する。

エ 評価結果から問題点や改善点が明確になるよう、自由記述欄を設定する。

② 評価票の記入と評価の実施

学校全体を総合的に評価して、その全体的な傾向から課題を把握する段階と、よりきめ細かく評価して課題を明確にする段階の二つの時期に分けて、段階的に実施する。

③ 評価結果集計と分析

評価結果の数値を統計処理し、その全体的な傾向を分析するとともに、自由記述の内容を参考にして課題を整理する。

(3) 評価結果の活用

① 改善案の作成

評価結果から、次年度の教育計画等に反映させるため、改善案を作成する。

② 結果の広報

評価結果を、学校教育活動の成果と課題という観点からまとめ、保護者や地域等に対して説明の機会を幅広く設定し、広報活動を活性化させる。

4 学校自己評価の具体的な内容

(1) 評価項目・内容及び評価実施対象者の設定 (資料VI-②)

- ① 学校全体評価〔評価票A〕…学校自己評価委員会の委員 (管理職用)
- ② 学校総合評価〔評価票B〕…全教職員<※無記名で実施>
- ③ 学部評価〔評価票C〕…学部の教育課程の係員
- ④ 校務分掌(教育)評価〔評価票D〕…校務分掌の委員・係員
- ⑤ 校務分掌(経営)評価〔評価票E〕…校務分掌の委員・係員
- ⑥ 外部の評価〔評価票F〕…小委員会の委員 (保護者・地域住民等)

(2) 評価基準の設定

- ① プロフィールによる4段階
 - 4 … よくあてはまる
 - 3 … ややあてはまる
 - 2 … あまりあてはまらない
 - 1 … まったくあてはまらない

※分からないときや判断できない場合は、空欄とする。

- ② 自由記述による各評価票に、それぞれ自由に記述できる欄を設定する。
- ③ 意見聴取による外部の意見聴取については、随時の聞き取りを中心に、外部の評価を行う。

(3) 評価実施時期の設定

- ① 11月下旬～12月上旬
学校教育活動全体を総合的・総括的に評価する。〔学校全体評価, 学校総合評価〕
- ② 1月下旬～2月上旬
各学部, 校務分掌単位に重点的・具体的に評価する。〔学部評価, 校務分掌評価〕
- ③ 学期に1回程度
学校自己評価に関する小委員会で、意見聴取によって評価する。〔外部の評価〕
- ④ 随時
学校行事実施の際, アンケート等で評価を行う。〔内部の形成的評価, 外部の評価〕

(4) 評価結果の集計及び統計処理

- ① 評価票の数値結果は、表計算ソフトによってグラフ化する。
- ② 自由記述欄の結果は、内容ごとにキーワードで分類し、課題別に整理する。

5 学校自己評価結果の活用

(1) 学校の方向性を明らかにし、教育課程の改善に生かす評価として学校の教育課題を明らかにして、教育目標等の設定や教育課程の改善に役立てる。(資料VI-③)

- ① 学校全体評価と学校総合評価結果の分析・考察を「学校自己評価委員会」で行う。
- ② 結果を全体会(職員会議)で全教職員に提示し、校務分掌評価の参考資料にする。
- ③ 一連の評価結果から教育課題を把握し、学校としての今後の教育の方向性を明らかにする。
- ④ 今後の教育課程の改善案を作成する。

(2) 次の教育活動に生かす評価として学校教育目標や教育の重点に対する各教育活動の達成状況を明らかにし、次の教育活動に生かすための教育課題を明確にする。(資料VI-④)

- ① 学部教育評価と校務分掌評価結果の分析・考察を「学校自己評価委員会」で行う。
- ② 学部及び校務分掌において、今後の教育課題を明らかにする。
- ③ 結果を全体会(職員会議)で全教職員に提示し、教育課題についての共通理解を図る。
- ④ 評価結果から、各校務分掌の次年度の改善案を作成する。

(3) 学校の説明責任を果たす評価として学校教育目標等の達成状況を明らかにして、保護者や地域住民との連携を深め、その信頼と協力を得る。

- ① 学校自己評価の結果を「学校自己評価委員会」でまとめる。
- ② 学校教育活動の成果と課題を、全体会(職員会議)で共通理解する。
- ③ 「情報公開検討委員会」において、広報する内容の検討をする。
- ④ 学校教育活動について、保護者や地域等へ説明と広報活動を行う。

〔具体的な場面〕

- ア 「学校自己評価に関する小委員会」において説明する。
- イ 毎年度当初の参観日, PTA行事等で「本年度の学校教育」の説明に盛り込む。
- ウ 学校公開事業等における「本校の教育について」の説明に活用する。
- エ 毎学期末に発行している学校広報紙「とうび」やPTA広報紙「あかまつ」に、学校教育活動についての説明や学校自己評価結果について、公表する機会を設定する。
- オ インターネット・ホームページを更新する際、構成する内容に盛り込む。
- カ 学校紹介リーフレット「とうびようごのしおり」に反映させる。

6 成果と課題

(1) 推進体制及び組織

① 学校自己評価委員会

2年間の指定事業においては「学校自己評価調査研究委員会」を特設し、学校自己評価推進の中心的な役割を担ってきたが、学校自己評価を本格的に導入する平成14年度からは、特別委員会として「学校自己評価委員会」を常設する。本委員会は学校自己評価を実施する上で中心的な役割を果たし、学校自己評価に関する多くの事柄を検討するため、年間にわたって計画的に開催する必要がある。また、検討する内容は学校教育の基本的な方向性や、各学部・校務分掌の細部にわたる。したがって、その構成員については、校内分掌組織の編成の際、十分に配慮することが大切である。

② 学校自己評価に関する調査小委員会

調査小委員会は学校自己評価委員会に属する組織であり、学校自己評価結果についての説明を行うとともに、学校教育活動についての意見を聴取する場となる。また、構成員は保護者・地域住民等とのパイプ役として期待できる。したがって、平成14年度から本格的に導入される「学校評議員制度」と類似した機能をもつものである。

今後は、この小委員会の機能を充実・発展させて「学校評議員制度」に位置付けるようになると、外部評価としての機能を十分に果たすこともできると考えられる。

③ 全体会(職員会議)

学校自己評価の実施により、学校教育活動を活性化させるためには、評価活動が形式的になつたり形骸化したりしないよう、学校自身の内部努力による自己教育力の向上が必要となる。また、常に組織として自らの取組みを謙虚に振り返り、全教職員が学校自己評価の意義や機能について共通理解し、評価結果が今後の教育活動に生かせるようにすることが大切である。そのためには、評価の各段階に全体会を位置付けて、学校全体で確認し合うことが求められる。

④ 事務局

事務局担当者は、「学校自己評価委員会」の委員の中から選出される。学校自己評価推進の条件整備を担う事務局担当者は、複数の配置が望まれる。本校では担当教頭と担当教務主任の各1名にしている。評価結果の集計・統計処理は情報機器で行うため、情報教育係との連携も大切になる。今後の評価票の改善・改良に伴い、より簡便に処理できる集計方法を考案する必要がある。

(2) 学校自己評価の内容 (資料VI-⑤)

① 評価票の作成 (資料VI-⑥)

本校において様式として作成した評価票は、A～Eの5種類である。〔評価票A・B〕は、学校全体の総合的な総括評価を行うため、網羅的に定型化した評価項目と、抽象的な内容の

設定となった。

学校全体評価票〔評価票A〕(資料VI-⑦)の領域は、校務分掌組織と関連付けられたものとなる必要がある。また、観点については学校経営の方針等との整合性を図ることが大切である。

学校総合評価票〔評価票B〕(資料VI-⑧)の評価内容は、本来、年度当初各校務分掌が設定した重点目標・課題を反映したものにする必要がある。

学部評価〔評価票C〕、校務分掌(教育)評価〔評価票D〕、校務分掌(経営)評価〔評価票E〕は同じ様式(資料VI-⑨)で作成している。いずれも年度当初設定した重点目標及び課題を基に、焦点化した具体的な評価項目・内容を目指しているため、この設定作業そのものも評価の対象となる。よりの確な評価項目・内容を具体的に設定し、組織として客観的な評価を実施することは、外部への説明責任を果たす意味からも、今後更に重要になってくる。

〔評価票F〕として設定した外部評価については、主に聞き取りによる意見聴取を想定しているため、現在の段階では様式としては作成していない。

学校行事などの事後に行っている形成的評価は、各担当者が適宜作成した項目で実施し成果と課題に整理して、改善すべき事項を引き継ぐよう配慮している。この結果の累積されたものをどのように学校自己評価に生かすことができるかは、今後の課題である。

② 実施時期

本校では11～12月期と1～2月期の2段階で評価を実施することにした。まず、学校全体・総合評価で学校全体の傾向を総括的に把握し、その結果を踏まえて各学部及び校務分掌評価を行うことで、より焦点化した取組みにしたいと考えた。

従来から年度末に実施していた「教育課程及び校務分掌の反省」と、1～2月期に行う評価とをいかに円滑に結び付けるかという点が今後の課題である。

③ 集計・分析・考察等

数値的な評価結果の集計から統計処理までは、表計算ソフトの機能を活用し、評価結果の平均値をレーダーチャートなどにグラフ化して、全体的な評価結果の傾向を把握した。

自由記述欄はキーワードによる集計・分類から課題を整理し、学校自己評価委員会で考察を行うことになるが、集まった意見が多岐にわたる場合はまとめる作業がたいへん煩雑である。あらかじめ、数値的な評価結果を参考にして、方向性をもって整理することが大切である。考察を行う際、外部の評価との関連付けが今後の課題となると考えられる。

7 まとめ(資料VI-⑩)

(1) 学校自己評価の意義

個性的で特色のある教育活動を進め、開かれた学校づくりを目指すには、校務分掌組織や運営体制を改善したり、教育活動を見直したりするための、学校の実態に即した学校自己評価の実施とその結果活用が大切である。

学校自己評価を学校に定着させるためには、①学校評価とは何か、②学校自己評価はなぜ必要か、③学校自己評価は「いつ、どこで、誰が、何を、どのように」行うか、④評価結果をどのように生かすかなどの様々な点について毎年度検討を深めることが必要である。

(2) 推進組織・体制について

学校自己評価は、校務分掌としての「学校自己評価委員会」が中心となって取り組むことになるが、取組に当たっては全教職員の学校自己評価についての理解と認識を深め、校務分掌ごとに組織的に協力・協働体制を確立することが重要である。そのためには、教職員の意識付けを図るための校内研修等を計画的に実施したいと考える。

(3) 評価票の作成について

今日的な学校の状況や教育課題に対応するためには、学校自己評価の評価項目を設定する際、評価の観点や内容を、どのように構成するかという点が大変重要になる。

また、教職員一人ひとりがいかに学校運営に参画し、校務を分担して職務を遂行しているか

という意識に立つことができるかということが、学校を自己点検・自己評価する上で大切である。

したがって、評価票を作成する段階では、年度ごとに全教職員によって評価内容を加除修正するなどの検討を行う体制をつくりたい。

(4) 評価結果の活用について

学校自己評価結果を集計・処理、分析・考察、課題の分類・整理、まとめ、改善案の作成、次年度の教育計画への反映など、その活用までの過程には多くの段階がある。これらの各段階に教職員が分担して協力体制により参画することが、学校自己評価の取組みを校内に定着させる上で重要なことであると考えられる。自分で課題を設定し、自ら作成した評価票を使って自己評価・点検することは、評価結果を活用する段階でより深い意味をもたせることができる。

評価結果は考察の後、各校務分掌の活動に生かすことができるとともに、学校の運営組織として総合的に見直しや改善を図ることができるよう、具体的な改善案や改善計画を見直しをもって作成することが大切である。

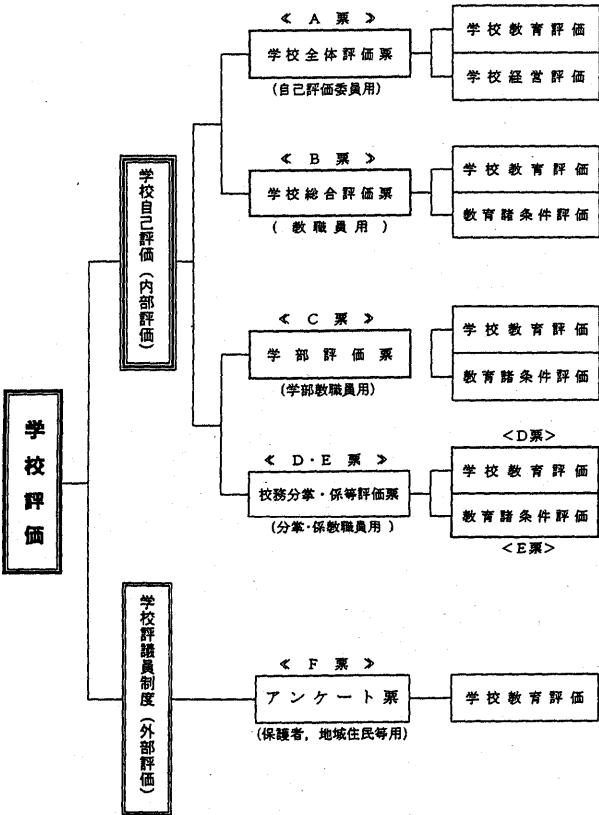
これらの点を考慮しながら、学校広報紙、インターネットの学校ホームページ、学校紹介一フレット、PTA広報紙など及び学校教育を説明する実際的な場面において、それぞれの学校自己評価結果を活用することにより、学校としての説明責任を果たすことができると考える。

(5) その他

外部評価として行う保護者・地域住民等からの意見聴取や、学校自己評価と学校評議員制度との関連については、学校や地域の実情・実態に応じた制度の運用の在り方を検討することが必要である。今後とも、県教育委員会と連携を取りながら本校教育の充実と発展に努めたい。

学校自己評価項目の設定と評価票の作成について

学校自己評価委員会

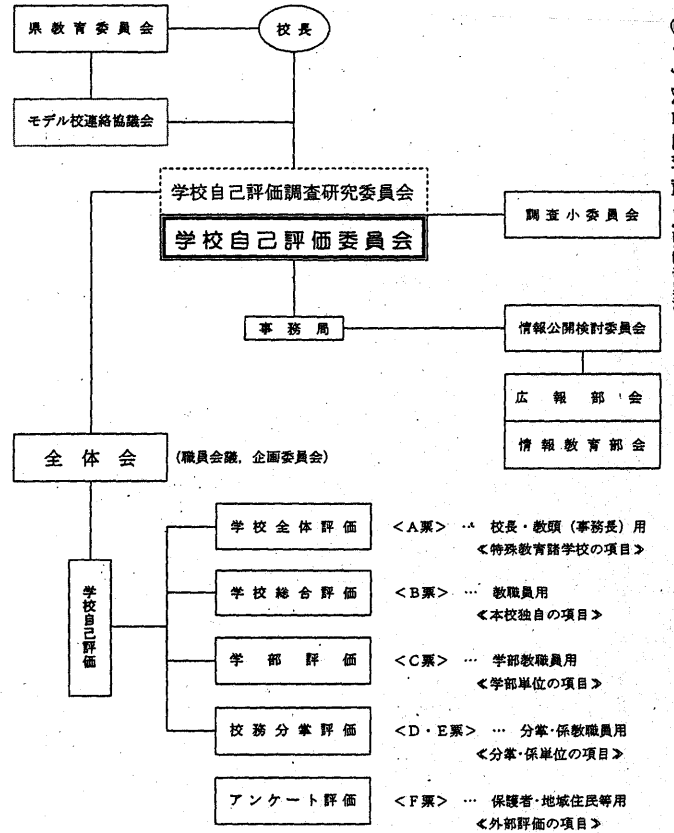


資料VI-②: 評価項目・評価票の作成

平成13年度

「学校自己評価」推進組織

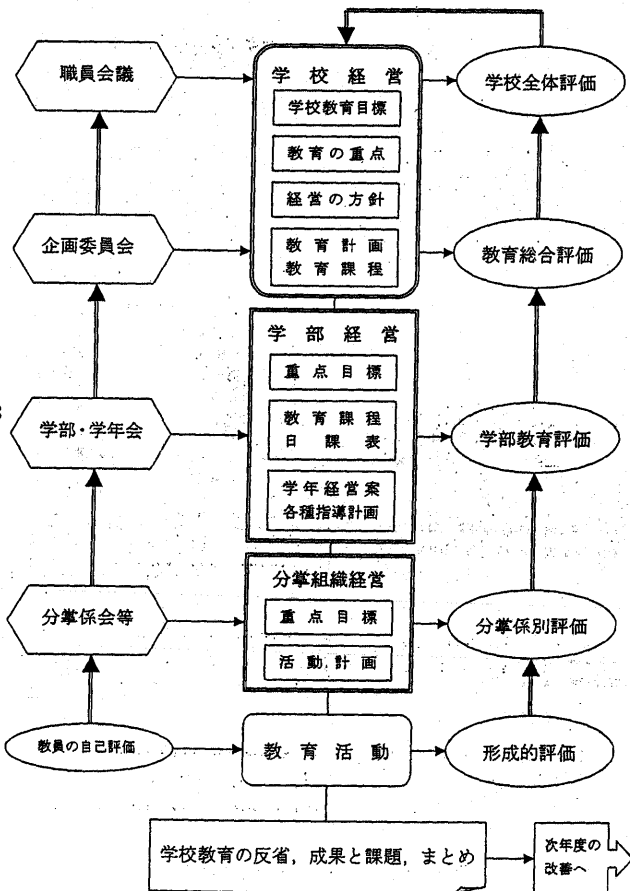
岡山東立東備養護学校



資料VI-①: 学校自己評価の推進組織

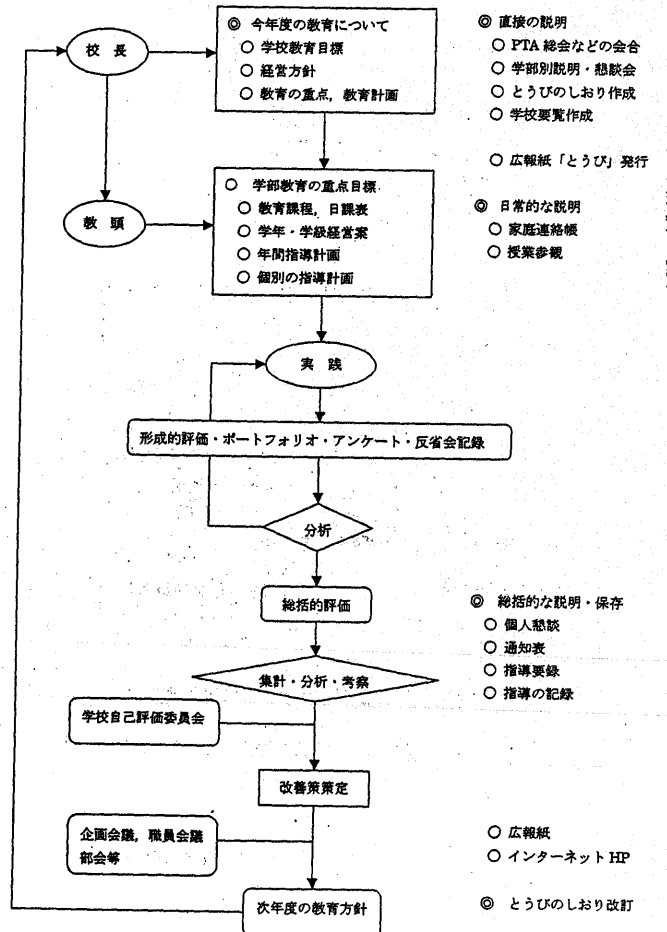
学校自己評価結果の学校運営への反映

岡山東立東備養護学校

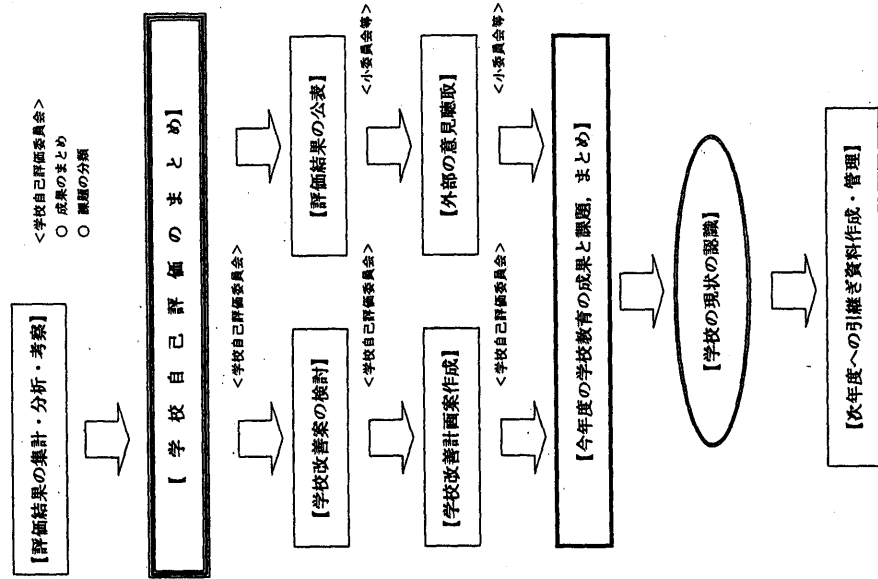


資料VI-④: 評価結果の活用

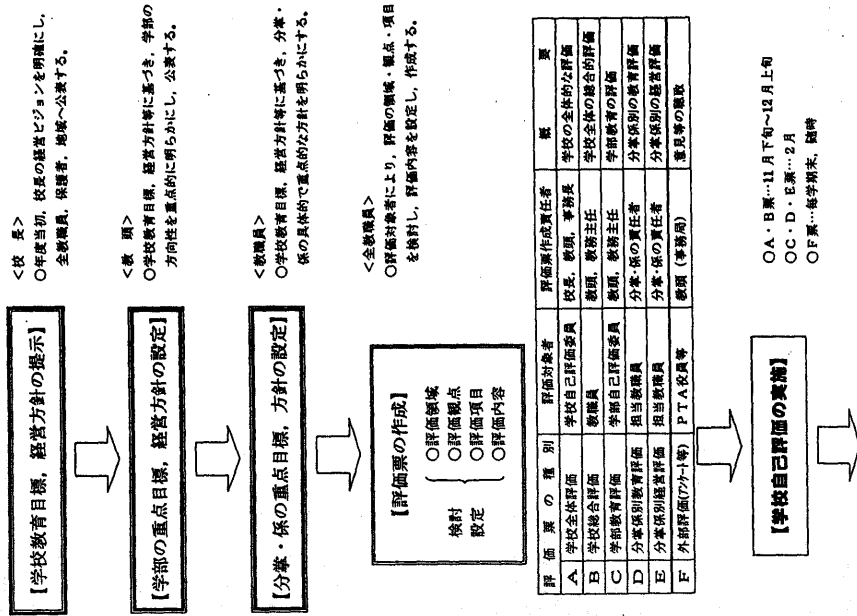
< 学校自己評価の流れ >



資料VI-③: 学校自己評価の流れ



「学校自己評価実施の流れ」



評価票の種類	評価対象者	評価原作成責任者	概要
A. 学校全体評価	学校自己評価委員	校長、教頭、事務長	学校の全体的な評価
B. 学校総合評価	教職員	教頭、教務主任	学校全体の総合的評価
C. 学部教育評価	学部自己評価委員	教頭、教務主任	学部教育の評価
D. 分業別教育評価	担当教職員	分業、係の責任者	分業別別の教育評価
E. 分業別別種教育評価	担当教職員	分業、係の責任者	分業別別の経営評価
F. 外部評価(7ヶ1等)	P.T.A.役員等	教頭(事務長)	意見等の聴取

OA. B票...11月下旬~12月上旬
 OC. D・E票...2月
 OF票...毎学期末、随時

評価票	領域	項目	分類番号		
A学校全体評価 B学校総合評価	1学校経営	1教育目標	AB	1	1
		2経営方針	AB	1	2
		3重点目標	AB	1	3
	2組織運営	1校務分掌	AB	2	1
		2学部経営	AB	2	2
		3学年・学級経営	AB	2	3
		4職員会議	AB	2	4
		5各種委員会	AB	2	5
		6各種会議等	AB	2	6
	3研究・研修	1校内研究	AB	3	1
		2校内研修	AB	3	2
3現職研修		AB	3	3	
4教育課程	1実態把握	AB	4	1	
	2指導計画・形態	AB	4	2	
	3教育実践、教材・教具	AB	4	3	
	4評価	AB	4	4	
5学習指導	1自立活動	AB	5	1	
	2道徳教育	AB	5	2	
	3特別活動	AB	5	3	
	4生徒指導	AB	5	4	
	5進路指導	AB	5	5	
	6人権・同和教育	AB	5	6	
6保健・安全	7就学・教育相談	AB	6	0	
	8PTA・地域社会連携	AB	7	0	
	9文書管理	AB	8	0	
	10施設・設備	AB	9	0	
	11経理事務・会計	AB	10	0	
	C学部評価	1小学部の教育	C	1	0
		2中学部の教育	C	2	0
		3高等部の教育	C	3	0
	D教育課程に関する分業の評価	1教育課程	D	1	0
		2特別活動	D	2	0
		3生徒指導	D	3	0
4進路指導		D	4	0	
5自立活動		D	5	0	
6人権・同和教育		D	6	0	
7学習指導		1交流教育	D	7	1
		2図書館教育	D	7	2
		3視覚教育	D	7	3
		4情報教育	D	7	4
	5学校体育	D	7	5	
8保健・安全	1学校保健	D	8	1	
	2学校安全	D	8	2	
	3学校給食	D	8	3	
9研究・研修	1校内研究	D	9	1	
	2職員研修	D	9	2	
10実行委員会	1運動会	D	10	1	
	2学習発表会	D	10	2	
	3収穫祭	D	10	3	
	4卒業式	D	10	4	
	5紹介・作品展	D	10	5	
E教育諸条件に関する分業の評価	1総務・教務	1就学・教育相談	E	1	1
		2介護等体験	E	1	2
		3学校公開	E	1	3
		4初任者研修	E	1	4
	2庶務	1調査・統計	E	2	1
		2スクールバス	E	2	2
		3広報	E	2	3
		4福利・厚生	E	2	4
		5環境美化	E	2	5
	3渉外	5掲示	E	2	6
		1PTA	E	3	1
		2参観日	E	3	2
4各種委員会	3同窓会	E	3	3	
	1常設委員会	E	4	1	
	2特別委員会	E	4	2	
	3その他委員会	E	4	3	

資料VI-⑦: 学校全体評価票[学校全体のスクリーニング]

岡山県立東備養護学校

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
1	教育目標の設定・具現化	1	教育目標は憲法・教育基本法、学習指導要領等に応える教育目標の設定になっている。		1 2 3 4	
		2	教育目標の設定に当たっては、児童生徒及び地域の実態を考慮して策定している。		1 2 3 4	

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
2	経営方針・重点目標	3	学校教育目標に応える、経営方針・重点目標の設定となっている。		1 2 3 4	
		4	本校の今日的な課題を明確にし、学校の改善を図るよう、学校経営の方針を示している。		1 2 3 4	
		5	学校経営の方針をもとに、本年度の重点目標を教職員に徹底を図っている。		1 2 3 4	
		6	それぞれの教育計画作成段階で、評価基準・項目を設定し、本年度の重点目標の達成状況を点検している。		1 2 3 4	

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
3	組織運営・校務分掌	7	職員会議の招集・開催・実施に当たっては、定められた手順・手続きにしたがって、適正に行っている。		1 2 3 4	
		8	前年度の評価結果に基づき、本校の課題に対応できる組織運営機構になっている。		1 2 3 4	
		9	校務の分担は校長が定め、分担内容・処理方法等を明確にしている。		1 2 3 4	
		10	校務は職員の能力・適性等を生かし、分掌相互の連携を密にして実施している。		1 2 3 4	
		11	校務分掌組織相互の連携により、意見を十分検討・調整し円滑に進めている。		1 2 3 4	
		12	各校務分掌の活動の資料・記録を適切にまとめ、組織的・計画的に評価を行い、改善・充実を図っている。		1 2 3 4	
13	教職員の健康・安全に配慮がなされている。		1 2 3 4			

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
4	研究・研修	14	教育目標の具現化に向けた研究主題を設定し、創意工夫した計画を作成している。		1 2 3 4	
		15	個々の教育的ニーズに沿って授業研究等を進め、指導力の向上、児童生徒の学習活動に関する研修を深めている。		1 2 3 4	
		16	研修実施においては、計画的に時間を確保し、分掌・係がその機能を発揮している。		1 2 3 4	
		17	教育センターや公的各種研修会等へ積極的に参加し、資質を高め、研修成果を教育実践に生かしている。		1 2 3 4	
		18	研究会や研修会、講座セミナー等の情報は、職員に伝達・理解されるようにしている。		1 2 3 4	
		19	研修実施についての評価のもと、成果や課題を明確にして、改善・充実を図っている。		1 2 3 4	

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
5	教育課程(編成と実施の大綱)	20	児童生徒一人一人の教育ニーズに合わせて、前年度の評価結果を生かした教育課程を編成している。		1 2 3 4	
		21	(領域・教科を合わせた指導のもとに)内容を精選し、基礎的・基本的な内容が身につくよう実践している。		1 2 3 4	
		22	全教育活動を通して、児童生徒の体力の向上及び健康の保持・増進に関する指導を進めている。		1 2 3 4	
		23	言語についての意識や関心を高め、言語環境を整え、児童生徒の言語活動が適正に行われるよう務めている。		1 2 3 4	
		24	体験的な学習を重視し、児童生徒の興味・関心を深めるよう、自主的・自発的な学習を促している。		1 2 3 4	
		25	個に応じた指導を積極的にを行い、その工夫・改善に務めている。		1 2 3 4	
		26	年間指導計画、個別の指導計画を活用し、具体的に授業に生かしている。		1 2 3 4	
		27	視聴覚・情報機器等や教材・教具を活用して、学習の効果を高める工夫・改善をしている。		1 2 3 4	
		28	教育課程の実施状況を点検・調整して、その改善と充実にも務めている。		1 2 3 4	

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
6	学習指導	29	教育的ニーズに応じて、学習指導要領に基づき学習形態ごとに、単元・題材の目標・内容を設定し、年間指導計画を作成している。		1 2 3 4	
		30	児童生徒の実態把握に努め、それぞれの学習活動について、観点別・視点ごとに学習状況の評価を行っている。		1 2 3 4	
		31	ゆとりの中で特色ある教育を展開する観点から、指導内容の重点化・精選化を図り、問題解決的な学習やITによる授業を工夫・改善し進めている。		1 2 3 4	
		32	指導内容や指導方法について自己評価をし、適宜部会や学年会・係会等で検討し、次の指導に生かしている。		1 2 3 4	

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
7	自立活動	33	自立活動の方針を明示し、全教職員の正しい理解と協力のもとに指導に当たっている。		1 2 3 4	
		34	個々の教育的ニーズを明確にし、適切な指導計画を作成し、小・中高の一貫性を図りながら、実践している。		1 2 3 4	
		35	保護者との連携を深め、個々の実態的確な把握により、指導内容・方法の工夫・改善を図っている。		1 2 3 4	

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
8	道徳教育	36	児童生徒の実態に即して、道徳実践を促す道徳教育を全教育活動を通して推進している。		1 2 3 4	
		37	道徳実践力に関する指導力の向上を目指して、教職員研修の充実を図っている。		1 2 3 4	
		38	ボランティア活動や自然体験学習などの豊かな体験を通して、児童生徒の内に根ざした道徳性の育成に努めている。		1 2 3 4	

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
9	特別活動	39	他領域・教科との関連を図った全体計画及び年間指導計画を作成し、それぞれの内容について目標を明確にし、指導の重点化を図っている。		1 2 3 4	
		40	学校生活の向上・充実を図り、当面する諸課題への効果的な対応の観点から、学級の活動を総合的に行っている。		1 2 3 4	
		41	集団活動を通して、小中学校及び地域社会との連携や交流を行い、経験を広げたり人間関係を深めたりしている。		1 2 3 4	
		42	児童生徒の実態に即して、自主性を高める観点から、活動内容を創意工夫している。		1 2 3 4	

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
10	生徒指導	43	生徒指導の全体計画を作成し、教職員の組織的な連携体制のもと、計画的な指導をしている。		1 2 3 4	
		44	学級担任や生徒指導係等による教育相談を計画的・組織的にを行い、生徒指導上の課題へ適切な対応をしている。		1 2 3 4	
		45	家庭、地域社会や関係諸機関との連携のもと、児童生徒の健全育成に向けた取組みを行っている。		1 2 3 4	
		46	生徒指導に関する研修を深め、教育相談などの今日的な課題へ対応する力を高めている。		1 2 3 4	

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
11	進路指導	47	個に応じた相談活動、実習等の体験的学習を充実し、目的意識を高める指導を行っている。		1 2 3 4	
		48	学部・学年・学級における進路指導体制を確立し、計画的・継続的な指導を行っている。		1 2 3 4	
		49	個々の能力・適性、興味・関心等を的確に把握し、将来の進路の見通しを本人・保護者・教師が明確にし、指導内容・方法の工夫・改善を図っている。		1 2 3 4	

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
12	人権・同和教育	50	岡山県「同和教育基本方針」をふまえた同和教育推進計画を作成し、課題を明確にして取り組んでいる。		1 2 3 4	
		51	児童生徒の実態を的確に把握し、人権学習、進路保障、集団づくりなどの指導の視点を明確にしている。		1 2 3 4	
		52	出身校園・関係諸機関、PTA・保護者や地域との連携を図りながら取り組んでいる。		1 2 3 4	
		53	発達段階に即した指導と、校園種間の連携を図り、適切な進路選択と実現のためのきめ細かい指導を行っている。		1 2 3 4	
54	日常的に系統的な研修をし、教職員の認識を深め、指導力の向上を図っている。		1 2 3 4			

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
13	保健・安全	55	保健・安全に関する推進体制を整え、指導目標や方針を明示するとともに、児童生徒の実態に即した全体計画を作成している。		1 2 3 4	
		56	児童生徒の実態把握をもとに、個々のニーズに応じた体力・運動能力の向上を図っている。		1 2 3 4	
		57	生命の尊重や人権尊重を基盤に、健康教育・性教育を合わせた指導のなかで進めている。		1 2 3 4	
		58	事故・災害等の実態を把握し、地震防災安全に関する予防と管理の徹底を図っている。		1 2 3 4	
		59	個に応じた望ましい食生活・食習慣の形成や、好ましい人間関係を育てる工夫をしている。		1 2 3 4	

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
14	就学・教育相談	60	就学・教育相談に関する校内体制を整備し、幅広い広報活動を行っている。		1 2 3 4	
		61	地域や保護者のニーズに応じて、早期からの適切な相談活動ができている。		1 2 3 4	
		62	相談者のニーズに応じて、障害児教育の専門家としての立場で、見直しを与える助言ができている。		1 2 3 4	
		63	地域の障害児教育センターの役割を果たせるよう、地域の関係諸機関との連携をとっている。		1 2 3 4	

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
15	PTA・地域社会	64	教育目標や学校の経営方針を、機会をとらえて知らせ、保護者や地域社会の学校への願いや期待等を的確に把握している。		1 2 3 4	
		65	学校はPTA活動の内容等について、保護者との共通理解が図られている。		1 2 3 4	
		66	学校の教育目標の具現化に向けて、PTAや各種関係機関との連携・協力を進めている。		1 2 3 4	
		67	児童生徒の健全育成等のため、地域の関係機関等との交流や情報交換、教育資源の活用をしている。		1 2 3 4	
		68	児童生徒が地域の諸活動に参加するよう促すなど、連携を進めている。		1 2 3 4	

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
16	文書管理	69	文書の作成、分類整理、保管等については、規程に基づいて適正に処理している。		1 2 3 4	
		70	事務職員等と適切に連携して、文書処理のシステムを確立している。		1 2 3 4	
		71	プライバシー等に関わる個人情報の保護については、その取り扱いを適正にしている。		1 2 3 4	
		72	周知を要する文書・報告等は、分類後速やかに伝達され、周知徹底するようにしている。		1 2 3 4	

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
17	施設・設備	73	教材・教具等を有効に活用し、使用後の整理や保管・管理を適切に行っている。		1 2 3 4	
		74	校内内外の施設・設備の点検を定期的に行い、適切に安全管理をしている。		1 2 3 4	
		75	社会教育等に、本校の施設・設備の提供を行っている。		1 2 3 4	
		76	校内の施設・設備等の使用については、連絡と調整を行い、(規程に基づき)適切に行っている。		1 2 3 4	

No.	領域	No.	観	点	プロフィール	改善点等
18	経理事務・会計	77	保護者から徴収した金銭の経理は、保護者負担の軽減配慮のもと、年間を通じて計画的に進めている。		1 2 3 4	
		78	学校・学部・学年(学級)等の会計を正確に処理し、関係書類を適切に保管している。		1 2 3 4	
		79	児童生徒の補助教材や学習用品の購入に当たっては、(規則に沿って)手続きを適正に行っている。		1 2 3 4	
		80	児童生徒の教育的ニーズを考慮し、将来を見通して学校全体を視野に入れた備品等の購入となっている。		1 2 3 4	
		81	購入物品の保管・管理を適切に行い、教材・教具としての有効な活用に努めている。		1 2 3 4	
		82	円滑な事務処理ができるよう、教職員は保護者や事務担当者との連携を保っている。		1 2 3 4	

資料VI-⑧：評価票(教職員用)

学校総合評価票[教職員用]

No.	領域	評価項目	評価内容	プロフィール
1	教育課程等の学校の教育活動に関する評価	実態把握	児童生徒の実態把握を的確に行っている。	4 3 2 1
2		教育計画	各年度の教育計画作成に当たっては、教職員で話し合っている。	4 3 2 1
3		教育的ニーズ	本校の教育活動は、児童生徒や保護者のニーズに合っている。	4 3 2 1
4		教育課程の編成	学習指導要領の趣旨を生かし、児童生徒の実態を考慮した教育課程の編成ができている。	4 3 2 1
5		指導計画の作成	年間指導計画・個別の指導計画の作成に当たって、教職員で話し合っている。	4 3 2 1
6		評価の活用	教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。	4 3 2 1
7		個々の指導課題	指導に当たっては、個々の指導課題を明確にしている。	4 3 2 1
8		体験的学習の重視	児童生徒の実態を踏まえ、体験を重視した学習指導を行っている。	4 3 2 1
9		学習形態	個別学習やグループ学習など、学習形態の工夫・改善を行っている。	4 3 2 1
10		興味・関心	個に応じた視点で、一人ひとりの興味・関心を考慮した指導を行っている。	4 3 2 1
11		評価	評価の在り方や、指導記録の取り方について話し合っている。	4 3 2 1
12		生徒指導	児童生徒の実態を踏まえ、きめ細かな配慮による生徒指導を行っている。	4 3 2 1
13		安全教育	安全に配慮して、組織的に対応できる危機管理体制が整っている。	4 3 2 1
14		早期指導	問題行動の防止などのために、早期指導に努めている。	4 3 2 1
15		相談活動	保護者に対する相談体制が整備されている。	4 3 2 1
16		連携	生徒指導に関して、家庭・地域・関係諸機関との緊密な連携ができている。	4 3 2 1
17		進路指導	児童生徒個々が将来の生き方の選択や決定ができるよう、系統的な進路指導を行っている。	4 3 2 1
18		IT	学年・学級経営の改善に、ITのよさを生かして取り組んでいる。	4 3 2 1
19		魅力ある学校	学校・学部行事が児童生徒にとって、魅力あるものとなるよう創意工夫している。	4 3 2 1
20	道徳教育	児童生徒に、社会規範や市民道徳を守る意識が育つよう配慮している。	4 3 2 1	
21	ボランティア活動	奉仕等の体験的な学習やボランティア活動を取り入れた指導に努めている。	4 3 2 1	
22	人権教育	人権尊重の精神を育む様々な学習課題や指導方法について、全教職員で話し合っている。	4 3 2 1	
23	同和教育	差別や偏見のない社会の実現を目指して、主体的な生き方を学習できるようにしている。	4 3 2 1	
24	教育目標等	学校の教育目標、経営方針、重点目標についての考え方が、明確にされている。	4 3 2 1	
25	校務分掌	校務分掌・係などの分担と、責任の所在が明らかにされている。	4 3 2 1	
26	係間連携	各分掌・係や学部・学年間の連携が円滑で、有機的に機能している。	4 3 2 1	
27	各種会議	職員会議を始めとする各種会議が円滑に運営され、有効に機能している。	4 3 2 1	
28	相互理解	教職員の相互理解による信頼関係に基づき、気軽に相談し合える人間関係ができている。	4 3 2 1	
29	職員	職員相互の情報の流れが円滑で、協力体制ができている。	4 3 2 1	
30	危機管理	事件・事故・災害等に対して、迅速かつ適切な対処方法がマニュアル化されている。	4 3 2 1	
31	運営面等	児童生徒の学習の場にあわせた教育環境の設定と、環境美化がなされている。	4 3 2 1	
32	施設・設備	施設・設備の改善については、長期的な見通しにより計画されている。	4 3 2 1	
33	安全点検	施設・設備について、日常的・定期的な保守・点検、整備がなされている。	4 3 2 1	
34	購入	備品や教材教具は計画的に購入され、十分に活用されている。	4 3 2 1	
35	情報・視聴覚機器	コンピュータ機器・視聴覚機器は整備され、十分に活用されている。	4 3 2 1	
36	校内研修	校内研修組織が機能し、計画的に研修を実施している。	4 3 2 1	
37	校外研修	出張による校外研修に、計画的に参加する体制が整っている。	4 3 2 1	
38	研究・研修	校内研究の内容は、教育実践に役立つものとなっている。	4 3 2 1	
39	授業研究	教員間で授業方法等について、検討する機会を積極的にもっている。	4 3 2 1	
40	出張報告	研修・研究会、各種講座等に参加した成果を、他の教職員に広げる機会が設けられている。	4 3 2 1	
41	文書管理	公文書や各種案内等の文書の取受、発送、保管に関する管理が十分にできている。	4 3 2 1	
42	文書事務	公文書の発行や、決裁にいたる円滑なシステムが設定できている。	4 3 2 1	
43	公文書	指導要録等の公文書の記入・点検・保管が適正に行われている。	4 3 2 1	
44	個人情報管理	児童生徒の個人情報に関する管理システムが、個人情報保護の観点から確立されている。	4 3 2 1	
45	情報収集・活用	教育活動に関する情報を積極的に収集・管理し、教職員や児童生徒、保護者へ周知している。	4 3 2 1	
46	地域交流	保護者や地域の人々との交流の機会を、積極的に設定するよう努めている。	4 3 2 1	
47	関係諸機関連携	近隣の学校、関係諸機関との連携の機会を設け、教育活動に生かしている。	4 3 2 1	
48	センター的役割	地域の障害児教育の、センター的役割を積極的に果たしている。	4 3 2 1	

教育課程に関する分掌の評価票

分類番号	D-1-0	領域名	1 教育課程	担当	
------	-------	-----	--------	----	--

【重点目標及び課題】

- 基礎・基本の重視と指導内容の精選
- 児童生徒の実態に即した学習形態の工夫
- 小中高の指導の一貫性
- 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた教育課程の編成

【共通評価項目】

No.	評価項目・内容	プロフィール
1	前年度の評価結果を生かしている。	4 3 2 1
2	児童生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえている。	4 3 2 1
3	児童生徒の実態に即している。	4 3 2 1
4	個々の教育課題を明確にして、教育計画を作成している。	4 3 2 1
5	教育計画について共通理解を図っている。	4 3 2 1
6	小中高の指導の一貫性を図っている。	4 3 2 1
7		4 3 2 1
8		4 3 2 1
9		4 3 2 1
10		4 3 2 1

【独自評価項目】

No.	評価項目・内容	プロフィール
1	基礎・基本を重視し、指導内容の精選を図っている。	4 3 2 1
2	適宜、形成的評価を実施している。	4 3 2 1
3		4 3 2 1
4		4 3 2 1
5		4 3 2 1

【成果と課題】

【改善案】

学校自己評価及び調査研究全体計画（構想図）

